

二二 鹽專賣ニ關スル質問

七六〇

一 鹽ノ專賣ハ當初品質ノ改良ト財政關係トニ基キ且國庫ノ收入ヲ目的トセリ其ノ後收入主義ヲ一擲シ之ニ代フルニ非常ノ場合内地產食鹽ノ自給自足ヲ期スルノミナラス配給ノ圓滑ト價格ノ統一トヲ眼目トシ以テ今日ニ至レルモノト認ム然ルニ現下諸般ノ狀況ニ照セハ鹽專賣ノ必要性ハ著シク減殺セラレタルモノノ如シ此ノ故ニ依然鹽專賣ヲ續行スルハ時勢ニ適應セス最近ニ於テハ政府ノ之ニ對スル處置モ亦專賣廢止ヲ前提トスルニ非スヤトノ疑ヲ抱カシムルモノアリ政府ハ鹽專賣廢止ノ意思ナキカ

二 内地產鹽ニ對シテ政府ハ昨年七月ヲ以テ向八箇年ヲ期シ其ノ賠償價格金一圓引下ケノ聲明ヲ發シタリ當局ハ爾來當業者トノ間ニ種々折衝中ノ處昨年十二月末ヲ以テ昭和十二年度ニ適用スヘキ内地鹽ノ賠償價格ヲ大幅金二十錢引下クヘキ旨發表シ當業者ヲ驚駭セシメタリ軌近ニ於ケル一般物價ハ騰貴ノ趨勢ニ在リ勞銀モ亦上昇ノ傾向ヲ辿ルニ非スヤ此ノ時ニ當リテ單リ鹽價ノ引下ケヲ敢行スルハ逆流ニ棹サスノ類ニシテ適切穩當ノ舉ト謂フヲ得ス從テ政府ノ執レル態度ハ確的ニ内地鹽ノ生産ヲ壓迫シ斯業ヲ萎縮セシムルノミナラス當業者ヲシテ苦痛ヲ嘗メ甚シキニ至リテハ破産ニ陥ラシメ一方ニ於テハ從業者ノ生活ヲ脅威ス斯ル狀態ヲ以

テ推移シタラムニハ遂ニ特殊ノ一大產業ヲ廢滅ニ導クノ虞ナシトセサルナリ而モ尙鹽價引下ケノ舉ニ出ツル理由及其ノ影響ニ對スル政府ノ所見如何

三 政府ハ北支那就中長蘆ノ價格低廉、在貨豐富ナル產鹽ヲ内地ニ輸入スルニ決シタルノミナラス既ニ實行ノ端緒ヲ啓キタルカ如シ其ノ經過ト内容トニ付テ詳細ナル説明ヲ望ム又此等外鹽ノ輸入ハ專賣局カ軍部ノ強要的主張ト購買ノ斡旋盡力トニ加フルニ内閣調査局ノ軍部迎合ニ基因シ遂ニ如上ノ舉ニ出ツルノ外ナキニ至レルモノナリト聞ク事實果シテ如何尙内地鹽賠償價格ノ引下ケハ如上外鹽輸入ニ起因スルモノニ非スヤ政府ハ之カ爲ニ内地製鹽業ヲ壓迫シ其ノ產額ノ漸減ヲ招致スルモ已ムヲ得スト思考スルカ

四 鹽專賣ニ關スル施設經營ノ如何ハ雷ニ製鹽業者及其ノ從業員ノ利害ニ關スルノミニ止ラス鹽田所在地方ニ取リテ直接又間接ノ影響多大ナリ内地鹽ノ四割ヲ生産スル香川縣ノ實情ハ特ニ顯著ナルモノアリ地方經濟及自治制度等ニ關聯スルコト亦素ヨリ鮮少ナリトセス内地鹽賠償價格ノ引下ケヲ聞キタル當時關係町村長ハ一齊上京シテ其ノ波及スル苦痛ヲ陳情シ香川縣會ハ縣經濟及財政ノミナラス縣民ニ與フル關係ニ付テ論議シ香川縣知事モ亦上京シテ政府ニ具申スル所アリキ以テ内地鹽賠償價格引下ケノ及ホス苦痛損害ノ多大且廣汎ナルヲ知ルヘシ之ニ對スル政府ノ所見如何

五 鹽田ハ皆海岸ニ面シ危險率多ク營繕費ヲ要スルコト亦然リ加フルニ公租公課等ノ負擔重シ而モ鹽田所有者ハ四圍ノ情勢ト金利ノ低下トニ鑑ミ既ニ相當ノ地料ヲ引下ケタルモノ多シ其ノ地料ハ鹽ヲ用ヒテ受渡スヲ普通トスルコト尙水田ニ於ケル小作料ニ米ヲ用フルニ異ナラス從テ鹽ノ賠償價格引下ケニ因ル鹽田所有者ノ苦痛頗ル大ニシテ其ノ利廻リハ甚タ鮮少ナルニ至レリ況ンヤ凶年ニ際會スルコト稀ナラサルニ於テヲヤ又鹽田小作者ハ勞銀及物價ノ昂騰ニ伴ヒ經營ニ苦シムコト甚シキ以テ鹽田所有者ニ向ヒ地料ノ引下ケヲ要求スルノ外ナキニ至リ茲ニ兩者間ノ爭議ヲ惹起シ現ニ紛争中ノモノ比々然ラサルハナク事態ハ誠ニ憂慮スヘキ情勢ヲ呈ス斯ル場合ヲ辨別セスシテ鹽賠償價格ヲ引下クルカ如キハ決シテ當ヲ得タル處置ニ非スト認ム政府ノ所見如何

六 政府ニシテ鹽專賣廢止ノ意思アラハ豫メ之ヲ公表シ當業者ヲシテ其ノ善後ノ方策ヲ誤ラサラシムヘキナリ之ニ反シテ依然專賣ヲ維持スル方針ナルニ於テハ鹽田所有者、製鹽業者及従業員ノ等シク安定シテ經營及勞作シ得ルヲ基調トシ以テ各般ノ施設及行爲ニ出ツルヲ要ス即チ物價、勞銀ヲ首メ社會ノ情勢ヲ參酌シテ生産費ヲ算出シ中庸適切ナル賠償價格ヲ定メ併セテ之ニ適應スル諸般ノ方途ヲ立ツヘキニ非スヤ政府ノ之ニ對スル態度如何敢テ明確ナル答辯ヲ求ム

七 政府ハ往年鹽田整理ヲ決行セリ爾來暫ク斯ノ事ナカリシニ仄聞スル所ニ據レハ近ク鹽田整理ヲ爲サムトスル趣ナリ之ヲ整理スル場合ニハ廢田ニ對シテ新田ヲ開拓セシムルカ又ハ單ニ廢止スルノミニシテ鹽田ノ面積ヲ縮少スル見込ナルカ若シ鹽田ノ面積ヲ縮少スル見込ナリトセハ其ノ理由如何尙賠償價格引下ケノ理由トシテ政府ハ根本的ニ製鹽設備ヲ改良セシメ以テ其ノ生産費ヲ遞減スル旨ヲ高唱シツツアリ然レトモ政府ノ指導獎勵スル設備及方法ニ依リ果シテ好果ヲ奏スルヤ否ヤ未タ確乎タル實際上ノ證憑ヲ見ス今尙疑惑ノ裡ニ在リ而モ當業者トシテハ多大ノ設備費ヲ要スルノミナラス其ノ運用ノ困難ニ苦シメリ之ニ對スル政府ノ所見ヲ問フ併セテ政府ノ内地製鹽ニ關スル根本方針ニ付テ明瞭ナル答辯ヲ望ム

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月九日小西和君提出ス同月二十三日結城大藏大臣ハ書面ヲ以テ右ノ答辯ヲ爲ス

一、政府ハ鹽專賣ヲ廢止スル意思ナシ、時勢ニ適應シテ之ニ改善ヲ加ヘ、其ノ運用ヲ完ウスルコトニ努ムルヲ適當ト考ヘ居レリ

二、内地鹽ノ價格ハ近年製鹽業ノ著シキ改善ニ依リ、漸次低下スルニ至レルモ之ヲ外地産鹽ノ豊富ニシテ低廉ナルニ比較スレハ尙ホ格段ノ遜色アリ、故ニ内地鹽業ハ更ニ改善ヲ加ヘ以テ生産費ノ低下ヲ圖ルノ緊要ナルコトハ論ヲ俟タサルトコロニシテ、之カ方策トシテ製鹽ノ合

- 同機械化ヲ獎メ、其ノ資金ニ付テハ低利資金ノ融通ヲ爲シツツアリ而シテ昭和十二年ニ適用スヘキ鹽賠償價格ハ製鹽ノ收支關係、鹽業經濟ノ實情等ニ稽ヘ慎重考究ノ上之ヲ決定シタルモノニシテ其ノ決定ニ當リテハ物價勞銀ノ動向ニ付十分考慮ヲ拂ヒタルヲ以テ鹽業者ノ經濟ニ支障ナキモノト認メ居レリ
- 三、近年本邦内地ニ於ケル曹達工業ノ急激ナル發展ニ伴ヒ、多量ノ工業原料鹽ヲ要スル處、北支那ニ廉價ナル停滯鹽アリテ之ヲ輸入スルコトノ極メテ有利ナルヲ認メ工業家ヲシテ之ヲ輸入セシメタルモノニ外ナラス他ニ何等事情アルニ非ス、而シテ右北支產鹽ハ工業用原料鹽ナルヲ以テ其ノ輸入ハ食料用タル内地鹽ノ賠償價格問題ニ關係ヲ有セス又何等内地製鹽業ヲ壓迫スル等ノ虞ナキモノトス
- 四、鹽專賣ノ經營ニ當リテハ生産者ノ事業安定ヲ圖ルトトモニ消費者側ノ立場ヲモ考慮シ賠償價格ヲ適當ニ決定スルノ要アリ、而シテ昨年十二月行ヒタル賠償價格ノ引下ハ第二項ニ述ヘタルカ如キ事由及考慮ニ基クモノニシテ、決シテ鹽業ノ安定ヲ失スルモノニ非スト認ム
- 五、鹽價引下ニ伴ヒ偶々香川縣地方ニ於テ鹽田地主及小作人ノ間ニ紛議ヲ生シタル事實アルモ兩者ノ協調ニ依リ漸次圓滿ナル解決ヲ見ツツアリ
- 六、政府ハ中庸適切ナル賠償價格ヲ定メ居リ尙鹽業ノ健全ナル發達ヲ圖ルニ付萬遺漏ナキヲ期シツツアリ
- 七、政府ハ目下ノ處鹽田整理ヲ行フノ意嚮ヲ有セス
内地鹽業設備ノ改善ニ付テハ低利資金ノ融通、獎勵金ノ交付、技術ノ指導及鹽業關係者ノ協力等ニ依リ所期ノ成果ヲ擧ケ得ルモノト信ス、而シテ政府ハ内地鹽業ノ維持改善ニ努メツツアルコト前述ノ通りナリ
右及答辯候也

二三 華族制度改正特權階級權益制限ニ關スル質問

現存華族制度ノ沿革ヲ見ルニ明治維新ノ變革ニ當リ封建制度ノ改廢ニ伴ヒ舊身分ハ一應形式的ニハ廢止セラレタガ明治十七年華族授爵ノ詔竝華族令ガ公布サレルニ及ビ當初維新政府ガ公卿諸侯ヲ廢シテ唯空名ノミヲ與ヘントシタ華族ハ再ビ特權アル一ノ身分的地位ヲ確保スルニ至ツタノデアアル之ハ實ニ一度廢止セラレタ舊身分制度ノ延長存續デアリ且明治維新ノ精神タル國民平等ノ原則ヲ攪亂スルモノデアツテ是レアルガ爲諸々ノ社會的、政治的不合理ト矛盾トヲ生ジ出シテ來タノデアアル實ニ今日ノ華族制度コソハ現代社會ニ於ケル一種ノ癌デアアル

今日華族ハ身分上、經濟上、政治上ニ幾多ノ權益ヲ有シテ居ル彼等ハ其ノ特權ヲ利用シ財閥官僚ト結託シテ極度ニ社會ヲ毒シ國民ノ絶對多數ヲ占ムル勞働者、農民、中小商工業者、俸給生活者等勤勞大衆ヲ生活窮乏ニ陥レテ居ル

殊ニ全國ニ散在スル六千部落三百萬人ノ被壓迫部落大衆ハ封建的身分關係ニ因リ特權階級トシテノ華族ノ對蹠的存在トシテ凡ユル人民的自由ト權利トヲ奪ハレ經濟的劣惡ト政治的無權利トヲ強制サレル悲惨極マル状態ニ置カレテ居ル

今日華族制ガ存置サレテ居ルコトハ被壓迫大衆ヲ存在セシムル主要ナ條件トナツテ居リ且國民

ノ間ニ於ケル階級對階級ノ軋轢鬭争モ亦之ニ緣由スルコト多大ナリト言ハネバナラヌ
「和ヲ以テ貴ト爲ス」ト天下ニ聲明セル現政府ハ國民ノ間ニ存在スル斯ノ如キ溝渠ヲ撤廢シ人民
平等ノ原則ニ立脚シテ融和達成ノ爲ニ努力スベキ責任ト義務アリト信ズ

故ニ左記ノ諸項ニ付政府ノ誠意アル答辯ヲ要求スルモノデアアル

一 政府ハ速ニ華族制度ヲ根本的ニ改メ臣民トシテノ華族制ヲ改正スル爲之ヲ上奏スル意思ナ
キヤ

二 政府ニ於テ若シ華族制度ノ改正ヲ上奏スルノ意思ガナイトスレバ政府ハ華族ノ身分上及政
治上ノ特權ヲ形式ノミニ止ムベク之ガ手續ヲ取ル意思ナキヤ

三 華族制度ノ改正ニ拘ラズ政府ハ貴族院ノ權限ヲ徹底的ニ縮少スベク之ヲ上奏御裁可ヲ仰グ
意思ナキヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十日松本治一郎君提出ス同月二十三日林内閣總理大臣ハ書面ヲ以
テ左ノ答辯ヲ爲ス

(一)及(二)ニ付テ

華族制度ニ關シテハ宮内省ノ管掌スル所ナルヲ以テ答辯ヲ差控ヘタシ

(三)ニ付テ

貴族院制度ノ改革ニ付テハ第六十九回帝國議會ニ於ケル貴族院ノ建議ノ次第モアリ、已ニ貴
族院制度調査會ヲ設置シテ慎重審議中ナリ
右及答辯候也

二四 帝國陸海軍ニ於ケル齒科衛生ニ關スル質問

一 陸海軍ニ於ケル現在ノ囑託齒科醫ヲ以テ齒科衛生上遺憾ナキヲ期シ得ルヤ

陸海軍ニ於ケル齒科衛生狀態ハ現在甚ダ不良ニシテ殊ニ齒牙疾患少キ農山漁村ヨリノ入隊者
モ軍隊生活ノ關係上忽チニシテ甚シク惡化スルノ狀況デアルカラ之ガ豫防及治療上十分ナル
施設ヲ必要トスルノデアアル然ルニ現在ニ於テ陸軍ニハ各病院ニ齒科診療室アルモ其ノ殆ンド
全部ガ近傍ノ開業齒科醫ヲ囑託シテ治療ニ當ラシメ大概一週二三回二三時間宛ノ勤務ニ過ギ
ナイカラ到底將兵ノ治療ヲ全ウシ難ク義齒等ハ全ク行ハレテ居ラヌ狀況デアアル況ンヤ進ンデ
之ガ豫防法ヲ講ズルガ如キコトハ思モヨラズ又海軍ニ於テハ各海軍病院竝ニ各艦隊ニ齒科醫
アリテ幸ニ何レモ專任者ナルモ其ノ人員合計十三名ヲ出デズ是ダケニテ數萬ノ海軍將兵ノ手
當ラスルコトハ全ク不可能ナルコトデアアル陸海軍共ニ僅ニ重症者ニ對シ應急ノ處置ヲ爲スニ

過ギナイノデアアル滿洲駐在部隊ニ對シテハ各病院ニ齒科醫ヲ置クモ其ノ數甚ダ少ク又内地ト異リ付近ニ開業齒科醫ナキコトトテ誠ニ在滿將士ニ對シテハ氣ノ毒ナル有様デアアル陸海軍當局モ色々心配サレテ時々囑託齒科醫ノ數ヲ増加スル等ノ方法ヲ講ジテ居ラレルヤウデアアルガ現在ノヤウナコトヲ行ツテ居ルノデハ陸海軍將兵ノ健康上憂フベキ點ガ非常ニ多イ政府ハ如何ニシテ此ノ缺陷ヲ充サントスル者デアアルカ

二 現在ニ於ケル陸海軍齒科衛生上ノ施設ヲ以テ平時及戰時ニ對處シテ之ガ調査研究上遺憾ナキヲ期シ得ルヤ

前ニ述ベタ如ク現在ハ平時應急ノ手當モ困難ナ狀況デアアル況ンヤ戰時ニ對シ如何ナル準備ヲシテヨイカ之ガ調査研究ニ甚ダ不完全ナリト言ハザルヲ得ナイ然ルニ一朝大國ガ互ニ兵ヲ交ヘルコトニナレバ勢戰爭ハ長期ニ互リ兵ノ齒牙ハ非常ニ惡クナル又歐洲大戰ノ際ニハ齒牙口腔ノ病氣ガ殊ニ多カッタ許リデナク顎骨病院ガ特ニ設立サレタ程口ヤ顎ノ損傷ガ多クナツタ是等ノ病理治療ニ關シ平時カラ十分ナル調査研究ガ必要デアアル陸軍、海軍軍醫學校デハ口腔外科ヲ教ヘテ居ルヤウデアアルガ其ノ規模ガ小サク甚ダ遺憾デアアル又戰時齒科衛生ニ從事スル人々ヲ養成スルヤウナ機關モナク方法モ付イテ居ナイ何等此ノ方面ニ訓練ナキ開業齒科醫ヲ動員シテ急場ノ間ニ合セルノデハ不十分ナルコト言フ迄モナイ我が陸海軍ハ有ラユル點ニ於

テ整備サレ又多額ノ經費ヲ投ジテ整備ヲ急イデ居ルノデアアルガ何故カ齒科衛生ノ事ニハ無頓著デアアル

三 毎年幹部候補生トシテ入隊シツアル齒科醫學專門學校卒業生ニ對シ特別ナル待遇ヲ與フル意圖ナキカ

我が國ニハ男子ノ齒科醫學專門學校ガ七ツモアル其ノ卒業生ニシテ幹部候補生トシテ軍隊ニ入營スルモノガ毎年百名以上デ昨年度ニ於テモ百九名ニ上ツテ居ル其ノ全部ガ普通ノ兵トシテ服務シテ居ルノデアツテ折角專門ノ知識技能ヲ持チナガラ少シモ軍隊デ活用サレテ居ナイ齒科衛生設備ノ不完全ナ今日甚ダツマラヌコトデハナイカ何トカ是等ノ齒科醫專卒業生ヲ專門家トシテ活カシテ國家ニ御奉公ヲサセル工風ハナイカ其ノ中ニハ滿洲國ニ於テ普通ノ兵トシテ服務シテ居ル者ガアル是等ハ殊ニ大ニ考慮スル餘地ガアル專門學校卒業迄中學カラ引續キ十箇年ノ學校教練ヲ經テ來テ居ルモノデアアルカラ普通ノ兵トシテ其ノ訓練ヲ加ヘズトモ齒科衛生ノ方面ニ從事セシムルコトガ國家ノ爲利益スル所ガ非常ニ多イノデハナイカト思フ

四 陸海軍ニ齒科軍醫ヲ設置スルノ計畫ナキカ

以上述ベタヤウニ陸海軍ハ齒科衛生上ノ施設ガ極メテ不十分デアアル軍隊ニハ精神力ト共ニ體力ガ必要デアアル體力ノ根源ハ榮養デアツテ榮養ノ根源ハ咀嚼デアアル此ノ點カラモ何故齒科ニ

モツト陸海軍が重キヲ置イテ考ヘナイノデアアルカ私ニハ寧ロ不思議ニ思ヘルノデアアル而シテ
 軍隊ニ於ケル齒科施設ヲヤツテ行クニハドウシテモ齒科軍醫ノ制度ヲ設ケナケレバナラナイ
 ノハ言フ迄モナイノデアアル第六十三回議會以來連年本院ニ於テハ陸海齒科軍醫設置ノ請願ガ
 採擇サレ建議モ通過シテ居ルノデアアルガ其ノ實現ノ模様ガナイ陸海軍ニ於テモ軍政調査ノ一
 項目トシテ此ノ問題ヲ採リ上ゲテ居ラレルヤウデアアルガ現在如何ナル處マデ進ンデ居ルノデ
 アルカ規律ト訓練ノ殊ニ尊バレル軍隊ニ於テ又階級ノヤカマシイ軍隊ニ於テ囑託制度ノ儘幾
 ラ人員ヲ増シテモ本當ノ成績ヲ得ルコトガ出來ナイドウシテモシツカリシタ制度ヲ設ケナケ
 レバナラヌノデアアル歐米各國ニ於テハ何レモ平時數百人ノ齒科軍醫ヲ置キ其ノ教育訓練ノ爲
 學校病院ヲ設立シ戰時ノ爲ニハ數千人ノ豫備齒科軍醫ガアル歐洲大戰ノ際出征部隊兵員五百人
 ニ付一人ノ齒科軍醫ヲ派遣シタト云フコトデアアル有ラユル點ニ於テ各國ニ優レタル我が陸海
 軍ハ此ノ設備ヲ今現ニ缺イデ居ル爲ニ將兵共ニ現ニ平時ニ於テモ齒牙疾患ニ惱ンデ居ルノデア
 ル之ハ制度ヲ新ニ作ルコトガ困難ナノガ其レトモ經費ガナイノデアアルカ何レニシテモ其ノ必要
 ヲ認メテ之ヲ實現セントスル熱意サヘ有ルナラバ當局ノ決心ニ依テ今日ニモ直グ出來得ルコ
 トデアアル政府ハドウ考ヘラルルカ又齒科軍醫トシテ之ヲ實現スルコトハ只今ノ所困難デア
 ルカ或ハ特種ナ文官トシタナラバ實現可能ナリトノ說モアルトノコトデアアルガ其ノ邊ノコト

ニ付テ當局ノ御答ヲ願ヒ是非軍隊ニ於ケル齒科衛生ノ充實ノ爲御盡力アラシムコトヲ希望スル
 ノデアアル

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十一日杉山元治郎提出ス同月三十日米内海軍大臣及杉山陸軍大臣
 ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一 陸軍ニ於テハ囑託齒科醫ノ數、勤務日數及時間ハ患者數ニ應ジテ適當ニシ以テ齒科診療ニ
 遺憾ナカラシメ且齒科衛生一般ニ關シテハ現施設ヲ以テ遺憾ナキヲ期シツツアリ
 海軍ニ於テハ新兵入團ニ際シ特ニ齒牙ノ健康診斷ヲ行ヒ必要ナル治療ヲ施シ又艦船乗員ニ對
 シテハ其行動作業ノ關係上主タル齒科治療ハ可成母港在泊中海軍病院ニテ之ヲ完了セシメ出
 動後ハ應急處置ニ止ムルヲ目途トシ各海軍病院、艦隊等ニ夫々必要ナル專任齒科醫ヲ置キ尙
 海軍軍醫學校ニ於テハ軍醫科士官ヲシテ齒科應急治療ニ差支ナキ様教育シツツアリ、然レド
 モ近時人員ノ増加ニ伴ヒ囑託齒科醫ノ現狀ヲ以テシテハ幾分不足ヲ感ズルニ至レルヲ以テ十
 二年度ニ於テハ若干其數ヲ増シ齒科衛生上遺憾ナキヲ期シツツアリ
- 二 海軍現役軍醫科士官中ニハ齒科口腔外科ノ専門家アリ且ツ前項ニ述ベタル如ク囑託齒科醫
 ノ増員ヲモ計畫シ各部密接ナル連絡ヲ執リ平時戰時ニ對スル調査研究ニ遺憾ナキヲ期シツツ
 アリ陸軍ニ於テハ概ネ海軍ト同様ナルモ軍醫學校ニ於テ齒科ノ研究調査及教育ヲ實施シアリ
 テ平時戰時ニ於ケル調査研究ニ遺憾ナキヲ期シツツアリ
- 三 陸軍ニ於テハ第四項ノ研究ト關聯シテ研究中ナリ
 海軍ニ於テハ該當事項ナシ
- 四 陸海軍共ニ囑託齒科醫制度ノ改善ニ關シ目下研究中ナリ

二五 林内閣ノ政綱政策並文教上ノ諸問題ニ關スル質問

一 我ガ肇國ノ理想ニ關スル件

林内閣總理大臣ハ組閣ノ大命ヲ奉ジテ能ク其ノ任ヲ全ウシ所謂清新華實ナル内閣ヲ組織シタリ而シテ其ノ政綱ヲ發表スルニ當リ 聖旨ヲ奉體シテ我ガ國體ノ本義ニ基キ肇國ノ理想ヲ顯現スルヲ以テ施政奉行ノ本ト爲スベキコトヲ宣明セリ

凡ソ首相タル者ハ嘗ニ内閣ノ首班トシテ國政ヲ統率スルニ止ラズ我ガ國民ガ之レニ向ツテ進ムベキ大理想ヲ普ク中外ニ宣布シ國民ノ先頭ニ立チテ之レヲ率キルノ慨ナカルベカラズ 謹ンデ案ズルニ天業ヲ恢弘シ天下ヲ光宅トナシ六合ヲ兼ネテ都ヲ開キ八紘ヲ覆ウテ宇ト爲サムコトハ之レ我ガ肇國ノ大理想ニシテ萬世一系ノ我ガ皇室ガ 天皇ノ赤子トシテ愛撫セサセ給フ臣民ヲ率キ此ノ大理想ニ向ヒ進マセ給フコトハ之レ我ガ皇祖皇宗以來ノ鞏固ナル傳統ニシテ我ガ尊嚴ナル國體ノ精華ナリ即チ我ガ皇室ノ御稜威ヲ世界ニ擴充シ皇恩ヲ六合ニ光被セシメ以テ世界ニ於ケル道德政治ノ完成ヲ期スルコトハ實ニ我ガ肇國ノ理想ヲ實現スル所以ノ道ナリト信

ズ林内閣總理大臣ノ所謂肇國ノ理想トハ抑々之レヲ謂フモノナリヤ又他ニ存スルモノアリヤ敢テ林内閣總理大臣ノ所見ヲ問フ

二 國運進暢ノ源流ニ關スル件

林内閣總理大臣ハ其ノ政綱ノ第一項トシテ國運進暢ノ源流ヲ深カラシムル爲國體觀念ヲ愈々明徴ニシテ敬神尊 皇ノ大義ヲ益々闡明シ祭政一致ノ精神ヲ發揚セムコトヲ高調セリ我ガ國體ノ萬邦無比ナルコトハ何等言説ノ要ナシト雖モ之レガ觀念ヲ明徴ナラシメムニハ幾多具體的條件ナカルベカラズ

近時政局ノ變異ニ際シ誠ニ憂慮スベキ事象ナシトセズ大命降下ノ際ニ於ケル問題之レナリ畏クモ一旦 陛下ノ親任ヲ辱ウシ組閣ノ恩命ニ接セル者ハ必ズ謹ミテ之レヲ拜受シ萬死以テ其ノ責ヲ果タスベク國民ハ舉ツテ之レガ支援ニ協力スベシ之レ我ガ國體觀念ノ然ラシムル所ニシテ猥リニ自ラ己レノ健康ヲ顧慮シテ拜辭スベキニ非ズ又國民ハ舉ツテ之レヲ援助シテ組閣ノ大任ヲ遂ゲシムルコトニ努ムベシ苟モ組閣ノ大命ヲ拜シタル者ニシテ國民一部ノ支援ヲ失ヒ爲ニ閣僚ヲ得ル能ハズ以テ大命ヲ拜辭スルニ至ルガ如キハ之レ 陛下ノ聖明ヲ覆ヒ奉ルモノニシテ國體觀念ト相容レザル所ナリ今之レヲ最近ノ事實ニ徵スルニ陸海軍大臣ヲ現役ノ大中將ニ限ルト制限セル陸海軍官制ノ改正ハ正ニ如上ノ結果ヲ將來セルモノニシテ遺憾限リナシ

内閣總理大臣ハ速ニ陸海軍官制ヲ改正シ陸海軍大臣ノ資格制限ヲ一層緩和セムトスル意思アリヤ否ヤ

抑々、天皇ノ稱號竝ニ國號ノ尊重ハ愛國心ヲ喚起スル一大原由ニシテ愛國心ノ涵養ハ國體觀念ヲ一層明徹ニスル所以ナリ然ルニ歷代ノ内閣ハ甚ダ之ヲ輕視シ之レニ對シテ努力セル所鮮少ナルガ如シ

謹ンデ案ズルニ「大日本帝國 天皇」ノ御尊稱ハ帝國憲法ニ於テ嚴然一定セラルル所ナルニ拘ラズ政府ハ條約文等ニ於テ此ノ固有ノ御尊稱ニ代フルニ「アンペリユール」、「エムペラー」等ノ語ヲ使用シツツアルハ恐懼ニ堪ヘザル所ナリ

我が大日本帝國ノ國號モ亦憲法ノ明示スル所ニシテ國民ハ之レニ據リテ之レヲ稱呼セザルベカラズ然ルニ之レヲ外ニシテハ政府ハ條約文其ノ他ニ於テ自ラ外國ノ舊慣ニ依ル「ジャポン」、「ジャパン」、「ヤーパン」等ノ語ヲ使用シツツアリ又之レヲ内ニシテハ「ニッポン」及ビ「ニホン」兩様ノ稱呼竝ビ用ヒラレ國民ハ其ノ適從スル所ニ惑フ斯ノ如キハ國體觀念ヲ明徹ニシ國民精神ヲ作興スル所以ニ非ズ政府ハ宜シク速ニ一層我が國號ヲ尊重シ其ノ稱呼ヲ統一スルコトニ努力セザルベカラズ

外務大臣ハ外國トノ條約文等ニ於テ「アンペリユール」、「エムペラー」、「ジャポン」、「ジャパン」

等ヲ使用スルコトヲ廢シ其ノ固有ノ御尊稱竝ニ稱號ヲ使用セムトスル意思ナキヤ又外務大臣ハ商工省ノ努力ニ依リ「メイド、イン、ニッポン」ノ標識ヲ附シテ輸出セラレタル商品ガ陸揚ゲヲ拒マルルガ如キ失態ナキヤウ通商條約及ビ其ノ附屬ノ規定ヲ改正セムトスル意思ナキヤ

文部省ハ小學教育ニ於テ其ノ兒童ヲシテ我が國ヲ稱呼セシムルニ「ニッポン」ヲ以テセリ文部大臣ハ小學校以上ノ各種學校竝ニ其ノ他ノ教育機關ヲシテ之レヲ勵行セシメムトスル意思ナキヤ

陸軍大臣及ビ海軍大臣ハ全國ノ壯丁、現役軍人竝ニ在郷軍人ヲシテ一定セル國號ノ稱呼ニ據ラシメムトスル意思ナキヤ

大藏大臣竝ニ商工大臣ハ其ノ監督ノ下ニアル銀行會社等ノ中其ノ名稱ニ「大日本」「日本」等ヲ冠スルモノニ對シ之レヲ「ニッポン」ト稱呼スベク統一セムトスル意思ナキヤ

更ニ内閣總理大臣ハ我が大日本帝國 天皇ノ御尊稱、國號竝ニ帝國ノ理想トスル大使命ニ關シ大ニ内外ニ宣布セムトスル意思ナキヤ

凡ソ國體觀念ヲ明徹ナラシメムトスル方策種々アルベシト雖モ先ヅ國史、國語等ヲ尊重シ我が國固有ノ良風美俗ヲ保存助長スルコト等ニ其ノ指ヲ屈セザルベカラズ然ルニ歐米文明模倣時代ノ餘弊ヨリ脱却スル能ハズ故ラニ我が國ノ古史ニ荒唐無稽ノ說ヲ加ヘ我が神聖ナル國史ヲ汚サ

ムトスルガ如キハ政府ノ嚴ニ戒メザルベカラザル所ニシテ國語ノ尊重モ亦大ニ忽ニスベカラズ而シテ文部省臨時國語調査會ニ於テ決議セル國語假名遣改定案ハ我が國語ノ有スル特色タル動詞ノ活用ヲ度外視シ靈妙ナル我が國語ノ生命ヲ奪ハムトスルモノナリ文部大臣ハ之レガ使用ヲ國民ニ強フルノ意思アリヤ否ヤ又國語ノ記載法ニ至リテハ縦書横書ノ別アリ横書ニハ右横書アリ左横書アリ又彼ノ送り假名法ノ如キモ區々ニシテ一定ノ法則ナシ文部大臣ハ國語記載ノ方法ヲ統制スル必要ヲ認メザルヤ

國民ノ衣食住ニ歐風ノ加味セラルルハ敢テ之レヲ排スルノ必要ナカルベキモ故ラニ我が國固有ノ衣食住ヲ賤ムノ風尙ハ國民精神作興ノ爲遺憾ノ點ナシトセズ政府ハ我が國古來ノ式服タル紋服、紋附羽織、袴ヲ以テ通常禮服ノ一種トナスノ要ヲ認メザルヤ

三 青年教育振興ニ關スル件

國運進暢ノ源流ハ教育ヲ尊重スルニアリ特ニ國家永遠ノ將來ヲ思念スル時青年教育ノ片時モ忽諸ニ附スベカラザルヲ痛感スルモノナリ國家ハ官立大學ニ於ケル青年教養ノ爲年額一人數百圓ヲ費スニ比シ上級學校ニ入學スル途ナキ都市及ビ農村青年ノ教養ニ對シテハ男子青年團ノミニ就イテ見ルモ其ノ費ス所極メテ僅少ニシテ大日本聯合青年團ヘノ補助年額ハ三萬圓ニ過ギズ政府ハ青年教育振興ノ爲此ノ補助金ヲ増額シテ數十萬圓程度ニ至ラシムルト共ニ大日本女子聯

合青年團ニ對スル補助金モ亦之レニ準ジテ増額スベク特ニ青年及ビ青年團ノ使命ノ益、重大ナルニ鑑ミ青年教育振興ヲ以テ重要國策ノ一ニ加ヘ且ツ之レニ關スル調査機關ヲ設置スル必要アリト信ズ此レ等ノ點ニ關スル内閣總理大臣、文部大臣、大藏大臣、陸軍大臣、海軍大臣及ビ農林大臣ノ所見如何

四 神祇ニ關スル特別政應ノ設置ニ關スル件

抑、敬神尊 皇ノ大義ヲ闡明シ祭政一致ノ精神ヲ發揚セムトスルハ林内閣ガ掲ゲタル特異ノ政綱ナリ而シテ敬神尊 皇ノ大義ハ國民一般ノ體得セザルベカラザル所之レニ違背スルヲ以テ非國民トナス祭政一致ノ政治亦必ズシモ上代ト現今ト同一ナラズト雖モ祭事ノ重ンズベキハ我が國ノ特色ニシテ益、之レガ精神ノ擴充ヲ計リテ始メテ我が國體觀念ヲ明徵ナラシムベシ之レ神祇ニ關スル特別政應ヲ要スル所以ニシテ而モ此ノ政應タル我が國神祇ノ特異性ニ鑑ミ之レヲシテ他ノ官廳ノ下位ニ立タシムベキモノニ非ズ最高位ニ特立シ以テ其ノ神聖ヲ保持スルノ要アリ内閣總理大臣ハ神祇ニ關スル此ノ種ノ特別政應ヲ設置スルノ急務ナルコトヲ痛感セラレザルヤ

五 學生ノ精神訓育ニ關スル件

近時各種ノ犯罪中所謂智能犯ト稱シ學識經驗ヲ有スルモノニシテ己レガ有スル此レ等ヲ惡用シ

テ犯行ヲ爲ス者極メテ多ク又最高ノ學府ヲ出デタル者又ハ在學中ノ者ニシテ其ノ中庸ヲ失ヒ左
右兩翼ニ趨ル者亦尠カラザルヲ見聞シ國家教學ノ爲寒心ニ堪ヘザルモノアリ

惟フニ學校ニ於テ施ス所ノ精神訓練ハ小學教育ニ於テ最モ多ク留意セラルルニ拘ラズ上級ノ學
校ニ進ムニ從ヒ漸ク弛緩ヲ來タシ僅ニ教練科ニ於テ多少ノ精神訓育ヲ施スニ過ギズ是レ如上ノ
結果ヲ將來セル原因ニアラザルナキカ

四大節ノ祝賀式、卒業式等ニ於テ國歌ヲ奉唱シ勅語ヲ捧讀スルハ小學校、中等諸學校、高等學
校等ニ止マリ高等專門學校、大學等ニ於テ之レヲ實施セル例甚ダ稀ナリ然ルニ今年紀元節ニ際
シ東京帝國大學ニ於テハ長與總長以下教職員、學生全部安田講堂ニ參集シ一同國歌ヲ奉唱シ教
育勅語ノ捧讀等アリシト云フ斯ノ如キハ學生生徒ノ精神訓育上其ノ效果ノ極メテ大ナルモノア
ルヲ信ズ文部大臣ハ他ノ大學竝ニ高等專門學校ヲシテ此ノ實例ニ倣ハシメ以テ學生生徒ノ訓育
ニ資セムトスルノ意圖アリヤ否ヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十一日佐藤與一君提出ス同月三十日林內閣總理大臣兼文部大臣、
山崎農林大臣、結城大藏大臣、伍堂商工大臣、米內海軍大臣、杉山陸軍大臣及佐藤外務大臣ハ書
面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一、我が肇國ノ理想ニ關スル件
我が肇國ノ理想ニ付テハ大體同感ナリ

二、國運進暢ノ源流ニ關スル件

一、陸海軍官制ノ改正ヲ奏請シ、陸海軍大臣ノ資格制限ヲ緩和セムトスルノ意思ハ、之ヲ有
セズ

一、我が國ト外國トノ條約ノ外國語文ニ於テ、「アンペリユール」「エムペラー」「ジャボン」、又ハ
「ジャパン」等ヲ、夫々ノ外國語ニ於テ使用スルコトハ、外國語文トシテハ、事實已ムヲ得ザ
ルモノト思料セラルルモ慎重考慮中ナリ

一、「メロド・イン・ニッポン」ノ標識ヲ附シテ輸出セラレタル商品ガ、陸揚ゲヲ拒マルルガ如キコ
ト無キ様、通商條約及其ノ附屬ノ規定ヲ改正スルコトハ、目下ノ處、早急ニハ實現不可能ト
思料セラル

一、國號ノ稱呼ヲ統一シテ小學校以上ノ各種學校竝ニ其ノ他ノ教育機關ヲシテ、之ヲ厲行セシ
ムルコトニ付テハ、考慮ヲ要スルモノアリト思料セラル

一、全國ノ壯丁、現役軍人、竝ニ在郷軍人ヲシテ、一定セル國號ノ稱呼ニ據ラシムルコトニ付
テハ、考慮ヲ要スルモノト認ム

一、大藏省並商工省ノ監督下ニアル銀行會社等ノ中、其ノ名稱ニ「大日本」「日本」等ヲ冠スルモ
ノニ對シ、之レヲ「ニッポン」ト稱呼スヘク統一スルコトニ付テハ、尙篤ト考慮ノ要アルモノ
ト思料セラル

一、肇國ノ理想ヲ顯現シ、帝國ノ大使命ヲ宇内ニ宣明スルハ時局ニ顧ミ適當ナリト認ム

一、曩ニ、臨時國語調査會ニ於テ決議セル國語假名遣改定案ハ、昭和六年ニ修正ヲ加ヘ、昭和
九年國語審議會組織セラルルニ及ビ、更ニ該會ニ於テ再審議中ナリ

一、教科書用圖書ニ於テハ既ニ國語ノ記載法ハ之ヲ一定シテ居レリ、即チ普通ノ國語ハ、勿論
縦書トスレドモ、外國語或ハ數式、數字等ヲ多ク記載スル圖書ニ在リテハ、左横書トシ、尙

是等ノ圖書表題ヲ横書トスル場合ニハ、我が國古來ノ慣例ニ從ヒ、右横へ書カシムルコトトシ居レリ、又送假名法ニ付テハ、曩ニ、國語調査委員會ニ於テ決議セル案ヲ參考トシテ、教科用圖書ニ在リテハ、一定ノ法則ヲ定メテ之ヲ使用シ、以テ其ノ標準ヲ示シ居レリ

一、紋服、紋附羽織、袴ヲ以テ通常禮服ノ一種ト爲ス事ニ付テハ、慎重考慮ヲ要スベキモノト思料セラル

三、青年教育振興ニ關スル件

刻下、我が國內外ノ情勢ハ、青年教育ヲシテ一層振興セシムルノ要切ナルモノアリ、政府ハ之ガ爲、其ノ方策ニ關シ考究中ナルモ、特ニ調査機關ヲ新設スベキヤ否ヤニ付テハ、今後篤ト考究セントス、大日本聯合青年團、大日本女子青年團ノ使命ノ重大ナル點ニ付テハ同感ナルガ、是等ニ對スル補助金ニ關シテハ、將來財政上ノ關係ヲ考慮シテ慎重考究スヘシ

四、神祇ニ關スル特別政廳ノ設置ニ關スル件

神祇ニ關スル特別政廳ノ設置ニ關シテハ、慎重考慮ヲ要スベキモノト思料セラル

五、學生ノ精神訓育ニ關スル件

一月一日、紀元節、天長節、明治節等ノ式典ニ際シ諸學校ニ於テ、國歌ヲ奉唱シ、勅語ヲ捧讀スルコトハ精神訓育上極メテ重要ナルコトナルヲ以テ、小學校中等諸學校高等學校ニ於テノミナラズ、高等專門學校大學等ニ於テモ概ネ實施シツツアル所ナルガ、今後一層學生生徒ノ訓育上留意シ遺憾ナキヲ期セントス
右及答辯候也

二六 帝都防火建築ニ關スル質問

大正十二年九月ノ大震災ハ死傷者十五萬七千人、損害額五十五億圓ニ達シ其ノ慘憺タル光景ハ今尙吾人ノ記憶ニ血腥イ暗影ヲ投ジテキル

其ノ後十三年ヲ經過シタル今日道路ヤ橋梁ハ殆ンド完全ニ復興シタノデアアルガ都市生活上最重要デアリ生命財産迄モ脅カサレル火災ニ對スル民間ノ家屋ノ復興分遅々トシテ進捗シナイノハ一面民間ノ經濟力ノ薄弱性ヲ物語ルモノデアアルガ反面ニ政府ノ對策モ機宜ヲ得ザルモノガアルノデハナカラウカ

木造建築ノ日本デハ年々多大ノ生命ヤ財産ヲ火災ノ爲失ツテキル火災ノ爲ノ死傷者ハ一年間ニ三四千人ニ達シ建築物ノ焼失額ハ毎年實ニ五千萬圓ヲ超過シテキル之ニ家具調度ノ損害、營業ニ關スル損害等ヲ加算スルト實際ノ損害額ハ此ノ數倍ニ達スルデアラウ

此ノ火災ニ對スル防備ノ第一ハ燒ケヌ家「鐵筋コンクリートノ家」ヲ造ルコトデアアル
大正十三年政府ハ東京横濱兩市ノ中樞ニ防火地區ヲ制定シ其ノ地區内ノ建築ニ一定ノ規格ヲ定メルト共ニ「バラック」建築ノ除却期限ヲ定メタノデアアルガ之モ延期ニ延期ヲ重ネテキル有様デアアル

現在東京ノ防火地區ノ坪數ハ百五十八萬六千坪デ其ノ中防火構造ノ本建築ハ現在大體千五六百棟ニ過ギズ残りノ二萬五千棟ハ今尙「バラック」建築デアアル其ノ「バラック」モ今日迄二回延期サ

レテキル來年八月迄ニハ全部本建築ニナル規定ニナツテキルガ政府ニ於テハ果シテ其ノ準備ガ出來テキルカ

火災ノ防備ノミナラズ防空上ノ見地カラシテモ今後防火建築ノ完成ハ緊急事デアアル又近ヅク「オリムピック」ノ爲ニモ不體裁ナ「バラック」ヲ一日モ早く取除キタイモノデアアル

政府ハ防火地區内ノ本建築ニ對シテ坪當リ五十圓ノ補助金ヲ交付シテキルガ現在殘ツテキル六百萬圓ノ補助金デ百五十萬坪ノ防火地區ガ完成サレルトハ思ハレナイ之デハ昭和十三年八月ト定メタ「バラック」除却期限モ遂ニ空文ニ終ル結果トナリハセヌカ政府ノ之ニ對スル所見ヲ求ム

思フニ耐火建築ノ不振ハ前述ノ如ク民間ノ經濟力ノ薄弱ナルコトニ基因スルノデアアルガ政府デハ民間ニ對シ建築資金融通ノ途ヲ開ク爲ニ六千萬圓ヲ限度トシテ東京横濱兩市ニ預金部低利資金ヲ貸付ケ兩市ハ此ノ資金ヲ以テ當時財界ノ有力者十數名ノ發起ニ依テ設立サレタル復興建築助成株式會社ニ建築助成ノ事業ヲ委託シタルデアアル而シテ兩市ハ此ノ會社ニ對シテ無條件ニ年八分ノ配當ト損失全額ノ補給トヲ保證シタルデアアル此ノ重大ナル公共的事業ヲ一營利機關ニ委ネタノガ抑々復興建築失敗ノ第一歩デアツタ

現在復興建築助成會社カラ資金ヲ借入レテ建造シタ耐火建築ハ約七百棟アルガ其ノ實情ヲ見ル

ニ殆ンド全部ガ資金ノ償還ニ苦シミ金利スラモ支拂ヘナイモノガ半數以上アリ建物ヲ競賣サレタモノガ一割ニ上ツテ居ル有様デアアル其ノ原因ヲ考察スルニ此ノ會社ハ年八分ノ株主配當ト放慢ナル營業費ヲ支出スル爲ニ貸付金ニ對シ年二分五厘ノ利鞘ヲ取得シ延滞金ニ付テハ容赦ナク日歩四錢ノ損害金ヲ建築者ニ負擔セシムル結果彼等ハ其ノ支拂ニ塗炭ノ苦シミヲ嘗メテキルノデアアル

帝都復興ノ裏ニ建築者ガ斯ノ如キ悲惨ナル境遇ニアルコトハ既ニ世間周知ノ事實デアアル昨年來内務省警視廳デハ防火建築ノ普及ニ大童ノ宣傳ヲシテキルガ一向其ノ實績ノ上ラナイ原因ハ此ニ存スルノデアアル曩ニ法令ヲ遵守シ政府ノ復興方針ニ從ツテ帝都復興ノ先驅ヲ爲シタ善良ナル市民ガ今ハ不拂ノ汚名ヲ受ケテ經濟死線ヲ彷徨セルニ拘ラズ之ガ救濟ノ方法ヲ講ゼザルガ如キハ社會思想ニ及ボス影響重大ト言ハネバナラナイ

復興建築會社デハ昭和十年以後新規ノ建築助成ガ一件モナク純然タル一整理會社トナツテキル状態デアアル斯ノ如キ事業不振ニモ拘ラズ八分配當ヲ繼續シテキルノデアアル聞ク所ニ依レバ今此ノ會社ヲ清算スレバ約九百萬圓ノ損失ガアルト言ハレテキル之ヲ此ノ儘ニ放置スレバ將來數千萬圓ノ損失ガ兩市民ノ負擔ニナルノデアアル

帝都復興ノ重大事業ヲ一營利會社ニ委託シ助成ノ美名ニ隠レテ市民ノ膏血ヲ絞リ三十年間八分

配當ヲ繼續シ而モ兩市ガ之ヲ保證セルガ如キハ天下無類ノ會社デアアル此ノ會社コソハ市民ノ犧牲ニ於テ財閥ノ私腹ヲ肥ス外ノ何物デモナク帝都ノ復興ヲ阻害スル一大癌腫デアアル監督官廳トシテ政府ハ之ニ對シテ如何ナル措置ヲ講ジラレツツアリヤ

最近ニ至リ該會社ヲ解散セシメテ本事業ヲ市ノ直營ニ移管スベシトノ論ガ各方面ニ起リツツアリト聞クガ最モ妥當ナル方策ナリト信ズ

斯クシテ既建築者ノ負擔ヲ輕減シ其ノ經濟更生ヲ企圖スルト共ニ將來建築セントスル者ニ對シテモ成ルベク長期低利資金ノ融通ヲ爲シ政府補助金ノ如キモ現在ノ倍額位ニ増額スレバ漸次復興建築ノ完成ヲ期待シ得ルモノト信ズ此ノ點ニ關シ政府ノ所見如何

即チ

- 一 防火地區内ノ建築ニ關スル件
- 一 防火地區内建築助成ニ關スル件
- 一 復興建築會社ニ關スル件

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十三日深澤豐太郎君提出ス同月三十日河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一、防火地區ノ制度ガ都市ノ防火防空上極メテ緊要ナル施設ニシテ地區内耐火建築ノ完成ノ急務ナルハ夙ニ痛感スル所ナリ、此ノ故ニ東京及横濱兩市ニ於ケル大正十二年九月ノ震災ニ依リ火災ニ罹リタル區域内ノ防火地區ニ於テハ大正十三年度以降昭和十三年度迄防火地區建築補助金ヲ交付シテ助成ヲ圖ルト共ニ他面假設建築物ノ除却期限ヲ定メテ耐火建築ノ促進ニ努メツツアル處ナルモ 右除却期限ハ昭和十三年八月到來スルヲ以テ一層右ノ促進ニ對シ努力致度

一、東京横濱兩市ニ於ケル防火地區内ニ於テハ前項ノ如ク耐火建築ノ助成ヲ圖リツツアルモ耐火建築ノ促進ハ諸般ノ事情特ニ市民ノ經濟力ノ如何ニ左右セラルル處少カラズ、從來所期ニ副ハザルノ憾アリシモ近時幾分經濟界ノ活況ヲ呈シタルニ鑑ミ今後一段ノ努力ヲ拂フト共ニ將來一層之ガ助成ヲ圖ルベキヤ等ニ關シテハ國家財政ノ都合等ニ照シテ考究致度
一、復興建築助成株式會社ノ事業成績ニ關シテハ其ノ事業ノ緊要性ト市民負擔ニ及ボス影響ノ重要性トニ鑑ミ之ガ對策ニ關シテハ慎重考究ヲ遂ゲ遺憾ナキヲ期セムトス
右及答辯候也

二七 外務大臣ノ演說ニ關スル質問

本年三月十一日午後佐藤外務大臣ガ衆議院ニ於テ爲シタル演說ニハ疑義ニ互ル點頗ル多シ之ヲ明ニセサレハ政府ノ各案ヲ審議スルコト能ハス仍テ茲ニ左記各點ヲ質問ス

一 外務大臣ハ「本當ノ意味ノ危機、詰リ戰爭ノ勃發ト云フ意味ノ危機、日本ガ之ニ直面スルモシナイモ、私ハ日本自體ノ考へ如何ニ依ツテ決スルノデアルト云フ風ニ考ヘルノデアリマ

ス若シ自分ガ其意味ノ危機ヲ欲スルナラバ、危機ハ何時デモ參リマス、之ニ反シテ、日本ハ危機ヲ欲シナイ、サウ云フ危機ハ全然避ケテ行キタイト云フ氣持デアル、私ハ日本ノ考ヘ一ツデ其危機ハ何時デモ避ケ得ルト確信シマス」ト陳ヘタリ本員ハ區々タル語句ノ末ヲ捕ヘテ言ヲ立ツルニ非ス然レトモ深ク趣旨ヲ吟味スレハ今日ノ東洋ノ危機ハ日本カ欲シテ招來スル所ニシテ我カ國タニ之ヲ欲セサレハ危機忽チ解消スヘシトノ意ト爲ル果シテ然ラハ政府カ本議會ニ十四億ノ軍事費ヲ要求シタルコトハ我カ國カ覺メテ危機ヲ造成スルモノト爲リ東洋平和ノ爲有害無益ノコトト爲ラム世豈斯ノ如キコトアラムヤ政府ハ一方ニ於テ軍備ノ必要ヲ説キ他方ニ於テ其ノ無用ヲ諷セシメムトスル乎世ノ疑惑斯ノ一點ニ在リ速ニ其ノ眞意ニ付明答アラムコトヲ求ム

二 外相ハ更ニ「私ハ今日ノ日本、ソレハ七十年ノ歴史、努力ヲ以テ此處マデ築上ゲタ此日本ヲ何ノ必要ガアツテ、堂々タル態度ヲ執ツテ、堂々タル道ヲ歩キ得ナイノカ、ソレヲ私ハ不審ニ感ズルノデアリマス」ト演説セリ此ノ語句ハ現時我カ國カ執リツツアル態度ハ堂々タル道ヲ歩マサルモノナルカ如キ語氣ヲ包含ス外相モ右ノ主旨ニ於テ述ヘタルモノニハ非サルヘシ其ノ主旨ニ付明確ナル釋明ヲ求ム

三 以上各點ノ外此ノ演説ニ於テ疑義ニ互ルモノ甚タ多シ外相タル者速ニ之ヲ訂正釋明スヘシ

唯之ヲ訂正シ釋明スルモ一國ノ國務大臣ノ發シタル言ハ駟モ及ハス之カ我カ國家ニ及ホス影響ハ實ニ甚大ナリ外相ハ之ニ對シ責任ナシト考フルヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十七日清瀨一郎君提出ス同月二十二日提出者之ヲ撤回セリ

二八 對滿對支政策ニ關スル質問

對支問題ノ重要ナルハ今更贅言ヲ要セス然ルニ近時支那ニ於テ中央地方ヲ通シ抗日氣分ノ益、濃厚ナル今日ヨリ甚シキハナシ我カ國ト古來ヨリ深密ナル關係ヲ有シ同種同文ノ隣邦國タル支那ニシテ斯ノ如キ状態ニアルハ日支兩國ノ爲將又東洋平和ノ爲眞ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ更ニ他方滿洲人中ニモ未タ十分日本ニ理解ヲ有セサルノミナラス甚シキハ親露、親支主義ヲ唱フル者サヘアルハ斷シテ輕視スル能ハサルモノアリ茲ニ於テ何等カノ對策ヲ講シ有效適切ノ舉ニ出ツルヲ要スヘシト信ス

惟フニ天下ヲ治ムルハ徳ヲ以テ第一トスヘク徳治ナキ政事ニハ信ナク信ナキ政事ハ民ノ心服ナシ我カ國ハ東洋ノ安定勢力トシテ又盟主トシテ東亞ノ運命ヲ雙肩ニ荷フ立場ニアルヲ以テ徳ヲ

以テ滿支ニ臨ミ信ヲ以テ彼等ヨリ信賴ヲ受クル用意ナカルヘカラス又賞罰ヲ明ニシ德ニ報ユルニ德ヲ以テシ報本反始ノ古道德ヲ實踐スルコトハ政事ニ缺クヘカラス信條ナリト信ス故ニ一身同體タル滿人ニ對シ此ノ道ヲ行ハムカ滿人悉ク我ニ信賴ヲ寄セ滿人ノ信賴生スレハ亦以テ支那ノ信賴ヲ博スルニ足ラム滿人ニ對シテハ親日的有爲ノ人材ハ之ヲ優遇シ又反日人士ニ對シテハ之カ理解ヲ深ムルニ努メサルヘカラス然ルニ往々ニシテ事此ニ出テサルモノアルハ最遺憾トセサルヲ得ス一例ヲ舉クレハ滿洲建國ニ當リ功勞顯著ナル滿洲人士ニシテ今日逆境ニ沈淪スル者アリ又當時ノ反日家ニシテ今日却テ日本ニ優遇セラルル滿人高官アリ斯クシテ我カ國ノ政道ヲ明徴スルコト甚タ遠ク滿支兩國ト我カ國トノ關係ヲ疎隔スルコト多大ナリト謂ハサルヘカラス之ヲ歴史ニ徵スルニ數千年ノ歴史ト文化ヲ有スル漢族ヲ當時比較的文化低キ滿族カ克ク治メ人心ヲ收攬セシ所以ハ一ニ清朝カ漢人中ノ親清家タル人材洪承疇等ヲ極力優遇シタルニ因ル惟フニ日滿支ハ人種、言語、文學其ノ他幾多共通點ヲ有スル立場ナルヲ以テ此ノ間ノ原理、事情ヲ十分討究シ以テ之ヲ實行ニ移シテ善處セハ日滿支ノ友交關係ハ愈々好轉シテ東洋平和ノ確立ヲ期スル決シテ難事ニ非スト信ス内閣總理大臣並對滿事務局總裁ノ之ニ對スル所見如何右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十三日中村嘉壽君提出ス同月三十日林内閣總理大臣及佐藤外務大

臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

趣旨ニ於テ全ク同感ニテ政府ニ於テモ右方針ニテ善處シ居レリ又滿洲國ハ王道政治ヲ以テ建國ノ大本トセル國ナルカ故ニ德ヲ以テ施政ノ根本方針ト爲スハ當然ノコトニシテ人材ノ拔擢ノ如キモ常ニ公平無私適材ヲ適所ニ置クハ勿論ナリ又日滿不可分ノ關係ハ曩ニ滿洲國皇帝陛下カ渙發セラレタル回鑾訓民ノ詔書ニモ明カニシテ日滿兩國ハ一德一心ノ國ナルヲ以テ滿洲國當局ニ於テモ克ク此ノ日滿關係ニ徹底シタル建國ノ功勞者ヲ重用スルハ當然ナリト信ス右及答辯候也

二九 機船底曳網ニ關スル質問

積年ニ互ル財界不況ノ結果トシテ農山漁村ノ疲弊困憊甚大ヲ極メ其ノ慘狀時ニ眼ヲ蔽フカ如キモノアリ之カ對策ヲ講スルニ官民一致大ニ努力シ近來陸上ノ産業ハ稍々復興ノ曙光ヲ認メツツアリト雖獨リ漁村ニ於テハ未タ何等ノ生色ヲ見ス其ノ由テ來ル所ハ實ニ生産漁場ノ荒廢ニ基因スルモノト謂ハサルヘカラス而シテ農村ハ米ノ豐作ニ依リ山村ハ生産物資ノ人爲的工作ニ依テ各其ノ窮地ヨリ脱スルコト比較的容易ナルモ漁村ハ上記ノ諸條件以外更ニ漁場ノ復興ト云フ特殊事情ニ支配セラルル爲幾多ノ陸上産業ニ比シ更生ニ遅々タルモノアルハ眞ニ痛恨ニ堪ヘス輓近科學的漁法ノ進歩ニ伴ヒ沿岸漁民ハ亂獲ノ弊ヲ知り酷漁ノ結果ヲ覺リ稚魚ヲ愛シ幼貝ヲ保

護シ各、自省的共同施設ニ依リテ漸次沿岸漁場ノ復興ヲ計リ更ニ統制アル組織ノ下ニ生産消費ノ調節其ノ他漁村更生ノ根本工作トシテ漁業協同組合ノ設立ニカメ以テ往時ノ盛況再現ニ懸命ノ努力ヲ爲シツツアル時ニ際シ此ノ大衆漁民ノ幸福ヲ無視セル機船底曳網業者ハ永遠ノ大計ニ何等顧慮スルコトナク常ニ禁止區域内ニ於テ公然犯則行爲ヲ敢テシテ憚ラス折角漁民カ築カムトスル復興計畫ヲ平然トシテ日毎ニ破壊シツツアリ斯ノ如キ弊害ヲ根本的ニ除去スル方法トシテ農林當局ハ昭和十二年度ニ機船底曳網轉業整理ノ法案ヲ樹テタリト聞キ沿岸漁民ハ漸ク多年ノ愁眉ヲ開キ同案ノ議會通過ノ一日モ早カラムコトヲ熱望シツツアル時ニ當リ突如トシテ底曳網漁業者ハ農林當局ノ發案ニ反對的猛運動ヲ開始シ有ラユル奸策ヲ用ヒテ其ノ野望ヲ達セムト狂奔シツツアルカ如キハ是レ實ニ社會ノ安寧秩序ヲ害スルモノニシテ許スヘカラサルモノナリ殊ニ新潟縣ノ機船底曳網業者ハ窮餘ノ策トシテ北蒲原郡沖合佐渡北東ヨリ粟生島西南ニ瓦ル海區ニ限リ其ノ操業ヲ認メラレタキ旨ノ請願書ヲ提出シ併テ野望達成ノ猛運動ヲ爲シツツアルヤニ仄聞セリ

該海區ハ遠ク信濃川ノ流末ニ當リ常ニ淡鹹水交流スル天惠的漁場ニシテ附近沿岸漁民ハ勿論西蒲原、三島郡沿岸漁民ノ延繩漁業者ニトリテ、主要且無限ノ價值アル漁場ナリ從テ近來小型動力附漁船ノ發達ヲ見ルヤ益々之ヲ有效ニ利用シテ漁獲ニ從事シツツアル所ナルニ若シ本漁場ニ

機船底曳網ノ操業ヲ許スカ如キコトアラムカ其ハ眞ニ寒心スヘキ暴舉ト謂ハサルヲ得ス政府ハ此ノ際是非共機船底曳網漁業整理法案ノ通過ヲ圖リ以テ沿岸漁場ヲ復興シ瀕死ノ状態ニ在ル沿岸漁民ト漁村トヲ救済スル爲新潟縣沖合ニ於ケル機船底曳網ノ操業ヲ絕對ニ禁止スヘキモノト思惟スルカ之ニ對シ政府ハ如何ナル對策ヲ有スルヤ

右質問候也
右質問主意書ハ昭和十二年三月十五日北吟吉君外三名提出ス同月三十日山崎農林大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

今般農林省ニ於テ計畫中ナル機船底曳網漁業整理案ハ沿岸漁場ヲ荒廢セシメ又ハ沿岸漁場ノ漁利ヲ蕪斷スル等多數ノ中小漁業者ト利害相容レサルカ如キ機船底曳網漁業ヲ整理シ沿岸漁業者ニ對シ直接又ハ間接ニ何等ノ影響ヲ與ヘス漁業資源ノ維持並ニ増進ニ關シ支障ナキカ如キ機船底曳網漁業ハ整理セムトスルモノニ非ス而シテ新潟縣沖合ニ操業スル機船底曳網漁業カ前記ノ何レニ該當スルモノナリヤニ付テハ目下慎重調査中ナリ

右及答辯候也

三〇 國有鐵道赤穂線敷設ニ關スル質問

一 第六十九回帝國議會ニ於ケル鐵道敷設法中改正法律案委員會議錄ニ據レハ赤穂線ニ對スル

政府當局ノ言明ニ依リ赤穂線ハ國有鐵道幹線タラシムルカ爲ニ敷設スルモノナルコトヲ明白ニシタルハ當然ナリ而シテ東京下關間鐵道ノ日滿連絡ノ重要使命ニ鑑ミレハ赤穂線ハ輸送能率ノ増進ト時間ノ短縮トヲ主要眼目トシテ線路建設ヲ爲スヘキモノニシテ赤穂線ヲ以テ地方産業ノ開發ヲ目的トスル培養線ト同一視スヘカラサルハ言ヲ要セサル所ナリ故ニ第六十九回、第七十回兩帝國議會鐵道敷設法中改正法律案委員會ニ於テ議員ノ質問ニ對シ前、現兩鐵道大臣ハ「線路ノ選定ハ未定ナリ國有鐵道ノ本義ニ則リ時代ニ適應スル適正ナル線路ヲ決定スヘシ」トノ旨答ヘタリ然ルニ第七十回帝國議會豫算委員分科會ニ於テハ鐵道事務當局カ「事務當局トシテハ最初ヨリ線路ハ決定セリ由來事務當局ノ決定セル案ニ對シテハ責任者(大臣)ニテ彼此云ヒシ例皆無」ナルカ如ク答辯セリ是レ實ニ大臣ト事務當局トノ間ニ於ケル答辯ノ矛盾ニシテ國務大臣ノ議會ニ於ケル言明ハ無責任、無誠意ノ甚シキモノナリト斷定セサルヲ得ス眞ニ一大怪事ナルト共ニ議會政治上ノ重大問題ナリト思惟ス政府ノ所見奈何

二 鐵道事務當局カ議會ニ於テ線路ノ選定ニ付事務當局ノ決定セル案ニ對シ主管大臣カ彼此云ヒシ例ナシト言明セルハ下剋上ノ甚シキモノニシテ而モ赤穂線ノ如キハ昨春ノ選舉運動ニ利用セラレタリトノ批難ヲ受ケ又最近ノ鐵道疑獄ニ因縁アリトノ風評ヲ受ケ居レル所謂曰ク附ノ敷設線ナリ然ルニ此等ノ事件發生當時ヨリ在任シツアル事務當局カ斯ル上司ヲ無視シ

事實ヲ誣ヒ或ハ國家ノ方針ヲ勝手ニ變更スルカ如キ發言ヲ敢テスルハ世間ノ疑惑ヲ深カラシメ官紀ノ紊亂ヲ憂ヘシムルノミナラス現ニ鐵道疑獄事件ノ進行中突如前議會ニ於ケル當局ノ言明ヲ裏切ルカ如キ言辭ヲ弄スルコトハ其ノ動機ト理由ト必要トニ付テ多大ノ疑問ヲ禁スル能ハス斯ノ如キハ事務當局トシテ不謹慎千萬、奇怪至極ノ言動ト謂ハサルヘカラス司法當局ノ注意ヲ喚起スル必要アリトサヘ思惟セラル此ノ一大怪事ニ對シ政府ハ如何ナル處置ヲ執ラムトスル乎敢テ所見ヲ質ス

三 赤穂線ノ線路ハ直通線ト迂回線トノ二線ヲ豫想セラル而モ本線敷設ノ根本理由ヨリスレハ第六十九回帝國議會ノ鐵道敷設法中改正法律案委員會ニ於テ鐵道當局カ言明セル如ク「距離ト時間トヲ短縮スル改良線ニシテ併セテ地方産業ノ開發ヲ計ル」モノナルヲ以テ其ノ線路ハ最短距離ヲ直通シテ土地平坦ナル地方ヲ通スル工事容易ナル線路ヲ選定スヘキカ當然ニシテ殊更ニ一小部都ヲ目標トスルカ爲ニ線路ヲシテ三角形ノ二邊ヲ迂回セシメテ距離ヲ延長シ現在線路ノ急勾配ヲ避クルカ爲ノ新線敷設ニ急「カーブ」線ヲ取入レ且又工事至難ニシテ多額ノ建設費ヲ要スル線路ヲ採リ而モ亦之ヲ直通線ニ比スレハ距離ニ於テ六紵、時間ニ於テ十二分ヲ増大スル迂回線ヲ經由セシムルカ如キ計畫ハ交通政策上將又國防計畫上斷シテ避クヘキモノナリト信ス鐵道並陸海軍當局ノ所見奈何

四 鐵道省當局ノ言明ニ依レハ赤穂線ヲシテ西大寺町ヲ迂回經由セシムレハ直通線ニ比シ年額二十萬圓ノ增收ナリト云フ思フニ之レ長距離ノ算出スル旅客賃金、貨物運賃ノ増加ヲ見積ルカ爲ニシテ斯ル採算ヲ以テスレハ寧ロ新線ヲ敷設セス長距離ナル現在線ノ運轉ニ依ルコトカ收入最大ナリトノ結論ニ達シ赤穂線敷設理由ノ如キハ全然解消セラルル自繩自縛論ニ陥ルヘシ殊ニ右收益計算中ニハ附近各町村產果物其ノ他ノ農產物ノ西大寺町集散運賃ヲ見積リ居レトモ該生產物ハ西大寺港ヨリ舟運ニ依リ大阪其ノ他ノ各仕向地ニ發送セラレ假令西大寺町經由ノ鐵道ノ敷設ヲ見ルモ舟運ハ比シ鐵道ハ運賃三倍ヲ要スルヲ以テ到底此等果物ヲ鐵道ニ託送セシムルコトハ至難ナリト思惟ス鐵道當局ノ二十萬圓增收計算ノ根據奈何

五 赤穂線ヲシテ西大寺町ニ迂回セシムヘシトハ西大寺町ノ希望ニシテ又直通線タラシムヘシトハ地方八箇村ノ希望ナリ而シテ迂回線ノ敷設ヲ見ムカ可知、芳野ノ二村ハ單ナル線路通過地トナリ徒ニ田畑ヲ收用サルヘク往年ノ水害善後處置工事ノ爲田畑ノ收用セラレタルト相俟テ全村失業離散ノ悲惨事ヲ現出スルカ故ヲ以テ迂回線敷設ニ極力反對シツツアリ思フニ西大寺町ニ對シテハ現在西大寺軌道ノ運轉ニ依テ十分交通上ノ恩惠ヲ受ケツツアリ然ルニ若シ八箇村ノ利害ヲ全然無視蹂躪シテ西大寺町ノミノ希望ニ副ハムトスルカ如キ鐵道ノ敷設計畫ハ政治ノ大眼目ニ反スル時代錯誤ノ甚シキモノニ非スヤ政府ノ所見奈何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十八日江藤源九郎君提出ス同月三十日伍堂商工大臣、米内海軍大臣及杉山陸軍大臣ハ書面ヲ以テ右ノ答辯ヲ爲ス

一、赤穂線敷設ニ際シ西大寺町ヲ經由スルヤ否ヤノ問題ニ對シ、前現大臣共「線路ノ選定ハ未定ナリ今後適正ナル線路ヲ決定スベシ」ト答ヘタリ、又今議會ニ於テ事務當局ハ「最初ヨリ線路ハ決定セリ、由來事務當局ノ決定セル案ニ對シテハ大臣ニテ彼是云ヒシ例無カル如ク答辯セリ」ト質問書ニアルモ事務當局ノモノハ「議會提出當時ノ線路ハ西大寺町經由トナレルモ實測ニ際シ猶其ノ是非ヲ再檢討ヲナスベシ、而シテ從來大臣ヨリ技術上非ナルコトヲ強ヒラレタルコト無シ」トノ意味ニシテ兩者答辯ノ間ニ矛盾ナシ

二、一項ニ述ベタル如ク兩者ノ答辯ニ矛盾無ク事務當局ガ上司ヲ無視シ事實誣ヒタルコト無シ

三、赤穂線ハ地方開發ヲ主要目的トシ山陽本線ノ補助線トスルハ從ノ目的ナレバコノ主旨ニ從ヒ目下線路調査中ナリ、尙陸海軍トシテモ本件ニ關シテハ何等異論ナシ

四、西大寺町經由線ハ經由セザルモノニ比シ其ノ勢力範圍内ニ於ケル人口、物資共ニ多ク從テ收入ノ増加ヲ來ス、又後者ハ前者ヨリ多少距離短ク特定賃金設定ノ關係上既成線ニ及ボス收入ノ減少ヲ來ス

以上二ツノ理由ニヨリ收入ニ於テ多額ノ差アリ

五、西大寺町經由線ト經由セザル線トニ對スル兩關係地方民ノ希望ヲ考慮ニ入レ目下線路調査中ナリ

右及答辯候也

三一 尾去澤鑛山中ノ澤鑛洋沈澱池ダム決潰ニ關スル再質問

七九六

本員等が曩ニ二回ニ互リ表記問題ニ關スル質問主意書ヲ提出シタルニ對シ政局當局ハ逐一答辯書ヲ寄セラレ其ノ意ノ在ル所ヲ示サレルト共ニ三菱鑛業會社ニ對シ鑛業法違反其ノ他ノ廉ヲ以テ告發サレ又廣ク天下ニ聲明サレル等關係地方市民ノ疑惑一掃ニ努メラレツアルハ本員等ノ諒トスル所ナルモ更ニ其ノ責任ノ所在ヲ糾明シ飽マデ其ノ原因ヲ探求シ再ビ斯ル慘禍ヲ繰返サザルヤウ根本對策ヲ講セントスル素志ノ下ニ再度左ノ諸項ニ付政府ノ答辯ヲ煩ハサントスルモノデア

一 決潰ノ原因ニ關スル件

本員等ハ嚮ニ三菱鑛業株式會社ノ事業成績ト本邦鑛業ノ趨勢トヲ舉ゲテ沈澱池堤防決潰ヲ決シテ偶然ノコトニ非ズ其ノ原因ハ

- (1) 生産増加ニ對應スヘキ洋鑛堆積處置ニ付テ科學性ヲ有セザル土木工事が行ハレ居リタルコト
- (2) 鑛山經營ノ資本家の獨善主義
ニ在ルコトヲ指摘シ政府ノ所見ヲ訊ネタルニ

(1) ノ原因ヲ肯定シ

各般ノ事情ヨリ判斷スルニ決潰前數回ノ漏水アリタルニ拘ラズ鑛山側ニ於テハ之ヲ重大視セズ其ノ原因糾明不十分ニシテ彌縫的ナル應急處置ヲ講ジタルニ止リ而モ本鑛泥堆積方法ノ本旨ニ悖リ送泥シタルコト等ヲ大體ニ於テ主要ナル原因ト認ムベク而シテ前記漏水ヲ生ジタルハ堤防ノ百尺地竝ノ部分ニ於テ弱點ヲ生ジ易キ工事を爲シタリト思ハルコト築堤材料ニ不均一ナル點アリタルコト及排水管ニ故障ヲ生ジ堤防内ニ軟泥部分ヲ生ジタリト思料セラルルコト等ノ事實ニ因ルモノナルベク
ト答へ更ニ

此等ノ事實ガ綜合シテ今回ノ災害ヲ發生スルニ至リタルモノト認ム之ヲ要スルニ本件災害ハ鑛業權者ニ於テ操業ニ對スル注意ヲ缺キタルニ因ルモノト謂フヘシ
トノ結論ヲ下シテ居ルノデア

而シテ本員等ノ舉ゲタル
(2) ノ鑛山ノ資本家の獨善經營ニ決潰ノ原因ヲ有スルモノニ非ズヤトノ質問ニ對シテハ何等ノ答辯ガナカッタノデア

願フニ政府ガ決潰ノ重大ナル原因トシテ舉ゲタル幾ツカノ事實ハ之ヲ要約スレバ利潤獲得ヲ至

上命令トスル資本主義的生產方法ニ當然且必然的ニ隨伴スル事項デアツテ資本カラ最大ノ利潤ヲ生マシメントスレバ或ハ勞働者ノ生命、鑛石排泄物ノ處置等ニ付「注意ノ周到」ヲ缺クモ亦已ムヲ得ナイト謂フ結論ニナルノデアリ故ニ本員等ハ政府答辯書ヲ通シ政府ノ意ノ在ル所ヲ推察スルニ要約次ノヤウニナルノデハナイカト思フノデアリ即チ

「鑛業權者ニ於テ操業ニ對スル注意ノ周到ヲ缺キタル」事例トシテ政府ノ舉ゲタル幾ツカノ事實ハ資本主義的生產方法ノ本質カラ生レタルモノデアリ而シテ鑛業權者ノ操業ニ對スル注意不周到ハ其ノ本質ヨリ來ル當然ノ結果デアルト謂フ事ヲ暗ニ承認サレタルモノデアリ本員等ノ「鑛山ノ資本家的經營」ニ遠因ヲ有ストノ說ニ贊成シタルモノデアルト

若シ然リトセバ鑛山ニ於ケル災害防止對策ニ關シ更ニ根本塞源の對策ヲ樹ツル必要ガアルノデハナイカ即チ例ヘバ鑛山國營ノ如キ具體策ヲ樹ツベキデハナイカ此ノ點ニ關スル政府ノ所見ヲ明ニサレタイ

二 施業案違反ニ關スル件

鑛業法第七十一條同第七十二條ニ基キ廣汎ナル警察事務ヲ委ネラレテ居ル商工大臣並鑛山監督局長ノ監督不行届ニ付テ本員等ガ質問シタルニ對シ政府ハ

「中澤堆積場扞止堤防ニ付テハ其ノ設計支障ナキモノトシテ仙臺鑛山監督局ニ於テ認可シ爾

後監督シ來リタルモノナリ」(第一質問主意書答辯)

ト答ヘ本員等ガ更ニ第二質問主意書ニ於テ

- イ 花輪警察署、秋田縣警察部ヲ通シ漏水ノ都度政府當局ハ其ノ報告ヲ受ケタルカ
- ロ 仙臺鑛山監督局ハ昨年局員ヲ尾去澤鑛山ニ派遣シテキルガ右復命書ヲ提示セヨ
- ハ 堤防增高ノ如キ施業案變更ニ於テ三菱鑛業株式會社ハ其ノ都度施業案ヲ提出シタルカ
- ニ 堰堤建設並増設ノ年月日ト之ガ工事監督ニ付當局ノ執リタル處置如何
- 等ヲ舉ゲテ追及シタルニ政府當局ハ

イ 警察署或ハ警察部ヲ通シテ報告ヲ受ケタルコトナク漏水アリタル事實ハ災害後ノ調査ニ依リ初メテ知り得タ

ロ 昭和十一年九月排水管ニ故障アリタル事實ニ付テモ別ニ報告ヲ受ケズ同年十月仙臺鑛山監督局ガ局員ヲ出張セシメタルハ金鑛買鑛事情及坑内狀況調査ノ爲デアリ

ハ 三菱鑛業株式會社ハ當初中澤鑛滓堆積場ニ關シ所定ノ施業案ヲ差出シタルモ之ガ變更ニ際シテハ其ノ手續ヲ爲サザリシモノナリ

ニ 中澤堆積場扞止堤防ノ築堤工事ハ昭和六年四月著手シ爾後數回增高シ同十一年九月之ヲ完成セリ

鑛業警察ノ目的ヲ以テ昭和七年、同八年及同十年本鑛山ニ出張ノ際堤防ニ付テモ實地調査ヲ爲シタリ

右實地調査ノ際ニハ施業案記載ノ通り操業シ居リタリ

ト答ヘテ居ル

本員等ガ本年二月二十一日尾去澤鑛山ニ赴キ同鑛山當局ト會見シタル際鑛山當局ハ

中澤堰堤ハ昭和六年築造シ爾後四五回嵩上ゲヲシテ居ル

ト口頭ヲ以テ應ヘ其ノ後文書ヲ以テ本員等ニ報告シタル所ニ依レバ

中澤堰堤施業案

第一次 昭和六年四月五日附提出

同 年九月十二日附受理

第二次 昭和八年二月六日附提出

同 年三月二十二日附受理

ト前後二回ニ互ツテ施業案ハ提出サレテ居ルコトニナツテ居ル此ノ鑛山側文書報告ヲ信用シ得ルモノト假定シテ之ト先ノ政府答辯書「三菱鑛業株式會社ハ當初中澤鑛滓堆積場ニ關シ所定ノ施業案ヲ差出シタルモ之ガ變更ニ際シテハ其ノ手續ヲ爲サザリシモノナリ」トヲ對照スレハ少

クトモ施業案ニ依ラザル增高工事ハ昭和八年三月以降デアアルカノヤウデアアル

然ルニ「昭和十年鑛業警察ノ目的ヲ以テ本鑛山ニ出張ノ際堤防ニ付テモ實地調査ヲ爲シ」右實地調査ノ際ニハ施業案記載ノ通り操業シ居リタルモノ「(政府答辯書記載要旨)デアルト政府ハ答ヘテ居ル」昭和六年四月著手シ爾後數回增高シ同十一年九月之ヲ完成シタ」中澤堆積場堤防ハ少クトモ昭和八年三月以後ハ施業案「變更ニ際シテ其ノ手續ヲ爲サザリシ」モノデアアルニ「昭和十年堤防實地調査ノ際ニハ施業案記載ノ通り操業シ居タルモノ」デアルトノ政府答辯ハ本員等ヲシテ了解セシメナイモノガアル

以上政府並會社當局ノ談ヲ綜合シテ本員等ハ下記各項ニ關シ再ビ政府ノ答辯ヲ煩ハサザルヲ得ナイ

- 1 政府ハ尾去澤鑛山ガ三菱鑛業株式會社ノ經營タルコトニ過信シ科學的究明ヲ怠ツテ輕率ニ施業案ヲ受理シタルモノニ非ザルヤ
- 2 從テ選鑛施業案夫レ自體ニ缺陷ヲ藏シタルモノニ非ズヤ
- 3 若シ中澤打止堤防ガ豐富ナル科學的檢討ヲ經タル後ニ立案サレ更ニ此ノ認可サレタル施業案ニ依リ築造サレタルモノナリトセバ之ニ背反スル施業ヲ長期ニ互リ行ヒタル事態ハ如何ヤウニ説明シ得ルモノナリヤ

而シテ其ノ説明ハ單ナル鑛業法規違反ト了解シ得ベキモノナリヤ否ヤ

4 施業案ノ變更ノ手續ヲ爲サズシテ長期ニ亙リ操業ヲ爲シタル鑛業權者ハ本件以外ニ類例アリヤ否ヤアリタリトセバ之ニ對シテ執リタル所斷如何

5 實地調査ノ際ハ施業案通り操業ヲ爲シツツアリタルモノガ調査後ニ於テ無届ノ儘變更シ操業スルハ明ニ鑛業法違反行爲ヲ敢テ爲シタルモノト認ムベキモノト思料スルガ所見如何之ト所見ヲ異ニスル場合ハ其ノ理由ヲ明示サレタシ

6 政府當局モ既ニ施業案違反ヲ認メテ居ルノデアルガ中澤杆止堤防築造ガ施業案ニ背反スルコト及無届デ工事サレタル年月日ヲ明示サレタシ

三 政府ノ監督ニ關スル件

人命、操業中斷等ニ影響ナキ漏水、排水管故障ノ如キハ鑛業警察規則第七十三條ノ除外例デアリ其ノ結果「其ノ概況ヲ鑛山監督局長ニ急報」スベキ必要ハナイトシテモ此ノ漏水、排水管故障ハ數箇月後ニハ一瞬間ニ三百六十餘名ノ生靈ヲ奪フ災禍ノ原因デアリ又其ノ前兆デアツタ又尾去澤鑛山當局ガ二月二十一日日本員等ニ應ヘタル所ニ依レバ

漏水

第一次 昭和十一年九月二十五日

第二次 同 年十月三十日

排水管故障

同 年九月十一日

デ此等ハ鑛業警察規則ニ依レバ「急報」スベキ義務ハナイコトニハナツテ居ルガ同規則第十四條第三項ニ依テ當然保安日誌ニ記入シナケレバナナイ事項デアル

ソレ故三菱鑛業株式會社ガ忠實ニ保安日誌ヲ記入シテ居タトスレバ昭和十年鑛業警察ノ目的ヲ以テ同鑛山ニ當局ガ出張シタル際又ハ昭和十一年初秋漏水、排水管故障ノ事故起リタル最中ニ「坑内狀況調査ノ爲」局員ガ派遣サレタル際ニハ當然保安日誌ヲ繕クベク保安日誌ヲ一見スレバ少クトモ漏水、排水管故障事故ヲ知り得ル機會ガアツタト思料スル然ルニ其ノ事ノナカツタ旨ヲ政府ハ答ヘテ居ル茲ニ於テ

1 三菱鑛業株式會社ハ保安日誌ニ前記事項ヲ記載シ居リタルヤ否ヤノ疑問ガ起ラザルヲ得ナイシ又

2 「年四五回監督ニ出張スル局員」(尾去澤鑛山小林一正氏ノ言)ハ保安日誌ヲ點檢シタルヤ否ヤノ答辯ヲ要求スル必要モ亦起ルノデアル

本年二月二十一日日本員等ノ質問ニ對シ尾去澤鑛山小林一正氏ハ

鑛山監督局カラハ年四五回ノ出張監督ガアリマシタガ災害前マデハ書面ニ依ル警告ハ一度モ受ケタ事ハアリマセヌデシタ只年ハ忘レマシタガ決潰シタ中ノ澤「ダム」ノ直下ニ在ツタ共和館ノ事ニ付テ多數ノ者ヲ寄セル建物ヲアソコニ置ク事ハドウカト思フト口頭デ注意サレタ事ガアリマシタノデ會社モ地理ノ不便ナ事ヲ考慮シテ尾去澤町役場ノ傍ノ現在所迄移シタ事ガアリマスト應ヘテ居ル

第一質問主意書ニ對スル政府答辯書ニハ第一回決潰後仙臺鑛山監督局長ハ鑛業法第七十二條第二項ニ基キ

鑛業ノ操業開始ノ際ニハ鑛山監督局ニ豫メ申出ヅルコト

ヲ鑛山當局ニ警告シテアルト言フテ居ルガ尾去澤鑛山ハ第二回決潰ノ直後タル昭和十一年十二月二十八日操業ヲ開始シ本年初メ一旦中止シタル後一月十九日カラ再度操業ヲ開始シテ居ル茲ニ本員等ハ次ノ疑問ヲ持ツ即チ

3 昨年十二月二十八日ノ操業開始ハ鑛業法第七十二條第二項ニ基キ仙臺鑛山監督局ニ豫メ申出デタル後ニ爲シタルモノナリヤ否ヤ

尙申出後ナリトスルナラバ何故本年一月八日頃操業中止ノ注意ヲ下シ一月十八日迄休業セシ

メタルモノナリヤ

中ノ澤「ダム」決潰ハ更ニ尾去澤鑛山獅子澤沈澱池ノ決潰ヲスラ考慮セシメルニ至リ仙臺鑛山監督局ハ第二回ノ中澤堰堤決潰後獅子澤「ダム」下ノ家屋ノ移轉ヲ尾去澤鑛山當局ニ警告シタトノ事デアアルガ此ノ移轉ハ二月末現在ニ於テモ實施サレテ居ナイ斯ル事情カラ茲ニ

4 右獅子澤「ダム」下ノ家屋移轉警告ガ發セラレタ日時並其ノ實行遅延ニ對スル政府當局ノ處置如何

ノ點ニ付詳細ニ政府ノ答辯ヲ要求スルモノデアリ

四 責任者處分ニ關スル件

本員等ハ第一質問主意書ニ於テ中ノ澤堰堤ノ不正工事ノ事實ヲ舉示シ大略

一 責任者ハ三菱鑛業株式會社代表社員タルベシ

二 刑事上ノ責任ヲ負ハスベシ

ト質問シタルニ對シ

刑事責任ノ有無、範圍等ハ未ダ決定シ難シ尙仙臺鑛山監督局ニ於テハ鑛業權者又技術管理者ニ鑛業法違反ノ廉アルモノト認メ所轄檢事局ニ告發ヲ爲シタリ

ト答ヘテ居ル刑事責任ノ有無範圍等未ダ決定シ難シトアルモ本員等ガ花輪警察署並尾去澤鑛山

當局カラ提示サレタル第一回決潰ニ因ル犠牲死亡者數ハ左表ノ示ス如クデア
第一 慘事死亡者部落字別數

字 名	人口數		死 者		行方不明者	
	男	女	男	女	男	女
中 澤	五九一	一八	一六	三	四	四
笹小屋	二九二	三〇	三三	四	八	八
瓜 畑	五八八	一〇	二二	二	二	二
春 木 澤	一七九	二二	二二	三	三	三
新 山	一三六	一一	一四	四	三	三
新 堀	二二九	二二	四七	二	八	八
蟹 澤	九五	七	七	一	一	一
西 洞 口	四一	一	一	一	一	一
其 他	一〇四	二八	二八	二	二	一

(註) 本表ハ二月二十一日花輪警察署長ガ本員等ニ提示シタル第一回決潰慘事ニ因ル犠
牲者數

第二 尾去澤鑛山當局提示ノモノ

職員及 其家族	勞務者及 其家族	其 他	計	
				中澤方面
笹小屋瓜畑方面	六	一一九	六五	一九〇
新堀蟹澤方面	〇	一〇一	一六	一一七
計	二七	二四二	九三	三六二

(尾去澤鑛山小林一正氏送付)

花輪警察署提示ノ死亡者、行方不明者ヲ字別人口數ニ對比シテ見レバ決潰堰堤直下ノ中ノ澤部
落ハ豫想外ニ犠牲率少ク(高地ニアル瓜畑部落ヲ除ケバ)決潰「ダム」ヲ遠サカルニ隨テ犠牲率ハ
増加シ二割カラ三割ヲ超ユルニ至ツテキル而シテ尾去澤鑛山當局ガ語ル所ニ依レバ「十一月二
十日午前一時頃眞暗闇ノ堰堤ニ沿ウテ中澤「ダム」下ノ鑛夫住宅ニ急イデキタ一鑛夫ハ水ノ音デ
漏水ト堰堤決潰ノ危険ヲ豫知シ鑛山事務所ニ急報シタル結果鑛山當局ガ該箇所ニ出向キテ應急
措置ニ掛カリシハ午前一時半頃ニシテ萬策盡キテ決潰シタルハ午後三時過ギデアツタト謂フ
ノデアアル即チ右鑛夫ガ危険ヲ豫知シテ後破局ニ至ル迄ノ時間ハ約二時間以上モアツタノデアアル
第一回決潰後仙臺鑛山監督局長ハ其ノ警告書ニ於テ「警報機關ノ完備」ヲ警告シテキルノデアアル
ガ縱シ「完備シタル警報機關」ヲ持タザルトスルモ第一回ノ決潰ハ時ハ靜寂ナ暗夜デアリ而モ大

破局迄ハ二時間有餘ノ時間ガアツタノデアアル完備シタル警報機關ヨリハ應急ノ警報即チ半鐘又ハ「サイレン」ニ依ル等ノ處置ガ必要ダツタノデアアル此ノ點ニ於テ鑛山當局ノ重大ナル過失ヲ果シテ黙過出來ヤウカ其ノ人口ノ最大多數ナル中ノ澤部落ガ却テ犠牲者ノ最少ナリシ事ヲ思ヘバ思ヒ半ニ過グルモノガアルノデアアル

然ルニ當局ガ斯ル鑛山當局ノ過失ニ對シ刑法第二百一十一條ノ適用ヲ躊躇スルノハ何故ナルヤ尾去澤慘事ガ業務上ノ過失致死罪ヲ構成セザル理由何處ニアリヤ吾人ハ其ノ理由ヲ解スルニ苦シムノデアアル茲ニ於テ本員等ハ次ノ諸點ニ付政府ノ明答ヲ要求スルモノデアアル

- 1 政府當局ガ右事件ニ付刑法第二百一十一條ノ犯罪トシテ起訴セザル理由如何
- 2 鑛業法第十七條ニ於テ鑛業權一般ノ處分能力ニ制限ヲ加ヘタルハ結局鑛業權者ニ民事、刑事ノ責任ヲ負ハシムル趣旨ニ非ズヤ次ニ鑛山ノ「保安日誌」ノ記載ハ鑛業警察規則第十四條ニ基ク鑛山當局ノ義務デアリ施業案ノ提出ハ鑛業法施行細則第四十四條竝様式第十九號ニ關スルモノデアアル右保安日誌ガ成規ノ如ク記載セラレアリタリトスレバ漏水、排水管故障ハ急報ナクモ昨年ノ秋政府當局ガ注意ヲ怠ラザル限り容易ニ發見シ得ラレタルモノデアアル又鑛山當局ガ擅ニ施業案ヲ變更シ又ハ施業案ヲ提出セズシテ數回ニ互リ增高工事ヲ行ヒ（昭和十一年九月完成）タルニ其ノ間政府當局ハ「實地調査」ヲ三度モ爲セシ故右事實ガ鑛業法違反ナルコトヲ發見

シ得タル答デアアル

然ルニモ拘ラズ政府當局ハ尙災害禍後ニ至ル迄鑛業法第七十二條ニ依ル處置ヲ執ラズシテ一鑛山監督局長ヲ懲戒處分ニ付シタルノミデアアル茲ニ於テカ吾人ハ連年監督怠慢ノ責任ヲ有スル歴代商工大臣竝仙臺鑛山監督局長ノ責任ヲ問ハントシ併セテ今日ニ至ル迄尙之ヲ爲サザル理由如何ヲ質サントスルモノデアアル

五 將來ノ災害防止ノ件

本員等ガ嚮ニ軍需景氣ノ進行ニ伴フ工場鑛山ニ於ケル災害死傷者急増ノ事實ヲ指摘シ且從業勞働者ノ災害豫感ニ依リ災害ヲ未然ニ防止セントシテ組織的ナル災害防止勞資共同委員會ノ設置ヲ提唱シタルニ對シ政府ハ其ノ答辯ニ於テ「災害防止ガ勞働者ノ協力ニ俟ツ所大ナルコトハ言フ要セズ」ト答ヘナガラ「之ガ爲ニハ各工場鑛山ニ在リテハ安全委員會其ノ他ヲ組織シ勞資相協調シテ災害防止ニ努メ相當ノ成績ヲ擧ゲツツアリ」ト恰モ之ガ爲災害ニ基ク勞働者、鑛夫ノ死傷數ガ増加シ居ラザルガ如キ「願ミテ他ヲ云フ」態度ヲ取ツテキルノデアアル此ノ答辯ガ如何ニ欺瞞性ヲ持チ居ルカハ政府自身ノ統計表ガ明示シテキル即チ内務大臣ノ下ニアル所ノ社會局、商工大臣ノ率キル所ノ鑛山局ガ其ノ名ニ於テ社會ニ公表セル累年ノ「本邦鑛業ノ趨勢」「工場監督年報」ヲ一瞥セバ瞭デアアル然ルニ政府ハ上掲ノ如キ答辯ニ次イデ「右（組織）ハ極メテ有效適切ナ

ルモノトシテ極力獎勵シ居ル所ナルガ將來ニ於テモ一層獎勵ニ努メルコトト致シ度シト述ベ其ガ組織ヲ労働者、資本家ノ善意ニ俟ツテ獎勵セバ足ルカノ如キ言葉ヲ用ヒテ居ルノデアアル以上ハ第一質問書ニ於テ尾去澤鑛山従業員ノ災害豫感ニ付十分詳述シ尙法的強制力ヲ持ツ組織ヲ通ジテ豫防的工作ヲ爲サザリシ故ニ災害ヲ破局ニ陥ラシメタル事ヲ述ベタルニ對スル政府ノ答辯デアアル本員等ハ斯ル答辯ニ痛憤ヲ感ズルノデアアル斯クテ本員等ハ次ノ如キ質疑ヲ提出シ以テ政府當局ノ誠意アル答辯ヲ求メントスルノデアアル即チ

政府ハ災害防止ノ爲各工場、鑛山ニ勞資協同委員會ヲ組織セシムル法律ヲ制定スル必要ヲ認メサルヤ又之ヲ制定スル意思ヲ有セザルヤ

六 鑛業權取消ニ關スル件

本員等ハ第二質問主意書ニ於テ政府發表ノ決潰原因ヲ檢討シタル後

政府ハ施業案ニ悖ル數箇ノ決潰原因ヲ舉示シ鑛業法第四十四條違反トシテ同法第九十七條ヲ適用シ責任者ニ對シ告發ノ處置ニ出テタルモ更ニ第四十條ノ規定ニ依リ三菱鑛業株式會社ニ對シ尾去澤鑛山ノ鑛業權取消ノ處置ニ出ヅルヲ適當ト思料スルガ如何

トノ質問ヲ發シタルノデアアル之ニ對シ政府ハ

鑛業法第四十條ノ規定ニ依ル鑛業權ノ取消ヲ爲ス意思ナシ

ト答ヘタルノデアアル

願ルニ明治四十四年、某鑛山ハ鑛區稅ヲ納付セザル爲稅務署ガ滯納處分トシテ適法ニ該鑛業權ノ公賣ヲ執行シタルニ結局缺損ニ歸シタル故ヲ以テ鑛業法第四十一條ニ基キ鑛業權ノ取消ヲ行ツタノデアアル而シテ行政裁判所モ亦之ヲ正當ナルモノト宣告シタルノデアアル鑛業權者ニ課セラレタルニ大義務(納稅ノ義務、施業案提出同履行ノ義務)ノ一タル鑛區稅ノ未納ノ爲ニ既ニ鑛業權ガ取消サレタル事實ガ存スルノデアアル果シテ然ラバ今回ノ尾去澤鑛山慘事ハ三菱鑛業株式會社ガ公然鑛業法第四十條違反ヲ敢行シ「施業案ニ依ラズシテ探掘シ來リタル」爲遂ニ三百六十餘名ノ生命ヲ奪ヒ未曾有ノ慘事ヲ惹起シタルモノナレバ當然之ヲ取消スベキニ拘ラズ主務大臣ハ尙且「鑛業權ヲ取消ス意思ナシ」ト明言スルノデアアラウカ帝國議會ノ協贊ヲ經 天皇陛下ノ御命令ニ依リ公布セラレ儼乎トシテ存スル鑛業法ヲ主務大臣ハ尙默殺シ去ラントスルノデアアラウカ茲ニ於テ本員等ハ次ノ諸點ニ付政府當局ノ明解ナル答辯ヲ煩ハシタイノデアアル即チ

「探掘權者ハ施業案ニ依ルニ非ザレバ探掘ヲ爲スコトヲ得ズ」(鑛業法第四十四條第二項)トノ規定ニ違反シタル結果遂ニ大慘事ヲ惹起シタル本件ニ對シ「施業案ニ依ラズシテ探掘ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得」トノ同法第四十條ヲ適用セザル理由如何而シテ監督局ノ監督ヲ輕視シ長期ニ亙リ施業案違背行爲ヲ繼續シ大慘禍ヲ招キタルハ鑛業法第

四十四條ノ重大義務違背ニ非ズト認定スルヤ

七 鑛山監督局官制改正ノ件

本員等ガ第一質問主意書ニ於テ中ノ澤「ダム」堰堤ノ建設ガ土木工學上ノ「イロハ」ヲサヘ無視シタルモノナル事ヲ例示シタルニ對シ政府ハ中ノ澤堆積場并止堰防ニ付テハ其ノ設計支障ナキモノトシテ仙臺鑛山監督局ニ於テ認メ爾後監督シ來リタルヲ……堤防百尺地竝ノ部分ニ於テ弱點ヲ生ジ易キ工事ヲ爲シタリト思ハルルコト、築堤材料ニ不均一ナル點アリタルコト及排水管ニ故障ヲ生ジ堤防内ニ軟泥部分ヲ生ジタルコト等ノ内容ヲ以テ本員等ノ質問ニ肯定的答辯ヲ與ヘタノデアアル

此ノ事タルヤ假令政府當局ガ善意ノ監督ヲ爲シタリトスルモ土木工學ニ對スル甚シキ認識不足ガ遂ニ上述ノ如キ災害ヲ惹起スル一原因デアツタト謂ハネバナラヌ
本員等ガ今鑛山監督局官制ヲ見ルニ此ノ官制ニモ亦土木工學的知識ノ缺如ニ基ク規定ノ存在スルヲ見ルノデアアル此ノ官制ヲ此ノ儘ニ放置センカ再ビ上記ノ如キ災害ノ發生ナキヲ期シ難イ不完全ナル官制ノ修正増補ヲ爲シ以テ災害豫防ノ一方法トスル必要ヲ認ムルノデアアル從テ本員等ハ政府當局ガ進ンデ右官制ノ改正ノ舉ニ出デラレンコトヲ促シテ止マヌノデアアル
更ニ又本員等ハ右官制ノ改正ニ際シテハ鑛山ニ於ケル勞働行政ヲ鑛山監督局長ノ監督下ニ置イ

テハ勞働行政ヲシテ内務省社會局ト商工省鑛山監督局トノ支配ヲ受ケ統一アル監督ヲ爲シ得ズ爲ニ幾多ノ不便ヲ生ズルヲ以テ之亦併セテ改正サレンコトヲ望ムト同時ニ此等官制改正ノ意思アリヤ否ヤヲ問ハントスルモノデアアル

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十九日川俣清音君提出ス同月三十日伍堂商工大臣、河原田内務大臣及鹽野司法大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一 決潰ノ原因ニ關スル件

鑛山ニ於ケル災害防止ニ關シテハ常ニ留意シ居ル處ナルガ今後更ニ之ガ徹底ヲ期セントス尙明年度追加豫算ニ鑛山災害防止ニ關スル經費ヲ計上シテ監督機構ノ擴充ヲ圖ルコトトシタルガ鑛業法規ノ改正ニ當リテモ鑛業警察事務ニ付十分攻究スルコトト致度

二 施設案違反ニ關スル件

尾去澤鑛山施設案ニ付テハ中澤并止堤防第一次百四十尺ノ築造ニ付昭和六年四月五日附提出、第二次六十尺ノ築造ニ付昭和八年二月六日附提出アリタルモノニシテ右施設案ニ付テハ十分之ヲ檢討シ支障ナキモノトシテ受理シタルモノナリ而シテ施業中鑛業法ニ違反セル點ハ同鑛山鑛滓堆積方法ノ本旨ニ悖リ送泥シタルコトニ關スルモノニシテ右ハ長期ニ互リタルモノニ非ズ尙實地調査ノ際ニハ施設案通り操業ヲ爲シツ、アリタルモノナリ

三 政府ノ監督ニ關スル件

漏水及排水管故障後仙臺鑛山監督局職員ガ出張シタルハ第二質問ニ對スル答辯書中ニ記載セル通金鑛買鑛事情及坑内狀況調査ヲ目的トスルモノニシテ坑外保安日誌ヲ點檢セザリキ又昨

年十二月二十八日ノ操業開始ハ鑛山監督局ト鑛山トノ間ニ行違ノ廉アリテ行ハレタルモノナリ尙扞止堤防ト人家ノ關係ニ付テハ十分留意シテ居ル所ナルモ獅子澤扞止堤防下ノ家屋移轉ニ關シ特ニ警告ヲ發シタル事實ナシ

四 責任者處分ニ關スル件

本件ハ所轄檢事局ニ於テ未ダ捜査中ニシテ其ノ完了ヲ俟ツニ非ザレバ起訴不起訴何レトモ決シ難シ又仙臺鑛山監督局長ニ對シテハ曩ニ十分戒飭ヲ爲シ將來ニ對シ嚴重注意スル様訓告ヲ發シタルヲ以テ右處分ヲ以テ妥當ナルモノト思料ス

五 將來ノ災害防止ニ關スル件

工場、鑛山ニ勞資協同組織ニ依ル安全委員會ヲ設ケテ災害防止ノ方法ヲ講ズルコトハ極メテ有效適切ナルヲ以テ從來極力獎勵セル所ナルモ法規ヲ以テ一樣ニ之ガ設置ヲ強制スルコトニ付テハ目下研究中ナリ

六 鑛業權取消ニ關スル件

三菱鑛業株式會社ニ對シ鑛業法第四十四條ノ規定ニ依ル鑛業權ノ取消ヲ爲スノ要ナキモノト認ム

七 鑛山監督局官制改正ノ件

鑛山監督局官制等ノ改正ニ付テハ鑛業法規ノ一般の改正ト關聯シテ攻究スルコトト致度

三二 帝國在郷軍人會會員國有鐵道運賃割引ニ關スル質問

帝國在郷軍人會ノ目的ハ 聖旨ヲ奉體シ軍人精神ノ鍛鍊ト軍事能力ノ増進トヲ主眼トシ會員ハ一致協力此ノ目的ヲ達セムカ爲致々トシテ奉公ノ實ヲ擧ケツツアルモノニシテ或ハ生業ヲ抛チ

或ハ私財ヲ投シテ本會事業ノ實施ニ努メ全ク自己ノ利害得失ヲ顧ミルコトナク一意國家ニ奉仕セムトスルモノニシテ其ノ純真ナル精神ヨリ發スル功績ハ朝野ノ均シク認メテ多トスル所ナリ然ルニ從來會員ノ此ノ多大ナル犠牲ニ對シテ國家ヨリ報イラルル所極メテ薄ク本會ノ甚々遺憾トスル所ナリ殊ニ本會會員會務旅行ノ際ノ如キハ各人ニ頗ル多額ノ負擔ヲ課スルノ實情ニアル爲屢々情ヲ具シ其ノ割引ヲ請願セシモ 私的團體タルノ故ヲ以テ容レラルル所トナラス以テ今日ニ至レリ然ルニ昨年十一月三日優渥ナル 勅語ヲ賜ハリ公的ノ團體トシテ勅令ノ公布ヲ見ルニ至リシヲ以テ當局トシテハ從來ノ請願ニ付テ斷然見直スヘキハ當然ナリト信ス

政府ハ帝國在郷軍人會ノ目的ニ鑑ミ同會員會務ノ爲旅行スルトキハ國有鐵道ノ運賃ヲ五割低減シ又官公衙ノ主催スル會合等ニ團體トシテ參列スル場合ハ國有鐵道旅客及荷物運送規則第八十七條ノ特別團體トシテ取扱ヒ以テ其ノ目的達成ヲ助成スルノ意思ナキヤ政府ノ明快ナル答辯ヲ求ム

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十九日服部米次郎君外五名提出ス同月三十日伍堂商工大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

本件ニ關シテハ從來ノ經緯モアリ又軍部關係ノ各種割引トノ關係アルヲ以テ之等ト併セ十分研

究スベシ
右及答辯候也

三三 度量衡法改正ニ關シ調査會ノ審議ニ關スル質問

現在ノ度量衡法ハ我カ國情ニ即セサルヲ以テ本院ニ曩ニ第六十五回及第六十七回議會ニ於テ二回マテ改正法律案ヲ通過シ又第六十九回議會ニ於テハ度量衡法改正ニ關シ調査會審議速進ニ關スル建議ヲ爲シタリ然ルニ其ノ後同調査會ノ審議ハ遅々トシテ進マズ國家竝國民ノ爲洵ニ遺憾ニ堪ヘス政府ハ之ニ關シ如何ニ考慮セラルルヤ又從來ノ審議經過如何
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月十九日東武君外四名提出ス同月三十日伍堂商工大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

度量衡制度調査會ハ其ノ開設以來我國ノ度量衡制度及其ノ運用ニ付審議ヲ行ヒ總會ヲ開クコト四回、特別委員會ノ審議ヲ行フコト三回ニ互リ、更ニ審議ヲ促進スル爲小委員會ヲ設ケ目下折角審議中ナリ其ノ審議事項ハ極メテ重要ナル問題ナルヲ以テ特ニ慎重ナル審議ヲ行フ要アルモ政府ニ於テハ銳意其ノ審議ノ進捗ヲ圖ルコト致度
右及答辯候也

三四 教育改革ニ關スル質問

現下我ガ國ノ教育及學制ハ時勢ノ進運ニ伴ハズ又社會ノ實情ニ即セズ多大ノ國帑、時間、勞力ヲ費スニモ拘ラズ教育ノ實效擧ラズ爲ニ各種學校ノ卒業生ハ進取ノ氣象薄ク獨創力乏シク國運ノ進展ニ大ナル支障ヲ來シ居ルハ否定スベカラザル事實ナリ今ヤ我ガ國ハ萬難ヲ排シテ一大躍進ヲ爲サザルベカラザルノ秋國家活動ノ源泉タル國民教育ヲ永クスノ如キ現狀ニ放任スルハ國家將來ノ爲誠ニ寒心ニ堪ヘズ是レ茲ニ現下教育改革上最モ重大ナリト思惟スル諸點ヲ擧ゲ敢テ政府ノ所信ヲ質サントスル所以ナリ

質問第一 義務教育ノ延長ハ最モ急務ナリト認ム政府ハ何故ニ本會議ニ其ノ提案ヲ中止シタルヤ又次ノ議會ニ之ヲ出ス意思アリヤ

質問第二 我ガ國ノ教育及學制ハ全般ニ互リ大改革ヲ爲スノ必要アリト認ム政府ノ所見竝ニ其ニノ具體案ヲ示サレタシ

質問第三 以下示ス各種學校其ノ他ノ改革案ニ付政府ノ所見如何

其ノ一 大學教育

- 一 大學ノ學風ヲ改メ聽講自由、教授自由、轉校自由ノ制ヲ採リ學閥ヲ排除シ教授獨占ノ弊ヲ矯メ學生ヲシテ自ラ優良教授ヲ選擇シ得ルノ途ヲ開クコト
- 二 講義ハ筆記教授ヲ廢スルコト
- 三 學生ノ聽講時間數ヲ少クシ(一週凡ソ十五時間以内)自學自修以テ其ノ研究心ト創造力トヲ高メシムルコト
- 四 官立ノ大學ニ於テモ歐米ノ大學ニ於ケルガ如ク夜間教授、二部教授(午前、午後同一講義ヲ爲スコト)ヲ爲シ以テ生徒ノ收容力ヲ増加スルト共ニ又一面晝間職業ヲ有スル者ノ爲ニ修學ノ便ヲ開クコト
- 五 特別ノ場合ヲ除クノ外大學ノ講義ハ之ヲ公開シ以テ學生以外ノ篤志家ヲシテ聽講セシムルコト
- 六 夏期大學、巡回大學、民衆講演ヲ盛ンニシ大學教育ノ普及ヲ圖ルコト
- 七 特別ノ場合ノ外大學ノ入學試驗ハ之ヲ廢スルコト
- 八 大學々生ノ德育及體育(衛生)ニ一層力ヲ入ルルコト
- 九 各分科大學生ニ憲法ヲ必修科目トスルコト
- 一〇 大學卒業ニ伴フ凡テノ特權ヲ廢スルコト

一一 大學ノ教員ノ採用方法ヲ改正シ學閥ノ弊ヲ除キ廣ク人材ヲ登用スルコト

一二 大學教授ノ停年制ヲ改メ優良ナル教授ヲシテ永ク其ノ職ニ止ラシムルコト

其ノ二 各種專門學校

一 專門學校ノ學風ヲ大學ニ準セシメ學年制ヲ廢シ學科別自由聽講制トシ又筆記教授ヲ廢シ生徒ノ聽講時間數ヲ少クシ自學自修ノ風ヲ高メ以テ研究心、創造力ヲ養フコト

二 專門學校ノ卒業生ハ簡便ニ大學ニ入學シ得ルヤウニ爲スコト

三 專門學校ノ修業年限ノ制限ヲ廢スルコト

其ノ三 高等學校

一 高等學校ノ收容人員ヲ増加シ以テ入學難ノ緩和ヲ圖ルコト

二 高等學校ノ設立ヲ簡易ニシ各府縣ノ中學校ヲ一二校ヅツ七年制ノ高等學校ニ改變シ又實業專門學校トノ併設ヲ許スコト(現行ノ七年制ヲ六年制ニ改ムル研究ヲ爲スコト)

三 高等學校ニ於テモ二部教授、夜間教授ヲ爲シ生徒ノ收容力ヲ増スト共ニ一面貧民子弟ノ就學ニ便ナラシムルコト

四 學年別進級ノ制ヲ廢シ學科別進級ノ制ニ改ムルコト

五 必修科目ヲ少クシ隨意科目ヲ多クスルコト

六 聽講時間數ヲ減シ自學自修ヲ獎勵スルコト
七 德育及體育ニ一層力ヲ入ルルコト

其ノ四 中學校

一 土地ノ必要ニ應シ小學校、中學校、高等女學校、中等實業學校ノ併設ヲ許スコト
二 高等小學校卒業者ヲ中等學校第三學年ニ入學セシムルノ便ヲ圖リ中學校内ニ特別ノ學級ヲ設クルコト
三 中學校ニ於テモ入學志望者ヲ全部收容シ能ハザル場合ニハ二部教授ヲ爲シ又夜間中學ヲ盛
ンニシ入學難ヲ緩和スルト共ニ貧民子弟ノ入學ニ便スルコト
四 學年別進級ノ制ヲ改メ學科別進級ノ制ニ改ムルコト
五 必修科目ヲ少クシ隨意科目ヲ多クスルコト

其ノ五 女子教育

一 女子教育ヲ一層盛ニスルト共ニ女學校ノ制度ニ於テモ中學校ノ部(一乃至五)ニ述ベタル
ト同様ノ改革ヲ爲スコト殊ニ高等女學校ニアリテハ都會地ニ於テハ現行制度ノ通り尋常第六
學年修了者ヲ入學セシムルヲ可ナリトスルモ農村地方ニアリテハ高等小學校第二學年修了者
ヲ入學セシムルヲ本則トシ其ノ修業年限ヲ三箇年トスルコト

二 高等女學校ノ教育ヲ一層良妻賢母主義トシ併セテ職業教育ヲ授クルコト

其ノ六 實業教育

一 中等程度ノ實業學校ニアリテハ中學校ノ部(一乃至五)ニ述ベタルト同様ノ改革ヲ爲スコト
二 中等實業學校ニ於テ高等小學校卒業後一二箇年實地農業、工業等ニ従事シタル者ヲ入學セ
シメ其ノ修業年限ヲ凡ソ二箇年程度トスル特別學級ヲ設クルコト
三 實習ヲ多クスルコト
四 成ルベク實地ノ經驗アル者ヲ教員ニ採用スルコト
五 學校ト實業家トノ連絡ヲ圖リ實業家ノ爲ニ講義ノ公開、特別講義ノ開催、實驗室、圖書館ノ
一開放、研究ノ指導、講義録ノ發行等ヲ爲シ又學校生徒ノ爲ニ民間工場ノ利用、實際家ノ講演
ヲ爲サシムルコト

其ノ七 師範教育

一 近時教育者ノ教育的精神低下ノ傾向著シク教育界ニ醜惡ナル事件甚ダ多シ大ニ教員ノ人格
教育ニ重キヲ置ク必要アルコト
二 師範學校ノ教育程度ヲ高メ專門學校ト同等ニスルコト
三 現在ノ文理科大學ハ之ヲ師範大學トシ其ノ内容ヲ改革シ教育ノ科學的研究ト其ノ實驗トヲ

徹底セシメ以テ教育ノ實質ヲ高ムルコト
四 現在ノ高等師範學校及文理科大學ノ學風ヲ改革スルコト(前記大學教育ノ部ニ述ベタル一乃至十二ニ準ズルコト)

五 高等師範學校及文理科大學ニ於テハ夜間教授、二部教授ヲ行ヒ以テ收容人員ヲ増加セシメ又一面小學校教員ヲシテ夜間又ハ土曜日午後等ニ於テ學習シ得ルノ便ヲ開クコト

其ノ八 小學校教育及補習教育

一 高等小學校ハ土地ノ狀況ニヨリ其ノ修業年限ヲ三箇年トシ普通學科、實業學科ニ分チ之ヲ初等中學校トシ卒業後實社會ニ活動スル者ト上級ノ學校ニ入學スル者トニヨリ適宜學科ノ選擇ヲ爲サシム初等中學校ハ男女共學トスルコトヲ得

二 小學校ヲ卒業シ實業ニ從事スル者ニ對シ一定期間毎週數時間補習教育ヲ義務トシ人格修養竝ニ職業ニ關スル専門的知識ヲ授クルコト

三 徒弟職工試驗制度ヲ設ケ一面補習學校(青年學校)ニ於テ教育ヲ爲スト共ニ雇主ヲシテ徒弟教育ノ義務ヲ負ハシムルコト

其ノ九 高等國民學校

全國各郡ニ一校(大ナル郡ニハ二校以上)高等國民學校ヲ設ケ農村ニアリテハ農閑ノ期節ヲ利用

シ雪國ハ冬期三四箇月間(女子ハ夏期)暖國ハ年中毎週一二日間授業ヲ爲シ年齡十七八歳以上ノ者ヲ入學セシメ其ノ修業年限ハ二年又ハ三年トシ精神教育ト職業教育トヲ施シ以テ農村ノ中堅人物ヲ養成スルコト

其ノ十 特殊教育

一 盲啞教育ヲ普及セシメ之ヲ義務制トスルコト

二 不具者、癩癩兒童、白痴兒童ノ教育施設ヲ普及スルコト

三 吃音矯正ヲ普及スルコト

其ノ十一 社會教育

一 圖書館ヲ増設シ其ノ利用ヲ益盛ンナラシムルコト

二 映畫教育ヲ盛ンナラシメ教育的映畫ノ製造、一般映畫ノ檢閲ニ力ヲ入ルルコト

三 全國一般ニ系統アル各種學術ノ講演會ヲ開催シ知識ノ普及ヲ圖ルコト

四 體育會ヲ盛ンニシテ商工業ニ從事スル徒弟職工、店員、會社員、官公吏員其ノ他ノ一般國民ノ體育ヲ獎勵スルコト

五 音樂、演劇、浪花節等通俗教育ニ關係アルモノヲ改良シ國民ノ娛樂ト精神教育トニ資スルコト

六 博物館、動物園、植物園ヲ普及セシムルコト

其ノ十二 入學難、試験地獄ノ救済

我が國ノ學校ハ之ヲ歐米諸國ニ比スレバ生徒ノ收容人員甚ダ少ク多數ノ入學志望者ニ向ツテ入學試験ヲ行ヒ一定少數ノ者ヲ選抜入學セシムルガ爲ニ學校教育ハ入學試験準備タルノ弊ニ陥リ生徒ハ入學試験ノ難關ヲ突破センガ爲ニ過度ノ勉強ヲ爲シ身心ニ障害ヲ及ボシ教育上實ニ憂慮スベキ状態ノ下ニアリ此ノ所謂試験地獄ノ弊害ヲ除去スルコトハ我が國教育ノ改革上極メテ重要ナルコトニ屬ス之ガ救済策ハ學校ノ種類ニヨリ一樣ニ論ズルヲ得ザルモ凡ソ左ニ列舉スルガ如キ方法ニヨリ特別ノ場合ヲ除クノ外入學試験ヲ行ハザルヲ可トスベシ

- 一 中等學校、大學等ニ於テハ其ノ設備ヲ利用シ二部教授、夜間教授ヲ施シ其ノ收容人員ヲ増加スルコト(二部教授、夜間教授ハ歐米ノ學校ニハ一般ニ行ハルル所ナリ)
- 二 既設學校ヲ擴張シ生徒ノ收容人員ヲ増加スルコト(日本ノ學校ハ歐米ノ學校ニ比シ收容人員少シ)
- 三 中等學校、專門學校、大學等ニ於ケル一學校一學級ノ生徒定員ノ制ヲ撤廢スルコト
- 四 學校ノ新設ヲ容易ナラシムルコト(各種學校ノ併設、設備ノ制限緩和等ニヨリ)
- 五 私立學校ノ補助ヲ増加シ其ノ設備及教員ノ改良ヲ爲サシムルコト

六 入學スベキ學校ノ選擇ニ關シ適切ナル指導ヲ爲スコト

七 中等學校ノ如キハ入學試験ヲ廢シ學區制、抽籤等ノ方法ニヨリ入學セシムルコト

八 學校ノ特權ヲ廢止スルコト

九 講義録、教科書等ニヨリ獨學者ヲ指導スルノ制ヲ設ケ學校ニ入學セズトモ同等ノ實力ヲ附ケシムルコト

其ノ十三 教育内容ノ改善

我が國ノ教育ニ於テ德育、智育、體育等凡テノ方面ニ其ノ内容ノ改善ヲ要スベキモノ少シトセズ今其ノ顯著ナリト思惟セラルルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

- 一 敬神ノ念ヲ一層高メシムルコト
- 二 國體ヲ明徴ナラシムルコト(凡テノ學校生徒ニ憲法ト日本歴史トヲ能ク理解セシムルコト)
- 三 宗教ヲ輕ンズルノ弊ヲ除クコト
- 四 人格教育ニ重キヲ置キ各生徒ニ適切ナル個人教育ヲ施シ小學校ニアリテハ學校ト家庭トノ連絡ヲ圖リ中等學校師範學校等ノ寄宿舎ノ設ケアルモノニアリテハ英國ノ「パブリック・スクール」(日本ノ昔ノ塾風)ノ例ニ倣ヒ小寄宿舎ヲ設ケ之ヲ教師ノ住宅トシ生徒二十人乃至四十人位ヲ同宿セシメ家族的ニ親切ナル教育ヲ施スコト(小寄宿舎制ハ建築費モ少ク實行

上困難ナラズ)又中等學校ニアリテハ生徒ノ風紀、規律ノ取締ハ生徒ノ自治ニヨラシムルコト

五 智育ニ於テハ注入的教授ヲ避ケ生徒ノ自學自修ヲ尊重シ以テ自發的研究心竝獨創力ヲ涵養スルコト

六 體育ニ於テハ生徒個人ニ適スルヤウ體操及遊戲ヲ課シ兼ネテ一層衛生ニ關スル知識ヲ授クルコト

其ノ十四 其ノ他教育及學制上ノ改革

一 學校制度ノ畫一ヲ打破スルコト

我が國ノ教育制度ハ之ヲ歐米諸國ニ比スレバ餘リニ畫一ニ過グ學校ノ種類、修業年限、每週教授時數、學科目、教科書、試驗制度、教授ノ内容、教授要目等細節ニ至ル迄規定セラレ土地ノ情況(都會ト農村、寒國ト暖國等)生徒將來ノ志望等ニ對スル斟酌ノ程度少ク又校長及教員ノ自由研究ヲ束縛シ新工夫ノ案出ヲ妨ゲ教育ノ發達ヲ阻害ス故ニ全般的ニ畫一制度ヲ打破スルノ必要ヲ認ム

二 學校ハ日曜日ノ外土曜日ヲモ休日トスルコト

「アメリカ」ノ學校ニ於テハ土曜日及日曜日ノ二日ヲ休日トシ每週授業日數ハ五日ナリ此ノ制

度ニテハ生徒各自ガ每週二日間自由ニ行動ヲ爲スコトヲ得テ教育上及衛生上有效ナルガ如シ即チ身體ノ病弱ナル生徒ハ此ノ二日間ヲ保養、運動等ニ費シ學力ノ劣等ナル生徒ハ豫修復習ノ餘暇ヲ生ジ又他ノ者ハ家業ノ見習、其ノ他勞働ニ從事シ或ハ嗜好ノ學科ヲ研究シテ天才ヲ發揮シ日曜學校ニ出席シ神社、佛閣ニ參拜シ而モ寺院教會堂ニテ宗教講話ヲ聽ク等學校以外ノ實際社會ノ知識經驗ヲ得單ニ學校教育ノミヲ以テ青年時代ヲ全ク終始スルヨリモ一層人生ニ有益ナルノ感アリ仍テ今直ニ全國各學校一律ニ之ヲ實施セズトモ試ニ一地方又ハ學校長ノ希望スル者ヲシテ之ヲ實驗セシムルノ價值アルベシ

三 國際知識ノ涵養ト植民教育ノ必要ナルコト

我が國ハ國土狹小、人口過多ナルヲ以テ大ニ海外ニ發展スルノ必要アリ故ニ下小學ヨリ大學ニ至ルマデ世界ノ大勢、國際關係ノ現狀、各國ノ領土ト其ノ侵略史、資源、人種民族、各國ノ軍備等ニ關スル知識ヲ授ケ又一面世界各國及日本ノ移植民事情、移植民史、移植民地、外國貿易等ニ精通セシメ以テ我が國策ノ大方針ヲ知ラシムベシ

其ノ十五 視學制度及學務官吏

現時教育者ノ指導及監督其ノ宜シキヲ得ズ爲ニ教育者ノ人事行政及教育能率甚シク低下ス大ニ視學及督學制度及其ノ養成法ヲ革新スルノ必要アリト認ム

- 一 府縣ノ視學ハ其ノ待遇ヲ高メ之ヲ奏任官トシ主席視學官ハ勅任官トスルコト
 - 二 文部省ノ督學官ハ凡テ勅任官トシ現在ノ如ク督學官ヨリ高等學校長、高等師範學校長等ニ轉ズルヲ榮譽ト見ラレルガ如キコトナカラシムルコト
 - 三 府縣ノ學務部長ハ主トシテ師範學校長、中學校長等ノ經歷アル者ヨリ採用スルコト
 - 四 府縣ノ視學及文部省督學官ハ其ノ數ヲ増シ學校ノ指導及監督ヲ適切ナラシムルコト
 - 五 全國ニ凡ソ五箇所位督學局ヲ設ケ中等學校、專門學校等ノ指導監督ニ當ラシムルト共ニ教員ノ人事行政ヲ司ラシムルコト
 - 六 文理科大學(師範大學)ニ視學及督學ニ關スル講座其ノ他ノ設備ヲ爲スコト
 - 七 文部省督學官及學務官吏ハ交代ニ少クモ一二年ヅツ陸海軍ノ大使館附武官ニ準ジ歐米ノ主要ナル國(「アメリカ」、「イギリス」、「フランス」、「ドイツ」)ノ四箇國ニ滞在シ外國ノ教育及學制ノ變遷ヲ研究セシメ之ヲ全國民ニ知ラシムルコト
 - 八 府縣ノ中等學校長、師範學校長、小學校長、府縣視學等ヲシテ歐米ノ學校視察ヲ爲サシムルコト
- 右及質問候也
- 右質問主意書ハ昭和十二年三月二十二日服部教一君提出ス同月二十四日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

三五 官吏制服制定ニ關スル質問

官吏勤務生活ノ簡易輕快ト經費節減ノ爲ニ制服ヲ考案セムト欲スル要望アリ
 政府ハ出來得ルタケ速ニ之ヲ實現セムトスル意圖ナキヤ
 右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十三日森下國雄君提出ス翌二十四日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

三六 南朝鮮總督ノ高調力説スル「鮮滿一如」ノ標語カ朝鮮統治上民心ニ及ホス影響ニ關スル質問

朝鮮總督陸軍大將南次郎氏ハ昨年總督就任以來「鮮滿一如」ナル標語ヲ掲ゲテ新附二千萬ノ同胞ニ呼掛ケテキル。

本員等ハ我が衆議院ノ特別委員會ニ於テ此ノ標語ノ真意ニ付政府委員タル朝鮮政務總監大野祿一郎氏ニ質シタル處、何等深キ政治的的思想の意味ヲ有セザルモノデアルトノ答辯ヲ得、南總督ノ真意ハ大體之ヲ諒トスルモノデアアル。

從ツテ總督ノ真意ヲ深ク非難セントスル意思ナキコトヲ明白ニシテ置ク。

併シ其ノ「スローガン」ガ用語トシテ意外ノ誤解ヲ伴フ不妥當ノモノナルノミナラズ、其ノ誤解カラ招ク新附民衆ノ錯覺ニ、南總督ノ豫想セザル惡結果ノ醞釀サレルコトヲ警告スルモノデアアル。

鮮滿ハ内鮮ト言フトハ全然關係ヲ異ニシ、相對立スルニツク存在デアアル。

滿洲國ハ我が國トハ特殊ナ依存の親善關係ニ在ルケレドモ、儼然タル一個ノ獨立國家デアアル。而シテ朝鮮モ亦其レトハ別個ノ獨立國家タル日本帝國ノ一領土デアアル。朝鮮ハ現實ニ於テ内地ト一如タルノミナラズ、悠久ノ過去ニ於テ又一如タリシ古史ヲ有スルコトハ、史的研究者ノ熟知スル所デ、獨リ文化的ノミナラズ、民族的ニモ、結ンデ一體タルベキ宿縁ヲ有スルモノデアアル。其レ故ニ内鮮融和ガ叫バレルコトハ久シイ。然レバ内鮮一如ヲ「スローガン」ニ叫ブナラバ極メテ自然デアアリ、今又接壤地帯ニ滿洲建國ヲ見タル曉ニ於テ、最モ必要デアリ一層適切デアアル。

即チ内鮮同化融合一致ノ實ヲ擧ゲテ、金剛不壞ノ鞏固ナル結晶體タラシメ、是ヲ以テ滿洲國ヲ兄弟ノ國トシ、共存共榮ヲ冀フコトハ、極メテ喫緊ノ要事ト考ヘル、本員等ノ日韓併合以來ノ「スローガン」ハ内鮮一如デアツタ。然ルニ今急ニ南總督ヲシテ、突如「鮮滿一如」ノ「スローガン」ヲ叫バシメレバ、多數朝鮮ノ民衆ハ誤ツテ、之ヲ以テ前者ニ代ヘタモノト想察スルモ測リ知レナイ。朝鮮ハ併合以來二十有七歳ヲ經過スト雖、尙ホ新附ノ民タルヲ免レヌ。新附ノ民ハ時トシテ疑惑ヲ抱キ易ク、之ヲ解クニハ藉スニ、相當時日ヲ以テセナケレバナラヌ、本員等ハ今此ノ時間ヲ短縮スルコトニ畢生ノ努力ヲ傾倒シツツアルノデアアル、今ヤ朝鮮ノ同化ニ長足ノ進歩アルコトヲ信ズルケレドモ、尙ホ疑心ニ暗鬼ヲ宿シ、思想的ニ内地ニ親シマヌ危險性ヲ潛メル者ノ存在ヲ全然否定シ得ヌノデアアル、然ルニ今卒然「鮮滿一如」ノ聲ヲ聞ケバ、日本ハ新興滿洲國ガ偶、朝鮮ト接壤地帯タルヲ幸トシ、滿鮮ヲ結ビ一如ノ一大獨立國家ヲ形成セシメ、之ヲ外郭ト爲シテ、對大陸進展ノ第一線タラシムルモノト早計セザルモ測ラレヌ。何トナレバ「一如」ノ「如」ハ真如、如來等ト稱スル「如」ノ義デアツテ「如シ」ヲ意味セズ、不異不易又ハ平等不差別ヲ意味スル、即チ一如ハ佛語デアツテ、猶ホ「一體」ト言フガ如キモノデアアル。「鮮滿一如」ハ「滿鮮一體」ト解セラレル。精神的ニ内鮮一體ニ代ヘテ滿鮮一體ヲ提唱スルコトハ、漸ヲ以テ政治的ニ「内鮮一體」ニ代フルニ「滿鮮一體」ヲ以テスル意思ニ非ズトハ何人ガ正解シ得ルモノゾ。

特ニ思ヘバ南朝鮮總督ハ、曾テ關東軍司令官タリ、而シテ大野政務總監モ亦其ノ女房役タル關東局總長トシテ、滿洲ニ居ツタ人デアリ、共ニ最モ能ク滿洲國ヲ知り、滿洲國ニ親シミ深イ人達デアルヲ知ラバ、感情上カラモ、自然ニ其ノ親シム所ニ引カレテ、斯ノ如ク滿鮮ヲ打ツテ、一丸トスル新國是ヲ定メ、鮮滿一如ノ新「スローガン」ヲ提唱スルニ至ツタモノダト臆測セシメルコトモ、必ズシモ想像ノ徑路ナシトハ斷ジ難イ、是ガ本員等ノ此ノ「スローガン」ヲ以テ、極メテ怖ルベキ一大禍根ヲ培フ不用意ニシテ、且ツ不妥當ナル用語ナリト絶叫セシメル所以デアル。

然ルニモ拘ラズ、此ノ「スローガン」ハ特ニ南總督ノ揮毫ヲ請ヒ、朝鮮總督府ノ機關紙タル京城日報ノ今年ノ新年附録ニ、額面用トシテ普ク購讀者ニ頒布サレテ居ル、恰モ之ト時ヲ同ジウシテ民論代表紙タリトモ見ルベキ朝鮮新聞ノ新年附録ニハ「新興朝鮮」ト題スル同ジク南總督揮毫額面用墨蹟ヲ添ヘタ爲ニ、此ノ兩紙ノ附録ヲ併セ有スル家々ニハ、一對ノ額面トシテ共ニ相問ニ掲ゲ、日夕幾十百萬人ガ仰ギ觀テ「新興朝鮮、鮮滿一如」ト連讀シ、之ニ由ツテ意味ヲ取ルガ故ニ、南總督ノ統治下ニ立ツ新興朝鮮ノ指導精神ハ、鮮滿一如デアルト誤解シテ、事實上今ヤ此ノ「スローガン」ガ、全鮮ニ漲ル話題ノ中心トナリ、其ノ禍害ノ及ブ所測リ知ルベカラザルモノガアル。

更ニ思ヘバ滿洲國ハ五族協和ヲ叫ブガ、朝鮮民族モ亦其ノ一ニ居リ、其ノ數優ニ百萬ヲ算スル。此等ガ錯覺ニ基キ、共ニ思想的ニ政治的ニ「鮮滿一如」ヲ叫ンデ立チ、朝鮮ト呼應シテ内地ヲ離レ、滿洲ト結ブノ新運動ヲ起サシムルコト若シアリトセバ、是コソ由々シキ大事ナリトハ考ヘラレヌカ、本員等ハ南朝鮮總督ノ眞意ノ全然此ニ在ラザルヲ確信スルモ、如何セン此ノ用語ニハ斯ノ如キ危險性ヲ包藏シ、朝鮮統治上民心ニ及ボス影響頗ル大ナルモノアリト認ムル。南朝鮮總督ハ、相當ノ釋明ヲ爲シスル「スローガン」ノ大書サレタ額面用墨蹟ヲ殘リナク回收シ了ル事ガ其ノ禍害ヲ大ナラシメザルベク、喫緊ノ要ナリト斷ズル。

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十五日牧山耕藏君外三名提出ス同月二十七日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

三七 叛亂事件ノ徵兵ニ對スル國民心理ニ及ボス影響並肅軍ニ關スル質問

一五・一五事件、一二・二六事件等近來餘ニモ頻發セシ叛亂事件ガ國民ノ軍部ニ對スル信用延テ

ハ徵兵成績ニマデ影響スル所極メテ大ナルモノガアリト憂ヘラレル。

毎年徵募サレル兵役ノ義務ニ服スル壯丁等ハ、其ノ兵營ノ門ニ向フニ當ツテ、君國ニ對スル奉公ノ至誠ニ燃エ、選バレ召サレタル、陛下ノ軍人トシテノ名譽ト矜リニ勇ミ立ツノデア。然シ乍ラ彼等ハ其ノ家庭の事情ニ於テ決シテ全部ノ者ガ後顧ノ憂ヒナシトイフモノデハナイ。彼等子弟ノ大部分ハ一家ノ生活ヲ助ケル所ノ働キ手デアリ、又更ニ或ル者ハ一家ノ生活ヲソレ自身ニ於テ支ヘテ居タ所ノ者デア。サレバ其ノ兵役ノ義務ニ服スル事ハ家庭の事情ニ於テ誠ニ忍ビ得ザルモノアルモ彼等ハ私ノ事情トシテ凡テ之ヲ忍ビ、家族マタ涙ヲ押シ隠シ、萬歳ヲ叫ンデ子弟ヲ兵營ノ門ニ送り、子弟等又欣然トシテ

大元帥陛下ノ御統率ノ下ニ馳セ參ジ一死報國ノ赤誠ヲ捧ゲテ他意ナイモノデア。

日本ノ軍隊ハ 大元帥陛下ノ御統率シ給フ所デア。改メテ申ス迄モ無イ。而シテ一兵士ノ末ニ至ル迄 陛下ノ軍人デア。然ルニ二二六事件ニ際シテ彼等ハ上官ノ威令ニ反抗シ難ク、叛軍ノ汚名ヲ負ハザルヲ得ナカッタ。兵士等ハ事ノ如何ヲ問ハズ、上官ノ命令ニ服從セネバナラヌ掟ヲ守ツテ叛亂虐殺ノ銃火ヲ國家ノ重臣ノ上ニ加ヘタノデア。叛亂將校ハ大元帥陛下ノ軍隊ヲ上官ノ命令トシテ恣マニ動カシ、私シタノデア。斯クテ軍規ハ全ク亂サレタノデア。

神聖ナル 陛下ノ軍隊ヲ冒瀆シタル事、之ヨリ甚ダシイモノガアルデアラウカ。大元帥陛下ノ犠牲トナツタ重臣ノ生命モサル事ナガラ、軍規ヲ紊亂シタル叛亂將校ノ罪ハ更ニ更ニ重大デアツテ、拭フベカラザル汚點ヲ陸軍軍史ノ上ニ與ヘタノデア。而シテ此ノ叛亂將校ノ行動ガ、國民ニ與ヘタ影響ノ深甚ナル事又掩ハレヌ事實デア。即チ國民ハ爾來徵兵ニ對スル不安ヲ著シク感じテ居ルノデア。

二二六事件ニ於テ反抗力ヲ持タヌ兵士等ガ、叛軍トシテ働カサレ餘儀ナク引摺ラレテ行ツタ、アノ場面ヲ想像スレバ國民ノ軍隊生活ニ對スル不安ヲ感ズル事又故無シトセヌ。本員ハ二二六事件ニ叛軍ニ參加セル兵士等ニ多數ノ知人ヲ有スルノデ、具サニ實情ヲ見聞シテ居ルガ、他ノ除隊兵等ガ郷黨ノ熱意ヲ籠メタ盛ナ歡迎ヲ受け、得意滿面、一門限り無キ光榮ニ酔ウテ祝酒ヲ酌交スニ引替ヘ、是ハ又何タルミジメサデアラウカ。叛軍ノ汚名ヲ負ヒシバカリニ、郷黨何人モ願ル者モ無ク、孤影悄然深夜窓カニ裏口カラ、忍ンデ我が家ニ入り、父子、兄弟相抱イテ泣キ、親戚故舊ノミニヨツテ、濕メヤカニ語り合ヒ、歎息スルト言フ有様デアツタ。現ニ或者ガ本員ヲ訪ネ、『今度私ノ倅ガ徵兵ニ取ラレマシタ、アナタハ陸軍大臣トモ御知合ヒダラウト察シマスガ、決シテ私ノ息子ヲ二二六事件ノ様ナ事ニ、遣ハセヌトイフ一札ヲ取ツテ頂ケマスマイカ』ト極メテ眞顔デ嘆願スルノデアツタ。朴實笑フベキ中ニモ側

側人ヲ動かス心情ニ打タレザルヲ得ナカツタノデアル。

本員ハ此ノ一語ニ強イ感銘ヲ持ツト同時ニ、斯ノ如キ不安ヲ國民ノ腦裏ニ宿サセタ軍隊ハ、非常時局ガ益、我が國軍ノ擴大強化ヲ促シテ已マザル今日、我が國防ノ將來ニ極メテ憂慮スベキモノデアル事ヲ痛感シタノデアツタ。陸軍當局ニ勿論堅イ信念ノアル事トハ信ズルガ、此ノ際徹底的肅軍ガ必要デアツテ、陛下ノ軍隊ヲ、苟且ニモ外敵以外ニ使用スル事態ノ惹起セザル事ヲ切ニ希望スル次第デアル。

陸海軍大臣ハ叛亂事件ノ徵兵ニ對スル國民心理ニ及ボス影響ヲ稽ヘ近ク全國的ニ行ハレントスル徵兵検査ニ當ツテ、聯隊區司令官等ヲ通ジテ何等カノ處置ヲ執リツ、アルカ、陸海軍兩大臣ニ質シタイ。

二 宇垣大將ノ組閣ニ際シ、陸軍ガ之ヲ妨ゲタトイフコトデ、今尙ホ陸軍ニ對スル國民ノ疑惑ガ深く、陸軍ハ其ノ信用上少カラヌ損失ヲ致シテ居ル。之ハ陸軍ノ名譽ノ爲、又威信保持ノ上カラモ深く遺憾トスルモノデアル。本員ハ率直ニ云ヘバ陸軍ガ宇垣大將ノ組閣ニ反對シタ事ニ付テハ肯定スベキ正シキ理由アリト確信スル一人デアル。

三月事件ガ九月事件ヲ培ヒ、九月事件ガ五・一五事件ヲ養ヒ、五・一五事件ガ二・二六事件ヲ孕ンダトイフ様ニ次ギ次ギニ原因結果ノ連鎖ヲ爲シタトスレバ、三月事件ハ頗ル重大ナル禍因

ト斷ゼザルヲ得ヌ。然ルニソレガ臍氣ナガラモ、宇垣大將ニ連及スルカノ如ク匂ハサレ其ノ内容ヲ明示セズシテ、肅軍云々ト陸軍ガ語ル所ニ國民ハ少カラズ疑惑ヲ抱キ、何ダカ陸軍ガ故意ニ宇垣大將ヲ傷ケ、之ヲ國民ノ前ニ誣フルガ如クニ解釋セントシテ居ル。斯ノ如キハ我が帝國陸軍ノ名譽、陸軍ノ信用上ニ由々シイ大事デアルト信ズル。本員ハ偶々所謂三月事件ニ引續キ九月事件ガ發生シタ當時、聊カ其ノ内情ヲ知り得ル地位ニ居タ關係カラ、陸軍ノ宇垣大將組閣反對ニハ十分道理アリト信ズルモノデアル。此ノ疑惑ヲ國民ノ前ニ解クコトハ陸軍ノ爲ニモ、帝國ノ爲ニモ極メテ必要デアルト確信スル。林内閣總理大臣ハ明朗ナル政治ヲ力説サレル。而シテ杉山陸軍大臣ハ陸軍三長官ノ一人トシテ舊誼ヲ思ヒ、自ラ進ンデ宇垣大將ニ大命拜辭ヲ勸告サレタ方デアル以上ハ、最モ其ノ内容ヲ熟知シテ居ラレルト何人モ信ジテ居ルカラ、其ノ疑團ヲ解イテ政治ノ明朗化ヲ圖ツテ貰ヒタイ。本員ノ解スル所ニヨレバ、當時宇垣陸軍大臣時代ニ起ツタ所謂三月事件ニ對シ、徹底的嚴重ノ處分ヲ了シ、禍根ヲ一掃シテ遺棄ナカラシメテアツタナラバ、九月事件乃至五・一五事件、二・二六事件モ共ニ發生セズ、憲政ノ功勞者、犬養毅氏ヲ始メ國家ノ重臣ガ兇彈ニ仆レルコトハ全然ナカツタト想ハレル。實ハ當時本員ハ海軍ニ奉職シ海軍大臣ヲ輔佐シテ政務ニ參畫スル政務次官ノ地位ニ居タカラ、所謂三月事件及ビ九月事件ノ大體ノ事情ハ承知シテ居ル。當時海軍ニテハ之ヲ以テ極メテ重大ナ

ル事件トシテ深甚ノ注意ヲ拂ヒ安保海軍大臣始メ首腦部ニ於テハ草ノ根ヲ分ケテモ、事件關係者ヲ詮索シ、禍根ヲ一掃シテ憂ヒヲ將來ニ貽サザラント謀リ、事苟モ海軍部内ニ關スル限リハ如何ナル犠牲ヲモ忍ブベシト主張シ、陸軍ニ呼掛ケタノデアツタガ、不幸ニシテ彼ノ如キ結果ヲ告ゲザルヲ得ザルニ至ツタ。其ノ結果ハ如何、果シテ海軍ノ憂ヒヲ實現シタデハナイカ。實ニ所謂三月事件並ニ九月事件ガ備ヲ作シテ、後ノ五・一五事件、二・二六事件ヲ生ミシモノデアアル。又宇垣大將ハ時ノ陸軍大臣タリシノミナラズ三月事件ニ關シ特ニ深イ關係、深キ責任アルヤニ信ゼラレテ居ル。サスレバ此ノ宇垣大將ノ組閣ヲ陸軍ノ肅軍途上ニ見ルニ至ルコトハ、全陸軍トシテ頗ル迷惑デアリ、苦痛トサレタニ相違ナイデアラウト信ズル。本員ハ斯ノ如ク諒解シテ居ルガ之ニ關シ本員ノ質問ニ對スル杉山陸軍大臣ノ答辯ハ、甚ダシク、明確ヲ缺ク、重ネテ陸軍大臣ノ所見ヲ質ス。尙ホソレ以外今一ツノ理由ガ永ラク陸軍部内ニ潜在シテ、宇垣大將排斥ノ因ヲ爲シテ居ル様ニ思ハレルモノガアル。其ノ事ハ已ニ世間周知ノ事柄デモアル同ジク陸軍大臣時代ニ、宇垣大將ガ四個師團減縮ヲ斷行シテ、我が國防ノ基礎ヲ危カラシメタ。是レ宇垣大將ガ天下取りノ政治的野望ノ爲ニ、時ノ俗論ニ媚ビ、陸軍ヲ犠牲ニシタルモノト憤慨シ居ルニヨリ、事ノ當否ハ別トシテ、斯ノ如キ陸軍部内ノ情勢ヨリ觀察シテ宇垣大將ノ組閣ヲ軍部ハ欲セヌノデアアル。前ノ原因ト後ノ原因ト、此ノ二ツガ睨合ヒ、共ニ

宇垣内閣成立反對ノ眞因ヲ爲セルモノト考察スルガ、本件ニ關シ本員ノ質問ニ對スル杉山陸相ノ答辯ハ之亦頗ル明確ヲ缺ク、重ネテ所見ヲ質ス。

三 二・二六事件ニ教育總監渡邊錠太郎大將ガ、叛軍ノ虐殺ニ逢ヒシ理由ノ真相如何。去ル二月二十二日ノ豫算委員會ノ席上牧野良三君ノ質問ニ對スル杉山陸軍大臣ノ答辯中ニ政治ノ墮落ヲ二・二六事件ノ突發ニ於テ立證スルガ如キ説明ガアツタ。即チ『是ハ幾ラ軍ノ肅正ヲ致シマシテモ、又軍ノ見ル所ニ於テ政治ノ墮落、是ガ改メラレマセヌ限リハ、始終軍ノ中ニハ今日國家ヲ憂フル至誠カラ、此ノ心持ガ流レテ居ルノデアリマス、此流ヲシテ、一般軍隊ニ斯ノ如キコトヲ致サセナイト云フコトニ付テ、陸軍大臣トシテ、又其直接輔佐ヲシテ居ル者ハ、極力此點ニ付テハ努力ヲ致シテ居ルノデアリマス、』右見解ノ當否ニ就テハ姑ラク茲ニハ觸レヌ、然シナガラ假ニ其ノ説明ヲ肯定スルトシテ、一般政治トハ全然無縁ノ武官、特ニ國民ヨリ崇敬サレ、多數軍人ヨリモ武人ノ典型トマデ仰ガレタ立派ナ人格者教育總監渡邊錠太郎大將ガ、現役將兵ノ手ニヨツテ暗殺サレシ事ハ、如何ナル理由ガ存立スルヤ。國民ニハ陸軍大臣ノ説明ニ依ル、政治ノ墮落ト渡邊大將ノ暗殺トイフ事ヲ結附ケル論理的連鎖ヲ發見シ得ヌ。過日陸相ガ爲セル答辯ノ論據ヲ活カスベク、軍部ノ眼ニ映ジタル此ノ事實ノ真相ヲ質シタイ。

四 五・一五事件及ビ二・二六事件ガ政治ノ墮落ニ由ツテ惹起サレタリシトハ、杉山陸軍大臣ノ議會ニ於テ公言サレタ所デアル。然ルニ五・一五事件、二・二六事件ニ於テ兇手ニ仆レタル人即チ内閣總理大臣犬養毅氏、内大臣子爵齋藤實氏、大藏大臣高橋是清氏、侍從武官長鈴木貫太郎大將、教育總監陸軍大將渡邊錠太郎氏ノ如キ陸軍大臣ノ所謂政治ノ腐敗墮落ト何ノ因縁アリヤ。犬養毅氏ハ天下ノ公黨立憲政友會ノ總裁ニシテ内閣總理大臣ノ重職ニ在リシ人、而シテ議會開設以來常ニ國民代表ノ重責ヲ擔ヒ國家憲政ノ爲奮闘セラレタル人、其ノ識見抱負ニ於テ又人格ノ高潔ナル點ニ於テ國民ノ絕對信賴ヲ受ケシ人デアリ、政治ノ腐敗墮落云々ニハ絶對無縁ノ人ニシテ、杉山陸軍大臣ノ説明セル政治ノ墮落ヲ憤慨シテ暗殺シタト云フ事ハ兇彈ニ仆レタル是等國家ノ重臣ヲ侮辱スルノ甚シキモノト思フ、陸軍大臣ハ重大ナル失言ト思惟セザルカ。近年政治家中ニ幾多ノ疑獄事件ノ續出シタ事實ヲ以テ之ヲ言フカ。然ラバ是ハ獨リ政治家ニ限ラレタ事デハナク、官僚ニモアレバ軍部ニモアル、特ニ最近ノ陸軍ニ於ケル陸軍造兵廠長官陸軍中將植村東彦氏ノ瀆職事件ハ如何。罪惡ノ忌ムベキハ言フ迄モナイガ通觀スルニ此ノ種ノ罪惡ハ普遍的デアル。從ツテ概括的ニ世道人心ノ墮落腐敗ヲ痛歎スルナラバ大ニ理由アルケレドモ、獨リ是ヲ以テ政治ノミヲ鞭ツハ當ラザルノミナラズ、全然斯カル罪惡トハ無縁ニシテ識見人格共ニ一世ノ景仰スル如キ上記ノ人物ヲ暗殺スル事ハ當ラザ

ルノ甚シキモノデアル。元來五・一五事件モ二・二六事件モ、共ニ軍部關係ノ出來事デアリ、軍部ガ其ノ事件ノ責任者トシテ、輕重共ニ第三者ノ批判ヲ受クベキ立場ニ在ルニ、之ヲ忘レテ軍部ガ自ラ第三者ノ如キ批評ノ地位ニ立チ、敢テ之ヲ以テ政治ノ墮落ヲ立證セントスルハ何タル倒行逆施デアラウゾ。論理ノ貫カザル實ニ驚クベキノ極ミデアル。國民大衆ハ如何ニシテモ斯カル叛亂事件ト政治ノ墮落トノ間ニ於ケル論理的連鎖ヲ發見スル事ガ出來ヌ。此ノ問題ニ對シテ國民ノ首肯シ得ル明確ナル理論ガ別ニアラバ承リタイ。

五 宇垣大將ガ折角大命ヲ拜シ乍ラ陸軍ノ反對ニ逢ヒ組閣ガ流産ニ了ツタ事ニ對シテ、重大ナル責任ヲ感ジ、且ツ軍紀弛廢今日ノ如ク下剋上ノ風甚シキニ至ツテハ、一朝有事ノ日ニ大將ハ空名デアリ、三軍ヲ指揮シテ、大元帥陛下ノ御馬前ニ匪躬ノ臣節ヲ勵ム事モ爲シ難イ、斯クテハ畏レ多イトノ考ヲ以テ陸軍大將ノ官職拜辭ノ手續ヲ執ラレタトイフコトハ宇垣大將ガ、天下ニ聲明シタルコトニ依テ國民ハ周知シテ居ルガ、其ノ結末如何。勿論 大元帥陛下ノ大御心一ツニテ願意御聽キ届ケアルモノイモ御決定相成ルベキ事ニテ臣民ノ私議ヲ許サヌ事デアルガ、宇垣大將ノ辭表ハ申スマデモナク之ヲ 大元帥陛下ニ捧呈サレタモノデアルト確信スル。從テ之ヲ陸軍大臣ニ於テ阻止シ、抑留スベキモノデハ決シテナク、又宇垣大將ニシテモ、深キ決意ヲ以テ、飽迄素志貫徹ヲ熱望サレルモノニ相違ナク、徒ニ至尊ノ恩寵ニ忤レテ

辭意ナキ辭表ヲ捧呈スル如キ事ヲ敢テスルモノデナイダケハ、大將ノ人格ヲ尊重スル上ニ於テ之ヲ確信スル。然ルニ宇垣一成氏ノ陸軍大將拜辭ニ處スル杉山陸軍大臣ノ取扱ニ對シ、質問ヲ爲シタルモ陸相ノ答辯ハ事人事ニ關スルガ故ニ答ヘラレヌトノコトデアッタガ、是レ又答辯回避ノ理由ニハナラヌト思フ、陸軍當局ハ宇垣大將ガ組閣スレバ肅軍ニ困ルトイッテ其ノ成立ヲ欲セナカッタ。果シテ宇垣大將ノ人物ガ左様ノ人物デアリトスルナラバ、三軍指揮ノ重職ニ居ルベキ資格ナキモノタルベク、大將ノ自發的意見ニ依ル大將拜辭ハ寧ロ陸軍ノ宿意ニ合スル所ナラザル可カラズ。特ニ況ンヤ大將ノ辭表ハ之ヲ、大元帥陛下ニ捧呈シタモノデアル以上ハ理トシテ中間ニ阻止サルベキモノデアアルマイ。然ルニ爾來在苒一箇月ヲ超エテ、尙ホ其ノ經過如何ガ國民ニ明カナラヌ點ハ、國民ノ腦裡ニ疑雲ヲ宿シ、是ガ又其ノ信用上ニ、微妙ノ影響アルヲ怖レル。率直ニ其ノ拜辭問題ノ經過ト真相ヲ發表スル事ガ陸軍ノ信用上有利ト思フガ所見如何。

六 叛亂事件ニ於テ犯罪者ヲ出セル監督長官ノ責任糾明ニ關シ總理大臣竝ニ陸海軍大臣ニ質シタイ。五一五事件ハ陸軍士官學校生徒ノ多數ガ加ハッタ暴力行爲デアアル。然ルニ當ノ監督責任者タル陸軍士官學校長ハ單ニ他ニ轉補サレタルニ過ギナイ。陸軍大學ハ參謀總長ノ所管デアアルガ、陸軍士官學校ハ教育總監ノ所管デアアル、從ツテ本事件ニ關スル教育總監ノ責任タル

モノ極メテ重大デアアル、然ルニ時ノ教育總監タル武藤信義大將ハ、其ノ爲ニ如何ナル責任ヲ執ツタカ。武藤大將ハ教育總監カラ軍事參議官ニ轉補サレタニ過ギナイ。而シテ軍事參議官ハ見様ニヨツテハ、寧ロ榮進トモ見ルベク決シテ左遷デナイコトハ明デアアル。軍部大臣ヲ辭シタ場合ニモ、其ノ多クハ軍事參議官ニ補セラレレル。武藤大將ハ其ノ後更ニ關東軍司令官トナリ元帥ニ累進シ、軍人トシテノ最高榮譽ヲ極メタ。何等重大ナル責任ニ對シテ相應シイ處置ノ跡ガ現ハレテ居ナイ。是レデハ何人モ仰イデ秋霜烈日、嚴肅ナル軍紀ニ怖レ、將來ヲ愼ム事ガアリ得ヨウカ、疑ナキヲ得ナイノデアアル、軍紀ノ弛廢ハ下剋上ノ風ヲ招キ、下剋上ノ風ハ、大將ニ三軍叱咤ノ威令ヲ缺ガシメ全軍ノ士氣ヲ沮喪サセルノデアアル。五一五事件ノ如キ出來事ヲ、假ニ他ノ官省ニ於イテ見タナラバ如何デアラウカ。其ノ責任官省ノ當務者ガ轉補位ノ事デハ決シテ濟ミハイタサナイデアアラウ。罷免ハ當然、出世ノ道ハ全ク杜絶サレルニ相違ナイ。更ニ之ヲ民間會社ノ出來事トシテモ其ノ責任者ハ社長若シクハ重役ノ地位ニ留マルコトガ出來ズ、或ハ之ガ爲ニ一生進路ガ阻マレテ了フデアラウト信ズル。然ルニ最モ規律ガ生命デアアル軍部ニ於イテ、其ノ責任者ガ責任ヲ取ル事、斯ノ如ク忽セデアツテハ、我が光輝アル軍部ノ將來ガ案セラレテナラス。封建政治ハ申ス迄モナク、武家政治即チ軍部政治デアッタ。最モ武士ノ精神ヲ尊重シテ規則嚴肅、責任感ガ強クアッタ。一旦失策ガアツタ場合ニハ、

所謂武士道ヲ重ンジ、武士ハ直チニ其ノ責任感ヲ切腹ニヨツテ示シタモノデアル。其ノ輕キ場合ニモ竹矢來ノ中ニ塾居閉門ヲ命セラレルトイフ様ナ事ニナツタモノデアル。今日ノ軍人精神ハ、當然此ノ昔ノ武士道精神ノ延長デアラネバナラヌト思フニ、今日ハ以上申述べ通りデアル。本員ハ僅々七十年ノ歲月ノ推移ニ古今ノ變遷ノ大ナルヲ痛歎スルモノデアル。杉山陸相竝ニ林首相ハ右ニ關スル本員ノ豫算委員會ニ於ケル質問ニ對シ、相當ノ責任ヲ取りタリトノ答辯アリタルモ諒解シ難シ、重ネテ首相竝ニ陸相ノ明答ヲ要求ス

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十五日牧山耕藏君提出ス同月二十七日政府轉送シタルモ答辯ナカリキ

三八 議員尾崎行雄君ノ質問ニ對スル政府ノ答辯書ニ關スル質問

第一問 去ル昭和十二年二月二十七日議員尾崎行雄氏ノ提出シタル質問主意書ニ於テ同議員ハ「天皇陛下ハ宇垣大將ヲシテ内閣ヲ組織セシメントシ給ヒ、陸軍ハ之レニ反對シ遂ニ陛下ノ御希望ハ行ハレズシテ、陸軍ノ意見ガ行ハレタヤウニ見エル。即チ陛下ノ大命ヲ奉行

セントスル者ト陸軍三當局者トノ間ニ確執ノ存シタル影響トシテ 陛下ガ却ツテ御讓歩遊バサレタヤウニモ見エル。」ト述ベテキルガ、宇垣氏ガ大命ヲ拜辭シタノハ同氏ガ不徳ニシテ陸軍大臣ノ候補者ヲ得ナカツタ爲ニ外ナラナイ。然ルニ尾崎氏ガ「陛下ガ却ツテ御讓歩遊バサレタヤウニモ見エル。」ト稱セルコトハ不敬ニシテ國體ノ尊嚴ヲ冒瀆セルモノデアル。政府ハ之ニ對シ「現内閣ノ關知セザル事實ニ關スルモノ」トノ理由ノ下ニ答辯ヲ與ヘナカツタ。國體明徴ヲ第一義トスル現内閣ハ何故ニ此ノ際明答ヲ與ヘ以テ議員尾崎行雄氏ノ蒙ヲ啓キ且ツ天下ノ誤解ヲ避クルコトヲ爲サナカツタノデアルカ。

第二問 議員尾崎行雄氏ハ其ノ質問主意書ノ第八問ニ於テ 天皇ノ任命大權ニ言及シ

「天皇自ラ其事ニ當ラセ給フ方ガ朝廷ノ爲ニモ、人民ノ爲ニモ好イヤウニ思ハレル。」ト述ベテキル。此ノ言說ハ大權ノ御行使ニ私議ヲ加ヘ奉ルノ不敬ノ言說ニシテ我分國體ノ大本ヲ紊ルモノデアル。

然ルニ政府ハ之ニ對シ「内閣組織ノ大命降下ニ關スル點ハ論議ヲ避クルヲ適當ト認ム」ト答辯シテキル。國體明徴ヲ第一義トスル現内閣ハ此ノ際進ンデ明答ヲ與ヘ以テ議員尾崎行雄氏ノ蒙ヲ啓キ且ツ天下ノ誤解ヲ避クベキデアルト考ヘルガ、政府ハ何故之ヲ爲サナカツタノデアルカ。

第三問 議員尾崎行雄氏ハ其ノ質問主意書ノ第九問ニ於テ「明治天皇ノ聰明絶倫ナル、新内閣ノ適任者ニ就テ、他人ニ御諮詢遊バサルベキ必要ハナカッタノデアアル。」ト述べ又

「明治天皇ノ英明ナルコト、後醍醐天皇ノ比デナク、云々ト申シテ居リ、更ニ元老ヘノ御諮詢ニ言及シ「内閣組織ノ場合ニ方ツテハ、兩藩ノ權衡ヲ維持シ且ツ其ノ歡心ヲ繋グタメ、元老ニ御諮詢ニナルコトガ、最モ賢明ナ御處置トシテ、人物選擇ノ必要ヨリモ寧ロ兩藩ノ權衡維持歡心收攬ノ爲ニ、此慣例ハ起ツタノデアアル。」ト述べ又「今日以後ハ元老ノ推薦ヲ待タズシテ、直接ニ任命大權ヲ御使用遊バサルベキデアラウ。」ト申シテキル。

之等ノ言説ハ畏レ多クモ至尊ノ大御心ヲ濫リニ付度シ奉リ以テ御聖德ヲ冒瀆シ且ツ陛下ノ任命大權ノ御行使ニ私議ヲ加ヘ奉ルノ不敬ヲ敢テセルモノニシテ我が國體ノ尊嚴ヲ無視セルモノデアアル。

之ニ對シ政府ハ「内閣組織ノ大命降下ニ關スル點ハ論議ヲ避クルヲ適當ト認ム」ト答辯シテキル。國體明徴ヲ第一義トスル現政府ハ此ノ際進ンデ明答ヲ與ヘ以テ議員尾崎行雄氏ノ蒙ラ啓キ且ツ天下ノ誤解ヲ避クベキデアルト考ヘルガ、政府ハ何故之ヲ爲サナカッタノデアアルカ。

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十五日江藤源九郎君提出ス同月二十八日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

三九 米國大統領ノ世界軍縮會議召集ニ關スル質問

最近新聞紙ノ報ズル所ニ依レバ米國大統領「ルーズヴェルト」氏ハ目下世界的ニ進行シツツアル歴大ナル軍擴競争ヲ非常ニ憂慮シ新安全保障體系確立ノ爲ニ近ク世界軍縮會議召集ニ付考慮中ナリト云フ

而シテ右計畫ノ主要内容ハ條約違反國ニ對シテハ經濟制裁ヲ適用スベキコトヲ條件トスル不侵略條約及世界軍縮條約ヲ成立セシメントスルノ意圖ヲ有スルモノナリト解サレテ居ル
英佛兩國政府ハ米國大統領ノ斯ル提案ヲ即時受諾シ得ルヤウ諸般ノ準備ヲ進メツツアル模様ニシテ殊ニ三月十五日ノ英國議會ニ於テハ勞動黨ノ一議員ガ「ルーズヴェルト」大統領ノ平和會議ノ提案ニ對シ「イギリス」政府ハ直ニ之ヲ受諾シ米國大統領ヲ激勵スベシ」トノ要求ヲ爲シタリト報ジテ居ル

日本ハ曩ニ國際聯盟ヲ脫退シ滿洲、北支ニ於ケル一連ノ軍事行動ヲ強行シ又日獨軍事同盟ノ伏

在ヲ疑ハシムルガ如キ防共協定ヲ締結シテ世界列國ニ對シ日本ハ侵略的帝國主義國家ナリトノ印象ヲ深ク刻附ケタ而モ國內ニ於テハ軍部ガ現實政治ノ推進力ト爲リ政治經濟ノ全機構ヲ準戰時體制ニ編成セントシツアルト共ニ國民生活ヲ犠牲トシテ迄國家總歲出ノ五割ヲ超ユル直接軍事費ヲ支出セントシテ居ル此ノ事ハ益々列國ヲシテ日本ノ帝國主義的意圖ヲ裏書スルモノナリトノ疑惑ヲ深カラシメテ居ル

故ニ此ノ際政府ハ日本ガ若シ眞ニ帝國主義的野望ヲ有セズ且世界平和ト人類社會ノ進步發展ニ貢獻セントスルモノデアラナラバ米國大統領ノ右ノ如キ計畫ガ正式ニ提議サレタル場合ハ即時之ヲ受諾シ世界平和建設運動ニ積極的ニ參加協力スベキデアルト思考スルガ政府トシテ其ノ意思ト用意アリヤ明確ナル答辯ヲ要求スルモノデアル

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十六日松本治一郎君提出ス同月二十八日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四〇 高知縣赤岡警察署ニ於ケル警察官ノ人權蹂躪事件ニ關スル質問

昭和十一年二月二十日執行ノ衆議院議員ノ總選舉或ハ昭和十年執行ノ全國縣會議員ノ總選舉ニ際シ全國各地ニ於ケル警察官ノ人權蹂躪問題カ勃然トシテ高調セラレルニ至リシコトハ只ニ選舉違反容疑者ノ悲鳴トシテ一笑ニ付スル能ハサル所ナリ是レ即チ昭和十二年三月二十五日ノ衆議院ニ於テ人權蹂躪根絶ニ關スル決議案カ緊急上程セラレ即時可決セラレタル次第ナリ然ルニ右衆議院議員ノ總選舉ニ當リ高知縣香美郡赤岡町ノ赤岡警察署ニ於テハ暴狀言語ニ絶スル拷問カ行ハレ以テ違反容疑者ニ自白ノ強要ヲ爲シ遂ニ無實ノ自白ヲ爲サシメタル事件アリ今其ノ内容ヲ取調フルニ慄然トシテ之カ默視スル能ハサルモノアリ昭和ノ聖代之ヲ許スヘキ乎人道上德義上天人共ニ許スヘカラサル所ナリ

況ヤ未タ其ノ責任者一名ノ處斷ヲモ聞カス更ニ況ヤ檢察當局相寄り相扶ケテ本件ヲ默殺セムトスルノ風アルニ於テヲヤ

仍テ左記事項ニ對シ内閣總理大臣、司法大臣、内務大臣ノ各責任アル答辯ヲ求ム

一 高知縣第一選舉區ヨリ立候補セル長野長廣氏ノ選舉事務長中島龍吉ナル者ヲ昭和十一年三月十三日ヨリ同月十七日午前十時迄晝夜ノ別ナク二名一組ノ巡查カ八時間交代ヲ以テ終始監視ヲ續ケ自白スル迄ハ一睡モ許サシト連日連夜取調ヲ續行シ遂ニ被疑者中島龍吉カ精神朦朧トシテ、チグハグノ陳述ヲ爲スヤ僞狂人ト罵倒シタル事實アリ被告發者タル石川巡查ハ公判

廷ニ於テ「ボケテハイカヌ」ト云ヘリト證言セリ此ノ事實ヲ如何ニ裁斷スルカ

一 先ノ臨時議會ニ於テ民政黨ノ武富濟氏ニ依リテ質問セラレタル右ノ事實ハ被疑者中島龍吉カ高知刑務所ニ收容サレタル場合家族ニ渡サレタル中島ノ洋服ノ「ボケツト」内ニアリシ名刺入ノ中ノ名刺ニ記入セルモノヲ發見セルモノニシテ當時容疑者中島ハ未決監ニ在リ外部ト連絡又ハ通謀シタルモノニ非ス即チ逸早クモ議會ニ於テ問題トナレル本件ニ對シ何等責任者ノ糺明ヲ見サルハ如何ナル理由ニ基クカ警察側ノ主張スル所ニ依レハ中島ハ特ニ社會的地位ヲ參酌シ茶菓ヲ饗シツツ圓滿裡ニ取調ヘタリトノコトナルモ圓滿裡ニ取調ヘタリトスレハ何故ニ豫審ニ於テ之ヲ否認シ四箇月半ノ長期ニ互ツテ其ノ無實ヲ證明スヘク努力スルノ必要何處ニ在リヤ仍テ饗セシト稱スル茶菓ハ何人カ持運ヒシカ何處ヨリ買求メタルカ調査明答サレタシ

一 香美郡三島村奴田原泉ニ對シ三月十日夜赤岡警察署長室北側ノ室ニ於テ小松警部補ハ頭部ヲ毆打シ石川巡查ハ著衣ノ襟ニテ咽喉部ヲ扼シ頭部其ノ他ヲ強打シ田村巡查ハ手ヲ以テ顔面ヲ叩キ又或ル時ハ司法主任室ニ於テ小松警部補ハ敷板土間上ニ坐セシメ又割木三本ヲ横ニシテ其ノ上ニ正坐セシメ石川巡查ハ平手ヲ以テ數回毆打シ頭髮ヲ掴ムデ左右前後ニ搖リ又或時ハ著衣ノ襟ヲ控キテ首ヲ締メ仙頭巡查ハ平手ヲ以テ横顔ヲ撲リ田村巡查モ亦毆打シ仙頭巡查

カ平手ヲ以テ右ノ頬ヲ強打セル時ノ如キハ爾後二週間位疼痛去ラス西川巡查モ亦頭髮ヲ掴ミテ振廻シ三月五日ヨリ三月十九日夜高知刑務所ニ收容サレル迄如上ノ暴狀ヲ繰返シ連日連夜殊ニ夜間深更取調ヲ強行シテ睡眠ヲ殆ト與ヘス三月十七日留置場ニ入レラレタル時ノ如キハ脱衣セシメテ夜具ヲ供セス寒氣ニ因ル苦痛ヲ滿喫セシメタリ

一 長岡郡久禮田村北村春吉ニ對シ三月二十日午後三時頃ヨリ司法主任室ノ床板ノ上ニ約六時間正坐セシメ漸ク痛苦ノ加ハル頃ヲ見計ヒ伊藤巡查兩肩ノ上リ重リテ強ク揉ミ床板ノ上ニ突倒シ頭部ヲ机ニ激突セシメ爲ニ三四日間疼痛アリ同日午後九時頃ヨリ二十一日午前七時頃迄ノ間石川巡查ハ椅子ヲ六七回高ク差上ケシメ力盡キテ之ヲ下セハ仙頭巡查ハ平手ヲ以テ數回毆打シ二十一日午前八時頃五六回頭部ヲ床板ノ上ニ押付ケ食事ノ際ハ敷板ノ上ニテ犬猫同様ニ食セシメル等苦痛ト辱メヲ加ヘ遂ニ堪ヘ兼ね同日午前八時過キ橋田署長ニ面會ヲ求メタルニ田村巡查ハ署長室ニ連行其ノ際署長ハ不在ナリシカハ突然押倒シテ頭部ヲ土間ニ押付ケ「恐レ入レ」ト二三回之ヲ繰返シテ自白ヲ強要シ尙田村巡查ハ同室ニテ長時間椅子ヲ高ク差上ケシメテ之ヲ下サムトスルヤ田村巡查ハ其ノ手ヲ叩キタル爲北村カ倒レムトスル時始メテ橋田署長入り來リ「左様ナ事ヲシテハイケナイ」ト注意シ漸ク椅子ヲ下サシム續イテ司法室ニ連行シ長時間ニ互リテ敷板上ニ正坐セシメ或ハ例ニ依テ椅子ヲ持上ケシメル等ノ暴行ヲ加ヘ疲

勞ノ極歩行スラ困難トナリタリ

一 高知市帶屋町田島良稻ニ對シ四月二日急性肺炎ニテ病臥中ナルヲ以テ「醫師ニ相談ノ上ニシテ貫ヒタイ」ト拒メルモ檢事ノ命令ナリト稱シテ熱ノ爲歩行困難ナル身ヲ無理ニ赤岡警察署ニ連行シ田村巡查ハ同月三日ノ朝ヨリ床板(土間)ノ上ニ正坐セシメテ取調ヲ行ヒ同日午後五時頃ヨリ土間ニ打チ水ヲ爲シ其ノ上ニ無理ニ坐セシメテ長ク放置シ又割木二本ヲ竝ヘテ其ノ上ニ正坐セシメ頭部ヲ毆打セリ

一 香美郡夜須村岩川儀太郎ニ對シテ三月十六日夜仙頭巡查ハ手ノ指ヲ握リテ其ノ間ニ煙管又ハ鉛筆ヲ挿入シ捏煙シテ苦痛ヲ與ヘ山本巡查部長ハ長サ一尺位ノ長煙管ヲ以テ頭ヲ強打シテ瘤ヲ生セシメ石川、仙頭ノ兩巡查ハ頭部ヲ床板(土間)ノ上ニ押付ケ或ハ頭部ヲ蹴リ又石川巡查ハ兩手ヲ背部ニテ縛シ咽喉部ニ細繩ヲ掛ケテ動ケヌヤウニ爲シ置キ其ノ前ニテ「ボール」紙、自轉車ノ「チューブ」ヲ共ニ燻燒シテ其ノ煙ヲ鼻口ニ吸引セシメタリ

一 香美郡三島村中澤豐馬ニ對シテハ三月十一日午後八時頃赤岡署ニ連行シ同日午後十一時頃ヨリ午前一時過ニ互リ石川、仙頭兩巡查ハ平手ヲ以テ顔面ヲ毆打シ煙管ヲ以テ頭部ヲ毆リ瘤及傷ヲ生セシメ又手指ヲ括リテ其ノ間ニ煙草ノ「パイプ」ヲ差込ミテ捏煙シ十二日午後二時ヨリ石川、仙頭兩巡查ハ代ル／＼頭部ヲ毆打シ殊ニ仙頭巡查ハ警官手帳ト帽章ヲ示シテ「此ノ

威光デ叩クノダゾ」ト云ツテ左耳ヲ強打シ其ノ爲中耳炎ヲ起シ鼓膜ハ破レ膿ヲ出スニ至リ高知刑務所ノ醫師ニ依リ治療セラレ出所後ニ於テハ高知赤十字病院ニ於テ長ク治療ヲ受ケタリシモ今日ニ至ルモ耳ノ聞エ惡シク日常ノ不便ヲ感シツツアリ夜間ハ絶對ニ睡眠ヲ許サスシテ自白ヲ強要シ最後ニハ巡查數名ニテ身體ヲ胸上ケシテハ床ノ上ニ落シ床ノ上ニ墜シテハ蹴リタルコト再三ナリ又額ニ盃ヲ乘セテ半時間以上モ端坐セシメラル

一 香美郡立田村竹島勝三郎ニ對シテハ三月十一日午後八時頃突如トシテ連行シ同日午後十一時頃ヨリ夜半ノ午前一時過キ迄ニ互リ石川、仙頭、田村ノ三巡查ハ顔面、右耳等ヲ交々數回毆打シ首ヲ絞上ケ頭部ヲ毆打シタル爲瘤ヲ生ス仙頭巡查ハ帶ヲ摺ムテ身體ヲ搗キ又ハ蹴リ自白ヲ強要シタル等其ノ夜ハ庄板(土間)ノ上ニ正坐セシメテ睡眠ヲ許サス更ニ十二日夜十二時頃ニ至リ司法主任室ニ於テ正坐セシメ額ノ上ニ水ヲ盛レル湯吞ヲ載セ「水ヲ零セバ叩クゾ」ト稱シ半時間以上ニモ互ル苦痛ヲ與フ而シテ田村巡查ハ割竹ヲ以テ頭髮ヲ捲キ「丁髷ヲ結ツテヤルト稱シテ髪ヲ引キ又仙頭巡查ハ手指ヲ縛リテ其ノ間ニ竹ヲ狹ンテ捏上ケ骨ノ碎ケンバカリノ苦痛ヲ強ヒ石川巡查ハ頭部ヲ土間(床板)ニ摺付ケテ自白ヲセヨト強要シ又肋骨ノ處ニ拳ヲ當テテ心臟ノ止ルカト思フ程ニ「グリ／＼」ト揉ム斯ノ如クニシテ二日間ニ互ツテ睡眠ヲ與ヘス爲ニ身體生命ノ保チ難キヲ想ヒ十三日午前一時頃ニ至リ自白ヲ爲シタル後漸ク留置場ニ

テ寢ルコトヲ得タルモ必々ト残念ニ思ヒ何トカシテ取調ヲ上司ニ願ハムト考ヘ手帳ノ紙片ニ上申書ヲ認メテ所持セルヲ巡査ニ發見セラレタル爲小松警部補ハ「今更斯様ナ事ヲシテモ何ニナルカ馬鹿」ト言ツテ竹島ノ頬ヲ毆打シ其ノ上申書ヲ沒收シテ上司ニ傳達セス

一 香美郡岩村島崎武ニ對シテ石川、仙頭巡査等ハ椅子ヲ持上ケシメ其ノ力盡キテ之ヲ下セハ撲リ床板ニ頭部ヲ摺付ケテ或ハ毆リ或ハ叩キ自白ヲ強要シ又田村巡査ハ土間ニ頭部ヲ押付ケ靴履キノ儘ニテ後頭部ヲ二三回踏付ケタリ又石川、仙頭、田村等ノ各巡査ハ島崎ノ兩手ヲ後部ニ廻シ手錠ヲ嵌メ鴨居ニ一回二三十分間位ノ時間ニテ三回吊上ケ自白ヲ強要シタリ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十六日小畑虎之助提出ス同月二十八日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四一 衆議院議員選舉法中改正法律案ニ關スル質問

政友會及民政黨提出ニ係ル衆議院議員選舉法中改正法律案ハ三月二十四日遂ニ多數ノ威力ヲ以テ衆議院ヲ通過シタ。言フ迄モナク選舉法ハ憲法附屬ノ重要ナ法律デア。之レヲ改正スルニ

ハ十分慎重審議セラレナケレバナラナイ。然ルニ政友會及民政黨ハ議會ノ末期三月十六日ノ夕刻本會議散會間際ニ突如トシテ之レヲ上程シ質疑ヲ爲サシメズ言論ヲ封鎖シ爲ニ新議事堂最初ノ混亂ヲ惹起シタコトハ誠ニ遺憾デア。而モ委員二十七名ノ申合セナルニ拘ラズ十八名ニ減少シ、殊ニ本員ガ委員會竝ニ本會議ニ於テ再三質疑ヲ要求セルモ多數ノ力ヲ以テ不當ニ之ヲ阻止シ慎重審議ヲ爲サズ急遽其ノ通過ヲ圖ツタコトハ誠ニ了解ニ苦シムモノデア。從ツテ此ノ改正案ハ既成政黨ニハ都合好キ改正案ナレドモ國家ト國民ニトリテハ悲シムベキ改惡案デアト思フガ政府ハ同案ニ對シ如何ナル見解ヲ持タルルヤ。

一 次點者線上制度ノ廢止

「次點者線上制度」廢止ノ理由ハ極メテ薄弱デアツテ寧ロ理由ナシト言フガ至當デア。提案者ハ「其線上當選ノ場合次點者ノ選舉事務長ガ違反ニ問ハレタ場合、次點者ニ對スル制裁ノ法ガナイ」ト云フコトヲ唯一ノ理由ニシテアルガ、制裁ノ法ガナイナラバ制裁ノ法ヲ一條挿入スレバ良イ。然ルニ之レヲ口實トシテ線上制度ヲ全廢スルガ如キコトハ「角ヲ矯メントシテ牛ヲ殺ス」ト云フモノデア。即チ此ノ事ハ何等廢止ノ理由ヲ爲サナイモノデア。

強テ他ニ理由ヲ求メルトスルナラバ次點者ノ資格ニ付テデア。若シ次點者ハ代表トシテノ資格ナシト言フナラバ本改正案ニ「當選承諾期限前」ニ於テハ線上ヲ認メタコトガ既ニ大ナル矛盾

殊ニ本員が強ク主張セントスル所ハ、買收スルガ如キ候補者ハ金力ノ代表デアツテ國民ノ代表ニ非ズトイフ事デアル。

而モソレハ「當選承諾期限前」所デハナイ、選舉運動中即チ投票前ニ國民ノ選良ト云フ資格ハ失ハレテ居ルノデアル。從ツテ「當選承諾期限前」線上當選ヲ認メル以上、ソレヨリモ以前ニ於テ事實上失格シテ居ル者ニ就テ線上當選ヲ認メヌトイフコトハ矛盾モ甚シイト云ハザルヲ得ナイノデアル。此ノ點ニ於テ現行法ノ一箇年以内ト限定セルコトガ既ニ根本的ノ誤リデアル。今日ノ如ク裁判ガ甚シク長クカカルト云フ状態ニ於テハ一箇年以内ニ確定スルモノハ誠ニ僅少デアル。前記ノ如ク失格者ハ既ニ投票前ニ於テ事實上失格シテ居ル筈ナレバ二年後ニテモ三年後ニテモ確定ノ際ハ線上當選出來得ルヤウニシナケレバナラヌ、其ノ意味ニ於テ寧ロ四年間ニ延長スベキガ當然デアル。更ニ強テ理由ヲ求メントスルナラバ互ニ違反ヲ摘發シ合フコトガ面白クナイト云フナランモ候補者ノ買收行為ハ官吏ノ瀆職行為同様大罪デアル。オ互ニ自肅自警スル爲ニ之レヲ發見シタル場合ニ訴ヘルノハ國家ノ爲デアリ選舉ノ神聖ヲ保ツ所以デアル。即チ選舉肅正ト云フコトハ政黨モ國民モ總掛リデ互ニ監督シ合フコトガ必要デアルノデアツテ若シ其ノ神聖ヲ汚ス者ガアツタナラバ、敵タルト味方タルトヲ問ハズ糺彈シテ行カウト云フ嚴タル態度ヲ示シ

テコソ肅正ノ實ヲ上ゲ得ルノデアル。

斯ク論ジ來レバ改正ノ理由ハ毛頭ナク、却テ非常ナル弊害ヲ及ボスモノデアル。

先ヅ第一ノ弊害ハ補闕選舉ガ非常ニ多クナルト云フ事デアル。昨年二月ノ總選舉ヨリ昨年八月マデノ六箇月間ニ於テ

事務長ノ起訴サレタルモノ

百二十六名

總括主宰者ノ起訴サレタルモノ

十三名

失格確定者

二十七名

デアル。之レヲ選舉スルトスレバ二十七箇所デ選舉ガ行ハレルモノデ、一選舉區平均有權者十萬人トスレバ二十七人ノ不逞者ノ爲ニ實ニ二百七十萬人ニ迷惑ヲ掛ケルコトニナルノデアル。而モ之レガ選舉ノ終ツタ間モナク半年以内ニ行ハレルモノデアツテ、選舉民コソ誠ニ氣ノ毒デア。殊ニ昨年二月ノ選舉以來起訴サレタ者デスラ一萬二千ヲ算シテキルカラ取調ヲ受ケタ者ハ驚クベキ多數ニ上ツテ居ルダラウ。之レ皆選舉ノ犠牲デアルト思フ時、眞ニ國民ノ事ヲ思フナラバ、斯ウ言フ事コソ慎重ニ考フベキモノデアル。

第二ノ弊害トシテハ新興勢力ヲ阻止スル事デアル。補闕選舉トナレバ一名乃至二名ナルガ故ニ今迄ニ強固ナル地盤ヲ持ツテ居ル既成政黨ノミガ當選スル事ハ今日ノ状態ニ於テハ決定的ノ

モノデアル。殊ニ次點者ハ新興政黨ニ多イト云フ實狀ヲ見テ急據此ノ改正案ヲ出シタルコトハ新興勢力ノ擡頭ヲ恐レ之ヲ阻止セントスルニアリタルコトハ明瞭デアル。新興政黨ノ擡頭ト云フ事ハ今迄ノ政治ノ腐敗墮落ノ爲デアリ、選舉ガ金力ニヨリテ支配サレテ居ルガ爲デアル。眞ニ國ヲ思フ新興政黨ノ擡頭コソハ今日ノ日本ニ於テ最モ必要ナコトデアルノニ之レヲ阻止セントスル所ニ非合法的直接行動ガ起キルノデアアル。五・一五事件モ二・二六事件モ共ニ總選舉ノ直後デアルト言フ所ニ大ナル反省ヲ要スルノデアアル。斯ノ事デ新興勢力ヲ阻止セントスルコトハ川ノ流レヲ堰止メントスルモノデ懸テ決潰ノ危険ガ有リ到底止メ得ルモノデハナイ。斯ノ如キ百害アツテ一利ナキ次點者線上制度撤廢ハ斷々乎トシテ反對スルモノデアアル。而シテ現在ノ次點者線上期限一箇年ハ當然四箇年ニ延長スベキモノト思フガ政府ノ所見如何。

二 委員並ニ辯士ニ日當ヲ給與スルノ件

之レハ驚クベキ改惡デアアル。選舉ハ候補者ノ爲カ國家國民ノ爲カ、今更乍ラ根本ノ認識ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアアル。國民ガ國家ノ爲ニ其ノ代表ヲ出スニハ本來國民ガ選舉費用ヲ負擔スルノガ當然デアアル。我々立憲養正會ハ選舉費用モ勞務モ皆會員ガ出シ合ツテ居ルノデアアルガ之レデコソ眞ノ理想選舉デアアル。現行ノ委員及辯士ニ實費辨償ヲスルト云フノモ不合理ナルニ更ニ日當ヲモ支給セントスルコトハ驚クベキ矛盾デアリ顛倒デアアル。

殊ニ之レニ依リテ買収ノ危険ガ増大シ、選舉費用ハ愈々増加シ選舉肅正ノ目的ハ根本カラ破壊セラレルノデアアル。而シテ遂ニ選舉ハ金力ノ多寡ニ依リテ決スルト云フ結果ニ到達スルト思フガ政府ノ所見如何。

尙ホ「處罰ノ輕減」「第三者運動ノ擴大」「候補者ノ詮衡會」等何レモ肅正選舉ト逆行スルモノデア

ル。要スルニ本改革案ハ凡ソ三ツノ意圖ニ依リテ仕組マレタモノト認メザルヲ得ナイ。第一ハ新興勢力ノ擡頭ヲ抑壓セントスルモノデアリ、第二ハ第三者運動ノ擴大ニ依リテ裏面運動ヲ容易ナラシメントスルモノデアリ、第三ハ選舉違反ノ罪ヲナルベク輕減セントスルモノデアアル。

眞ニ選舉法ヲ改正セントスルナラバ選舉公營ノ徹底、比例代表制ノ採用、供託金ノ惡制度撤廢ト言フガ如キ根本的ナル改革ヲ爲スベキデアアル。最近頻々トシテ起ル非合法的直接行動ノ事件ニ付テハ今議會ニ於テモ種々論議サレタガ、國家革新ノ運動ガ非合法的傾向ヲ帶ビルト云フコトハ何ノ爲カ、即チ金力選舉ノ爲ニ至誠憂國ノ士ガ出ラレナイト云フ不平不滿ノ爲デアアル。

今回多數黨ノ威力ヲ以テ衆議院ヲ通過セシメタ選舉法改正案ハ云フ迄モナク舊選舉法ノ金力選舉ニ還元セントスル惡法ニシテ、若シ之レヲ實施スルニ至ラバ、或ハ再ビ不祥事件ノ勃發スルガ如キ事ナキヤヲ憂フルモノデアアル。

政府ハ深ク茲ニ思フ致シ前途有爲ノ人材ヲシテ國家ノ罪人タラシムルガ如キ悲惨事ノ再ビ起ラザルヤウ注意センコトヲ切望スルト共ニ今回ノ改惡法タル「選舉法改正案」ヲ實施スルガ如キ事ナキヤウ皇國ノ爲切ニ念願スルモノデアアルガ政府ノ所見果シテ如何。

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十六日田中耕君提出ス同月二十八日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四二 私立大學ニ對スル國庫補助法制定竝私立大學教職員優遇ニ關スル質問

私立大學ニ對スル國庫補助法制定竝私立大學教職員優遇ニ關シテハ從來屢帝國議會ニ於テ之ガ建議案可決セラレ政府ニ其ノ實現方ヲ要求セルニ拘ラズ未ダ其ノ事ナキハ甚ダ遺憾トスル所デアアル

私立大學ハ官立大學ト共ニ國家ノ重要任務タル最高ノ教育事業ヲ分擔シ而モ輓近其ノ施設整備充實シ教職員ノ素質モ亦頗ル向上シテ教育ノ成果大イニ觀ルベキモノガアル然ルニ私立大學ガ官立大學ニ比シ其ノ施設ニ於テ多少タリトモ遜色ノ感アリトスルハ全ク資金ノ不足ニ由ルモノ

デアレバ私立大學國庫補助法ヲ制定シ以テ其ノ財政的基礎ヲ鞏固ニシ經營ヲ安定セシムルコトガ最モ緊要デアアル而シテ私立大學教職員ニ對シ敍位、敍勳等待遇ノ途ヲ開キテ國家的ニ優遇シ且在外研究員派遣ニ私立大學教職員ヲ加ヘ以テ研究調査ヲ助成スルノ要アリト信ズル

教育ハ國家ノ政策中最モ重要ニシテ又根本的ノ事項ナルニ拘ラズ政府ハ私立大學ニ對スル助成竝其ノ教職員ニ對スル待遇ヲ等閑ニ付シ官學偏重ノ嫌ヒアルハ本員ノ頗ル遺憾トスル所デアアル政府ハ以上兩事項ニ關シ速ニ其ノ實現ヲ期スル意圖ヲ有スルヤ否ヤ林內閣總理大臣兼文部大臣ノ明確ナル答辯ヲ求ム

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十七日牧山耕藏君提出ス同月二十八日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四三 選舉取締法運用ニ關スル質問

一 選舉ノ取締ニ關シテハ寬嚴共ニ法律ニ準據スルヲ要スルコト勿論ナリ法律ノ解釋ニ當テ故意ニ嚴ナルハ不可ナリ又同時ニ故意ニ寬ナルハ正シカラス法ハ嚴然トシテ存ス取締當局ノ手

心ニ依リテ左右スヘキニ非スト信ス當局ノ所見如何

一 昭和十二年二月二十七日議院法中改正法律案ノ上程ニ際シ議員青木亮貫君ハ政府ニ對シ衆議院議員選舉法ノ改正案ヲ今期議會ニ提出スルヤ否ヤノ質疑ヲ行ヒタリ其ノ趣旨ハ現行衆議院議員選舉法ハ尙時代ニ伴ハサル點在リ殊ニ選舉取締ニ關スル條項ニ至テハ選舉ノ實際ニ適セス徒ニ無辜ノ違反者ヲ簇出セシムルモノナルヲ以テ速ニ之カ改正ヲ必要トスト云フニ在リ右質疑ニ對スル内務大臣ノ答辯ハ「本議會ニ提出スルノ運ビニ至ルヤ否ヤ、餘程面倒ナ點ガアリハセヌカト思フノデアリマス、サリナガラ現行選舉取締法、其他ニ付キマシテ種々改正ノ必要モアリ、且ツ調査委員會ニ於テモ、ソレノ適切ナル意見ノ答申ガアリマスノデ、假令提出改正ノ運ビニ至リマセヌデモ、是等ヲ參照致シマシテ、將來行ハルベキ選舉ニ付キマシテハ其實行上相當ノ考慮ヲ拂ヒタイト思ヒマス」ト云ヒ更ニ青木議員カ「選舉制度調査會ノ答申ヲ是ナリト認ムルカ」ト追究シタルニ對シ内務大臣ハ「答申ノ内容ニ付キマシテハ私ハ決シテ非ナリトハ考ヘマセヌ、ソレガ爲ニ先程私が申述ベマシタヤウニ假令改正ガ出來ナイデモ、選舉ノ實行ニ當リマシテハ、其答申ノ趣旨ヲ十分ニ斟酌シテ實行致シタイト思ヒマス」云ト答辯セリ

余ハ當時議席ニ在リ此ノ答辯ヲ得テ奇異ノ感ヲ禁シ得ス直ニ其ノ眞意ヲ追究セムトシタルモ

議事進行ヲシテ滑カナラシメムカ爲質疑ノ通告ヲ撤回セリ苟モ公開ノ議場ニ於テ爲サレタル答辯ナルカ故ニ之ヲ究明スルハ議場ヲ措テアルヘカラスト信シ今日迄適當ナル機會ヲ待テリ然ルニ適當ナル機會ハ未タ遂ニ到來セサルヲ以テ茲ニ書面ヲ以テ質問ヲ發スルニ至ル内務大臣ノ答辯ヲ要約スルニ「選舉取締ニ關スル法令ヲ改正セサルモ改正セラレタルト同様ノ取締ヲ爲スヘキ意思ヲ表示セラレタルモノ」ト認ムルノ外ナシ

法ノ善惡ハ別論トシ茲ニ柄乎タル法ノ存在アリ運用者ノ專斷ニ依リテ之ヲ動カスヘカラサルハ議論ノ餘地ナシト考フ内務大臣ノ所見如何

一 茲ニ臣民ノ自由ヲ拘束スヘキ法令嚴存スルニ之カ運用ニ當リテ法令存セサルト同様ノ取扱ヲ爲シ或ハ異リタル法令ノ存スル場合ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシト放言セラレタル内務大臣ノ答辯ハ法治國ノ尊嚴ヲ冒瀆シ憲法ノ精神ヲ害フモノナリト信ス

内務大臣ハ右答辯ヲ謹ンテ取消ス意思ナキヤ

一 右ノ答辯ヲ以テ余ノ解スルカ如シトセハ從來法律ノ範圍ヲ超ヘ其ノ精神ニ悖リテ行ハレタル選舉取締ハ「法ノ存在如何ニ拘ハラス實際上ノ取締ハ當局ノ方寸ニ依リテ決ス」ト稱スル内務大臣ノ思想或ハ信念ニ出發シタルモノト考フルカ如何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十七日小畑虎之助君外四名提出ス同月二十九日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四四 乳製品營業ニ付外資進出防遏其ノ他ニ關スル質問

一 政府ハ乳製品營業ニ付外資ノ進出ヲ防遏セムカ爲如何ナル方針ト對策トヲ有スルヤ

1 昭和三年同六年ノ二回「ネツスル」煉乳會社(英瑞社)カ北海道ニ進出セムトスルヤ朝野ニ反對ノ聲起リ遂ニ其ノ目的ヲ達シ得ス同八年初メテ淡路ニ進出シ淡路煉乳會社ト稱シ帝國法人ノ假面ヲ以テ經營セリ

當時農林、內務、陸軍當局ハ外資反對ノ態度ヲ明ニシタルカ現今ニ於テモ其ノ精神ハ不變ナリヤ

(第六十九回議會衆議院豫算委員第五分科會議錄第二回參照)

2 昭和九年淡路煉乳會社カ德島縣下ニ進出セムトスルヤ農林當局ハ之ニ反對シ知事ヲシテ縣酪農組合ヲ組織セシメ共同國產煉乳會社ノ工場ヲ許可シ外資ノ進出ヲ阻止セリ昭和十一年「アメリカ」ノ「カーネーション」社カ大阪埼玉等ニ許可ヲ得タルモ農林當局ハ之ヲ阻止シ

静岡縣ニ純然タル國內資本ニ依リ東洋製乳會社ヲ設立セシメ「カーネーション」ノ商標ヲ利用スルモ現在及將來共ニ外資ヲ入レサル條件ノ下ニ製乳協會員トシテ國內ノ統制ニ服スルコトニシテ經營セシメタル事實アリ

右淡路煉乳會社ノ既得權ハ之ヲ已ムヲ得ストスルモ今後他府縣ニ進出セハ各地ニ於テ同様ノ計畫續出シ乳製品業ノ混亂ヲ來シ過去五十年間「砂糖戻稅」「輸入關稅」等ニ依リ保護シ來レル我カ國乳製品業ノ統制アル發展ヲ害シ漸ク伸展シ來レル輸出ヲ阻害シ有望ナル東洋市場ヘノ進出不可能トナルヲ憂ヒテ徹頭徹尾反對ノ態度ヲ持シ來レルモノト考フ當局ノ所見如何

3 最近岡山縣ニ邑久煉乳會社カ新設セラレ「ネツスル」社カ之ヲ買收或ハ合併シテ淡路煉乳岡山工場トシテ經營スルト云フカ事實ナリヤ

當局ニシテ在來ノ方針不變ナリトセハ岡山縣知事ヲ督勵シテ德島、静岡、大阪、埼玉ノ例ニ依リ外資進出ヲ阻止スル方法ヲ採ルヘキニ非スヤ當局ノ態度如何

4 一地方ニ一度外資進出決定スルニ於テハ各府縣ニ同様計畫續出シ或ハ利權「ブローカー」ノ暗躍トナリ無智ナル農民ノ動搖ヲ招來シ酪農ノ安定ヲ紊スノ虞尠カラス
當局ハ將來之ヲ如何ニ處置セムトスルヤ

一 牛乳營業取締規則ハ明治三十三年ノ制定ニシテ其ノ後數次ノ改正アリ最近ハ昭和八年ニ改正サレシモ乳製品カ牛乳ヲ主ナル原料トスル爲其ノ所管ハ内務省ナリ是レ立法當時ニ於テハ乳製品業幼稚ニシテ設備ノ衛生的見地ヲ重要視サレタル結果ナルモ今ハ長足ノ進歩ヲ來シ農村ノ重要産業ニシテ更ニ其ノ經營ハ世界的ナリ仍テ今日ノ産業的見地ヨリ見テ之カ取締獎勵ヲ農林省ニ主管セシメ許可制ヲ採ルカ至當ナリト考フ當局ノ所見如何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十七日小畑虎之助君外二名提出ス同月二十九日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四五

千葉縣綠海村ニ於ケル縣警察隊ノ部落封鎖小學校舎破壊教育勸語冒瀆竝無政府村ノ出現及學童迫害ニ關スル再質問

去ル二十三日附本員ノ質問ニ對スル政府ノ答辯ハ殆ンド支離滅裂ニシテ恐ラク本件ニ關シ國民ノ前ニ被告トシテ其ノ責ヲ問ハルベキ千葉縣當局窮餘ノ辯解ヲ採用シ全然縣當局暴政ノ事實ト被害村民ノ主訴スル所トヲ無視シタル官僚的詭辯ナリト認ム然レドモ被告ノ陳述ハ以テ其ノ潔

白ヲ證スベカラザルノミナラズ關係人民周知ノ事實ニ對シ恰モ黒ヲ白ト爲スガ如キ強辯ヲ用フルコトハ政府ノ信用ヲ害スルコト最甚シ況ンヤ政府ガ陛下ノ御尊影ト同様謹テ奉護スベキ旨累次訓令セル教育勸語謄本ノ奉護ニ關シ恐懼ニ堪ヘザル不敬ノ失態ヲモ曲辯抹殺セントスルニ至ツテハ斷ジテ許スベカラズ依テ政府ハ次ニ指摘スル各項ニ就キ更メテ明確ニ答辯スベシ

一 小學校位置問題ニ關シ政府ノ答辯ハ縣當局ノ辯明ト相違ス果シテ慎重調査ノ結果ナリトセバ如何ナル調査ヲ爲シタリヤ其ノ事實ヲ明示スベシ

二 警察官ノ行動ニ關シ第一、既往ニ於テ小學校問題ヲ中心ニ警察事故ヲ惹起シタルコト一再ナラズト云フモ今回反對ノ下側部落ニ於テハ未ダ曾テ斯ルコトナシ若シ有リシトセバ其ノ年月日及ビ事實ヲ明示スベシ第二、七月二十六日校舎移轉ニ際シテモ治安ヲ害スルガ如キ事態ノ發生ヲ虞レ云々トアルモ何處ニ右様ノ情勢ヲ認メタリヤ其ノ具體的事實ヲ明示スベシ第三、本件ニ付干涉威赫ヲ行ヒ又ハ職權ヲ濫用シタル事實ナシト云フモ然ラバ署長齋藤東吉ガ反對側ノ債權者市原茂三郎氏ヲ警察署ニ招致シテ告訴ヲ強要シ義憤的峻拒ニ會ヒタル職權濫用ノ事實ヲ否認スルカ反對村民小倉柳三郎ヲ拘留ニ處シ捕繩ヲ以テ胸部ヲ緊縛シ更ニ之ヲ椅子ニ括附ケテ校舎移築ニ際シテハ縣下ノ警官ヲ動員シ且ツ軍隊出動ノ用意アリト威赫シタル事實ヲ否認スルカ反對村民中ノ村稅滯納者ニ對シ警官隊ヲシテ各家宅ニ臨檢セシメ帶同ノ村

吏ヲシテ差押封印ヲ貼付シ爾後之ヲ監視シテ偶々封印一部ノ剝離ヲ發見スルヤ直ニ主人ヲ拘引シテ交換的ニ反對運動中止ヲ強要シタル職權濫用ノ事實ヲ否認スルヤ第四、殊更ニ下側反對部落ト反對ノ立場ニアル同村上側出身ノ齋藤ヲ管轄署長トシテ派遣シタル理由ヲ釋明スベシ

三 教育勅語謄本ニ關スル不敬問題ニ就テハ特ニ嚴密ナル調査ヲ爲シタリト云フモ然ラバ如何ナル調査ヲ何日何人ニ就テ爲シタリヤヲ明示スベシ又移轉工事開始前職員ニ於テ無事上側校舍ニ奉遷シタリト云フモ然ラバ其ノ職員ハ何人ニシテ其ノ日時及ビ如何ニシテ奉遷シタリヤヲ明示スベシ

四 學童迫害ノ事實ナシト云フモ昨年七月二十六日授業中ノ校舍ヲ包圍破壊シ學童ヲシテ驚愕悲嘆措ク能ハザラシメタルハ學童迫害ニ非ズヤ其ノ結果父兄ガ血涙ヲ吞ンデ設立經營セル清海小學校ニ對シ不斷ノ妨害ヲ加ヘ剩ヘ今春遂ニ私立學校ヲ不認可ニシテ中等學校ヘノ進出ヲ阻止シ而已ナラズ一旦四隣小學校ニ轉校入學シタル者ニ對シ縣自ラ指圖シテ之ヲ取消サシメ父兄ヲシテ切齒斷念セシメタル等幾多ノ事實ハ最慘酷ナル學童迫害ニ非ズヤ

五 縣當局ノ執リタル措置ニ就テハ特ニ不當ト認ムベキモノナシト云フモ現ニ二千ノ村民ガ縣當局ヲ忌避シテ縣政ヨリ遊離獨立シ三百ノ學童ガ報復ノ念ニ燃エツツ私塾ニ學ベル嚴然タル

事實ハ抑々何ニ因ルト爲ス乎畏クモ明治天皇ハ

罪あらばわれをとがめよ天つ神民はわが身の生みし子なれば
トノ御製ヲ下シ給ヘリ嗚呼聖恩猶ホ罪民ニ及ブ億兆誰レカ感泣セザラン然ルニ地方牧民ノ吏僚權柄ヲ擅ニシテ治道ヲ誤リ良民ヲ無告ニ泣カシムルコト既ニ九箇月政府之ニ對シテ措置不當ト認ムベキモノナシト辯ズルニ至リテハ諸公果シテ輔弼ノ重責ヲ盡シツツアリト爲ス乎以上各項ニ對シ内閣總理大臣、文部大臣及内務大臣ノ答辯ヲ求ム

右及質問候也
右質問主意書ハ昭和十二年三月二十九日土屋清三郎君提出ス翌三十日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四六 南洋委任統治諸島及比律賓居住ノ日本人間ニ於ケル社會問題ニ關スル質問

一 南洋委任統治諸島ニ於ケル失業問題及中等教育問題

(イ) 南洋委任統治諸島中特ニ「サイパン」支應管内ニ於ケル邦人在住者中ニ失業者漸増ノ傾向ヲ見ツツアリ政府ハ南洋興發會社其ノ他ノ事業主ヲシテ内地特ニ東北諸縣及沖繩縣ヨリ農漁移民ヲ募集入植セシメツツアルガ先住者中ニ於ケル失業者漸増ノ傾向ニ對シテ就職斡旋又ハ失業資金ノ低利融通ノ如キ方法ヲ採ルベキデハナイカ其ノ對策アリヤ

(ロ) 現住日本人既ニ五萬ヲ超エ現地ニ於テ出生スル所謂第二世兒童モ逐年加速度的ニ増加シツツアルニモ拘ラズ教育施設トシテハ小學校アルノミナルヲ以テ小學校卒業以後ハ父母ノ故郷又ハ東京ニ送リテ中等教育ヲ受ケシムルガ其ノ資力無キ爲中等以上ノ學業ヲ受ケシムルコト能ハザル者多シ政府ハ南洋應關係ノ出港稅以外ニ財源ヲ得テ男女中等學校ヲ主要島ニ設置スル意思ナキヤ

二 比律賓ニ於ケル邦人土地所有問題及生業資金問題

(イ) 比律賓「ダバオ」地方ニ於ケル麻耕地ノ土地所有又ハ借地問題ハ在留邦人ノ事業隆盛ノ傾向トハ逆比例シテ益々制限ヲ受ケツツアリ苦闘三十年ニシテ漸ク築キ上ゲタル今日ノ在留邦人ノ實力ハ今後ノ比律賓内地ノ政治問題ノ進展ノ如何ニヨリテハ或ハ根コソギ覆サルル憂ナシトセズ然ル時ハ往年ノ北米「カリフォルニア」州ニ於ケル土地問題ノ二ノ舞トナリ在留邦人總退却ノ悲運ヲ見ルノ虞アリ政府ハ比律賓政府及其ノ人民ニ對シ我が國民ノ平和

的移住方針ヲ十分徹底セシムル必要アリト認ムルヤ其ノ對策如何

(ロ) 在留日本人ノ生業資金ハ僅ニ頼母子無盡講ニ依ル相互融通ノ外ニ途ナク土地、不動産低當ニ依ル長期低利金融機關如セリ

銀行其ノ他ノ機關ノ設置助長ニ依リ在留中小商工農業者ノ經濟的發展ヲ期スル方策アリヤ
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十九日川俣清音君提出ス翌三十日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四七 内鮮融和ニ關スル質問

日韓併合以來既ニ四分ノ一世紀ヲ經過シ内地朝鮮兩地ニ於ケル産業ノ發展ハ實ニ目覺マシイノデアル而シテ兩地ノ産業的經濟的關係ガ密接不可分ノ渾一體ヲ形成シタルニモ拘ラズ内地人、半島人兩者ノ融合統一ハ今日尙得ラレズ却テ隔離シ背反セムトスル傾向ガ見ユルハ本員等ノ最遺憾トスル所デアアル

由來我が國民ハ優レタ同化力ヲ持チ凡ユル文化、民族ヲ綜合統一シテ渾然タル統一國家ヲ形成

シ以テ三千年ノ光輝アル歴史ヲ記録シテ居ル斯ル優レタ歴史ト民族性ヲ持ツ我が國ニ於テ今尙
 内鮮融和ニ疑念ヲ挾マレルハ政府ノ統治政策ニ關クル所アルニ淵由スルト思料サレルノデア
 其レ故茲ニ下記事項ニ關シ政府ノ所見ヲ訊ネ答辯ヲ煩ハサムトスルノデア

一 内地朝鮮同胞住宅ニ關スル件

今日内地ニ居住スル朝鮮同胞ノ數ハ七十萬人ヲ算ヘルガ之等朝鮮同胞ハ文化、言語其ノ他ノ相
 違カラ内地人所有家屋ヲ借家スルコト中々困難デ其ノ爲芝浦、洲崎等ノ埋立地ヲ占據シ原始的
 デ非衛生ナ堀建小屋ヲ自ラ建テテ住マザルヲ得ナイ此處カラ都市ノ所謂「不良住宅地區」ガ生レ
 ルノデアル家屋賃借ニ付朝鮮同胞ガ「ハンディ・キャップ」ヲ附サレルコトハ政府當局モ知悉ス
 ル所デ敢テ贅言ヲ要シナイデアラウガ此ノ差別ヲ絶滅スル爲政府ハ

イ 朝鮮同胞ニ適當ナ貸家住宅ヲ周旋スル機關ヲ設ケル意思アリヤ

ロ 朝鮮同胞ノ前記「不良住宅」ニ立退ヲ命ズル場合只單ニ權柄ヅクメノ命令ヲ以テセズ豫メ

適當ナ替リ住宅ヲ發見シテヤル等ノ手段ヲ執テヤツタ後ニ「不良住宅」ヲ撤去スル手段ニ出

ツベキデハナイカ

之ニ對スル政府ノ所見ヲ訊ネタイ

二 内地在任朝鮮労働者ニ關スル件

内地居住朝鮮同胞労働者ニ對シ賃銀上内地人ト差別ヲ附シテ居ルコトハ比々トシテ皆然リト云
 ヒ得ル程デアル此ノ賃銀上或ハ待遇上ニ存スル差別ヲ絶滅スル爲政府ハ何等カノ行政的手段ヲ
 執ラムトスル意思アリヤアリトセバ其ノ手段ヲ明示サレタシ

三 失業者並渡航問題ノ件

東京市失業登録労働者約一萬九千七百人其ノ四割弱ハ朝鮮同胞デアアル而モ此ノ失業労働者ニ對
 シテ特殊ノ救済計畫ハ無ク只執ラレル特殊手段ハ歸鮮政策ダケデアル内地在任朝鮮同胞ガ故郷
 ニ所用アツテ歸ル場合ニハ渡航證明書ヲ下付シテ貰ヒ用事ヲ済マセテ内地ニ立戻ル際ニハ更ニ
 内地ノ就業證明書ヲ取寄セ之ヲ提示スルノ手續ヲ取ラナケレバ内地ニ戻リ得ナイノデアアル此ノ
 煩瑣ナ手續ノ爲渡航ガ遅レ或ハ不能トナリ又ハ途中釜山警察署等ノ嚴重且ノ不親切ナ執務ニ災サ
 レ多クノ朝鮮同胞ハ心ナラズモ我が國ニ對シ不快ナ念ヲ抱キ内鮮融和ヲ困難ニスルノデアアル内
 地ノ失業問題ヲ緩和スル爲歸鮮政策ヲ探ルトシテモ内地居住朝鮮同胞ノ大多數ハ故郷ニ於テ生
 活ガ出來ズ職業ヲ求メテ内地ニ渡航シタノデアアル之ヲ朝鮮ニ送還シタトテ生活ガ成立ツ譯ガナ
 イ其ノ結果ハ生活ノ不安カラ思想ヲ激化サセ不逞鮮人ヲ生産スルダケデアアル
 其レ故斯ル内鮮融和ヲ阻害スル歸鮮政策、渡航手續等ヲ廢棄シ自由交通トスル意思ガ政府ニ在
 リヤ否ヤ若シ無シトスレバ其ノ理由ノ明ヲ要求スルノデアアル

四 在鮮勞働者農民保護ニ關スル件

朝鮮ニ於ケル産業ノ發展ハ眞ニ顯著ナモノガアルガ其ノ發展ハ朝鮮同胞勤勞者ヲ殆ド露ス所ナク勞働者、農民ニ對スル保護ハ闕如シテ居ル更ニ朝鮮同胞ガ「內尊鮮卑」ト名附ケタ内地人第一主義ノ「イデオロギー」ガ宛モ朝鮮總督府行政官ニ在ルカノ如ク內鮮勞働者ヲ差別スルガ爲「一視同仁」ノ我が國是ヲ疑ハシメルモノ無キニシモアラズデアアル

半島ニ育ツタ朝鮮同胞勤勞者ニ生活ノ光明ヲ與ヘ彼等ヲ日本國民タル名ニ鼓腹セシメル爲政府ハ

イ 朝鮮ニ工場法ヲ適用スル意思アリヤ

ロ 朝鮮農民保護ノ爲農業立法ヲ爲ス意思アリヤ

ハ 朝鮮所在大資本會社企業ニ對スル補助金支給ヲ整理スル意思アリヤ
之ニ對シ政府ノ答辯ヲ要求スルモノデアアル

五 在滿朝鮮同胞勤勞者ニ關スル件

日韓併合後故郷ヲ棄テタ朝鮮同胞ハ早クカラ滿洲ニ移住シ其處ニ立派ナ美田ヲ拓イタノデアアルガ滿洲國成立後締盟國タル滿洲國政府ハ内地人ニ對スルト朝鮮同胞ニ對スルトノ間ニ差別ヲ爲シ本邦人移民ニ對スル保護ハ只内地人移民ニノミ行ハレルニ過ギナイ此ノ差別待遇ハ在滿朝

鮮同胞ノ不滿ヲ呼ビ滿洲國內ニ於ケル中國共產黨ニ有力ナ宣傳煽動ノ具ヲ供スル所トナツテ居ルト云ハレテ居ル在滿朝鮮同胞ヲ共產黨ノ手カラ救フニハ先ヅ內鮮移民保護ノ差別待遇ヲ撤廢スルニ在ルトハ朝鮮同胞中心アル者ノ叫ブ所デアアル

今ヤ東亞ノ天地事端繁キヲ加ヘツツアル際ニ政府ハ滿洲國政府ノ本邦移民內鮮差別ニ對シ如何ナル對策ヲ執ラムトスルヤヲ問ヒタイノデアアル
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十九日淺沼稻次郎君提出ス翌三十日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

四八 官營事業從業員ノ俸給賃銀値上ニ關スル質問

大正三年七月ヲ一〇〇トスル日本銀行調査ノ小賣物價指數ハ昨秋以來主トシテ政府ノ諸政策ノ結果トシテ急騰ニ轉シ本年二月ニ於テ一七〇・七ヲ示スニ至リ金輸出再禁止ノ行ハレタル昭和六年ノ平均指數一三七ニ比シ既ニ三割弱ノ昂騰ヲ記録シ居レリ又昭和六年十一月十五日（金輸出再禁止ノ直前）現在ヲ一〇〇トスル三菱經濟研究所調査ノ小賣物價指數モ本年二月十五日現

在ニ於テ一三一・一ヲ示シ三割一分餘ノ騰貴ヲ記録シ居レリ然ルニ此ノ間一般勤勞者ノ受クル俸給賃銀ハ逆ニ低落シタル儘ニアリ之ヲ日本銀行調査ノ定額賃銀指數ニ見ルモ昭和六年中平均九一・三ヨリ昭和十一年十二月ニ於テ八〇・九ニ約一割ノ低落ヲ示シタリ勿論之ハ民間工場ニ就テ調査セル數字ナルモ官營工場亦其ノ例ニ洩レス同シク日本銀行調査ノ官營工場定額賃銀指數ニ見ルモ昭和八年中平均一〇三・二ヨリ昭和十一年十二月九七・一ニ漸落ノ步調ヲ辿リ居レリ

仍テ此ノ際一般勤勞者ノ俸給賃銀ヲ値上ケシ少クトモ生計費昂騰ニ伴フ實質賃銀乃至實質俸給ノ低落ヲ補フコトノ急務ナルハ言フヲ俟タサルナリ特ニ政府ハ最近ノ物價騰貴カ主トシテ政府ノ財政政策ニ基ク事實ニ鑑ミ率先シテ其ノ使用スル官營事業従業員ノ俸給賃銀ヲ値上ケシ以テ民間事業ニ範ヲ示スト共ニ國民生活安定ニ一步ヲ進ムル義務アリト信ス

政府ハ最近ニ於ケル物價騰貴ニ伴フ生活費ノ昂騰ヲ補フ爲官營事業従業員ノ俸給及賃銀ヲ速ニ値上スル意思ヲ有スルヤ否ヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二十九日川村保太郎君提出ス翌三十日政府ニ轉送シタルモ答辯ナカリキ

緊急質問

一 外交方針ニ關スル緊急質問

右ハ昭和十二年三月十一日鶴見祐輔君及芦田均君提出ス即日議事日程ヲ變更シ提出者ハ各左ノ質問ヲ爲シ佐藤外務大臣ハ左ノ答辯ヲ爲ス

鶴見君ノ質問

私ハ帝國外交ノ全般ニ互リマシテ、外務大臣ニ御質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、私ハ第一ニ大所高所ヨリ我國外交ノ根本原則ニ關シテ外務大臣ニ御質疑ヲ致シ、然ル後ニ進ンデ具體的ノ問題ニ付テ御伺ヲ致シタイトデアリマス、順序トシテ私ハ先ヅ世界ノ現勢ノ認識ニ付テ、外務大臣ニ伺ッテ置キタイトガアルノデアリマス、私ハ昨年歐羅巴ニ旅シテ英國ニ渡リマシタ時ニ、英國ニ於ケル洵ニ熾烈ナル軍備擴張ヲ見テ驚イタノデアリマス、保守黨ガ軍備ニ熱心デアッタノミナラス、多年軍備縮小ノ爲ニ奮闘致シテ居ッタ労働黨スラモ、最も熱心ナル軍備意見ニ變ッテ居ルノヲ目睹シマシテ、實ハ私ハ事ノ意外ニ驚イタノデアリマス、サウシテ私ハ多年交ヲ辱ク致シテ居ッタ學者、政治家等ニ就キマシテ、其眞因ヲ尋ヌルニ及ビ、更ニ一層此形勢ノ重大ナルコトニ喫驚致シタノデアリマス、即チ今日英國識者ノ間ニ於キマシテハ、戰爭勃發ノ危険ヲ痛感致シテ居ル人が多數存在致スノデアリマス、ソレガ爲ニ是等ノ人々ハ年來ノ軍縮意見ヲ抛ッテ、熱心ナル軍備擴張論者ニ變ッタノデアアル、彼等ハ歐洲ノ平和ヲ

維持スル方法ハ、英國ガ歴倒的ニ強大ナル軍備ヲ有スルコトデアルト云フ、一見矛盾シタル論法ヲ以テ、此情勢ヲ私ニ説明致シテ居タノデアリマス、英國ノ軍備ガ果シテ何國ノ假裝敵國トシテ準備セラレツ、アリヤヲ私ハ申ス、必要ハナイノデアリマスガ、此簡單ナル事實ガ私ニ教ヘル所ハ、歐洲大陸ニ於キマシテハ、戰爭ト云フコトガ假定ノ域ヲ脱シテ、既ニ實際的危險ノ範圍ニ入ツテ居ルト云フコトデアリマス、ソレハ「エチオピア」事件ヲ回顧シテモ、現在ノ西班牙ノ内亂ヲ眺メテモ明瞭デアリマス、併ナガラ私ノ御尋致シマスノハ、此歐洲ノ事情デアリナイノデアリマス、此歐洲ノ現勢ノ我國ニ及ボス影響デアリ、之ニ對スル我國ノ對策デアリマス、私ハ賢明ナル歐洲ノ政治家ガ、斯ノ如キ慘禍ヲ未然ニ防ガレルデアラウト云フコトヲ信ズル、併ナガラ萬々一斯ノ如キ不祥事勃發ノ際ニハ、我が帝國トシテ執ルベキ態度ハ、決シテ此歐洲動亂ノ渦中ニ捲込マレナイコトデアルト思フノデアリマス、ソシテ是ハ申ス迄モナイコトデアルガ、私ハ後段ニ於テ具體的ニ此點ニ觸レル必要ガアリマスカラ、劈頭先ヅ外務大臣ニ御伺ヲ致シテ置クノデアリマス、私ハ歐洲ノ斯ノ如キ危險ナル状態ヲ眺メマシテ、其原因ガ果シテ何處ニアツタカト云フコトヲ考ヘザルヲ得ナカッタノデアリマスガ、私ノ到達致シマシタル結論ハ、歐洲戰爭以後、世界ニ起リマシタ所ノ極端ナル經濟的國家主義ガ、其誘因トナツテ居ッタト云フコトデアッタノデアリマス、即チ各國ガ競ツテ經濟的ニ各、其門戸ヲ鎖シテ、他國ノ經濟的發展ヲ阻止致シマシタ結果、民族抗爭ノ勢、年ヲ逐ウテ激化致シ、爲ニ貧シキ國ハ益、貧シクシテ、焦燥ノ氣ニ滿チ、富ミタル國ハ其富ヲ失フコトヲ恐レテ、遂ニ軍擴ニ其安心ヲ求ムルニ至ッタト思フノデアリマスガ、斯ノ如キ經濟的國家主義ハ一種ノ鎖國デアツテ、一種ノ經濟的「ブロック」ヲ作ツテ、此中ニ安住ノ天地ヲ求メント致シテ居ルノデアリマスガ、其爲ニ遂ニ武力ヲ以テ此状態ヲ維持セントスル軍備熱ニ陥ッタノデアル、轉ジテ我が日本民族自身ノ状態ヲ眺メマスルト、此全世界ニ於ケル極端ナル閉戸閉鎖ノ傾向ガ、全世界ニ於ケル我が民族ノ發展ヲ阻止致シテ居ルコトハ私ヨリ申上ゲル必要モナイコトデアリマス、ソレガ爲ニ私ハ此經濟「ブロック」ノ思想ガ、次第ニ全世界ニ波及致シマシタ結果、我國ニ於テモ經濟政策ニ關

シテ、一種ノ變々議論ガ發生シツ、アルコトヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、即チ我國モ亦滿洲國ト協同シテ、一種ノ經濟「ブロック」ヲ作ツテ、此中ニ於テ自給自足ノ天地ヲ作ラウカト云フ議論モアリマスガ、私ハ此議論ニ賛成シナイノデアル、此議論ガ直チニ帝國外交ノ根本ニ觸レテ來ルト私ハ思フノデアリマス、即チ日本民族ノ世界ニ於ケル所ノ位置ヲ考ヘテ見マスルト、一方ニ於テ斯ノ如キ經濟的鎖國主義ノ方向ニ、吾々ガ沿ツテ進ムベキデアルカ、或ハ此世界ニ於ケル經濟的鎖國ノ形勢ヲ打破スル方向ニ吾々ガ行クベキデアルカト云フコトガ、日本ノ根本方針ニ互ツテ居ルト思フノデアリマス、私ハ我が民族ハ此經濟的鎖國主義ヲ打破シテ、民族發展ノ自由ヲ全世界ニ主張スル立場ヲ執ラネバナラヌモノト思フノデアリマス、私ハ此二箇ノ一般論ニ立チマシテ、現下帝國ノ外交ニ關シ、六ツノ具體的問題ニ付テ外務大臣ニ御意見ヲ伺ツテ見タイト思フノデアリマス、第一ハ秘密外交ノ問題デアリ、第二ハ日獨協定ノ運用ノ問題デアリ、第三ハ日「ソ」關係、第四ハ日英關係、第五、日米關係、第六ハ對支關係ノ問題デアリマス、第一ハ秘密外交ニ關シテ外務大臣ニ御伺ヲ致シテ置キタイノデアリマス、前内閣ノ外交ニ關シテハ、世上囂々タル非難ノ聲ガアリマシタケレドモ、其由テ來ル所ヲ考ヘマスルト、其外交政策ノ内容自身ニ對スル反對カラモ生レテ居リマシタケレドモ、又同時ニ其外交交渉ノ手續ニ關スル國民ノ反對デアッタノデアリマス、ソレハ何デアルカト申セバ、當時ノ當局者ガ重大ナル國民ノ運命ニ關スル外交交渉ヲ試ムルニ當リ、一切ヲ秘シテ國民ノ耳目ヲ蔽ウタ點デアリマス、而モ當時ノ内閣ハ、内ニ於テハ日本國民ノ耳目ヲ蔽フコトニ成功致シタケレドモ、海外諸國ニ於テハ、當時ノ内閣ガ交渉シツ、アリシ事件ノ内容ガ、殆ド擧ゲテ發表セラレテ居タノデアリマス、例ヘバ日支交渉ノ内容ガ、九月二十八日ヲ以テ「モスコ」ニ送ラレ、十月一日ニ於テ紐育ノ「ヘラルド・トリビューン」ニ悉ク掲載セラレテ居ル如キ、或ハ日獨交渉ニ關スル内容ガ、日本ニ於キマシテハ十一月二十六日ノ朝ノ新聞ヲ以テ發表サレタルニ拘ラズ、米國ニ於テハ紐育「ヘラルド・トリビューン」ハ既ニ十一月十二日ニ之ヲ掲載シ、倫敦「タイムズ」ハ十一月十八日ニ之ヲ社説ヲ以テ論ジテ居ッタノミナラズ、更ニ驚クベキコトハ、此大體ノ傾

向ガ昨年三月既ニ紐育ニ於テ印刷サレマシタ太平洋會議ノ「プログラム」ノ中ニ盛ラレテ居ルト云フ如ク、天下日本以外ノ國々ニ於テ知レ渡ッテ居ッタ事件ヲ、日本ノ國內ニ於テ餘リニ秘密ニ致シテ居リマシタ爲ニ、國民ハ當時ノ政府ノ政策ヲ支持セント欲スルモ、之ヲ支持スベキ材料スラ持タナカッタヤウナ状態デアッタ、由來我國ニ於キマシテハ、外交ニ關シテハ之ヲ議會ニ於テ十分ニ討論ヲ致ス習慣ガナイ爲ニ、外交ニ關シテハ恰モ腫物ニ觸ルヤウニ之ヲ取扱ッテ居リマシタ爲ニ、却テ世界ノ常識トナッテ居ルヤウナ事件スラ、日本國民自身ハ之ヲ知ラズシテ、政府ヲ支援スルコトスラ出來ナカッタト云フコトハ、寔ニ遺憾ナコトデアッタと思フデアリマス、私ハ固ヨリ外交ノ内容ガ悉ク議會ニ、或ハ國民ニ公表セラルベシト申スノデハアリマセヌケレドモ、過去ニ於ケル如キ極端ナル彈壓、機密ノ方法ヲ以テ致シテハ、眞ニ國民ノ同情ト熱情ヲ動員シテ、力アル國民外交ヲ行フコトガ出來ナイト思フカラ、過去ニ於ケル斯ノ如キ事件ヲ非難致シマスヨリハ、將來ニ互ッテ外務大臣ガ之ニ對シ如何ナル御考ヲ有セラレ、如何ナル措置ヲ執ラレルカラ、私ハ御伺致シテ置キタイノデアリマス、第二ハ私ハ日獨協定ノ問題ニ付テ御伺ヲ致シタイノデアリマス、日獨協定ノ成立自身ニ付テ、私ハ前内閣ニ御伺致シタイ色々ナ點ガアッタノデアリマスガ、併ナガラ其人既ニ去ッタル今日、私ハ既往ヲ論ゼント致スモノデハナイノデアリマス、唯今儼トシテ存スル日獨協定ノ運用ヲ、現内閣ハ如何様ニナサレルノデアアルカト云フコトニ付テ、御伺ヲ致シテ置キタイノデアリマス、即チ日獨協定ガ秘密ノ裡ニ突如トシテ國民ノ前ニ投出サレタル爲ニ、此成立ニ當リマシテ、日本國內ニ於ケル感ジハ、三十五年前ノ日英同盟發表當時ト甚シク異ッテ居ッタノデアリマスガ、而モ此當時國民ハ二ツノ點ニ關シテ關心ヲ懷イタト思フノデアリマス、ソレハ時ヲ同ジウシテ發表セラレタル日伊協定ノアッタ爲ニ、世界ニ於テ恰モ一種ノ政治的思想ヲ等シウスル國々ノ聯携デアアルカノ如キ誤解ト誹謗ヲ生ジマシタ、ソレガ爲ニ從來日本ニ對シテ友好關係ヲ持ッテ居ッタ國々ノ同情ガ冷却ヲ致ス心配スラ認メラレタノデアリマスガ、新大臣ハ此點ニ關シテ如何ナル處置ヲ御執リニナルカラ御伺シテ置キタイノデアリマス、第二ニ國民ノ懷キマシタル關心ハ、歐

羅巴ノ情勢緊迫致シテ居ル今日、此全然防共協定デアアル日獨協定ガ、斷ジテ歐羅巴ノ問題ニ無關係デアルト云フコトヲ明瞭ニシテ貫ヒタイト云フ關心ヲ持ッテ居ッタノデアリマシテ、此點ニ關シテ外務大臣ノ明瞭ナル御意見ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス、第三ニ私ハ日「ソ」ノ關係ニ付テ御尋ヲ致シタイノデアリマス、佐藤新外務大臣ハ三月八日ノ貴族院ニ於ケル御演説ノ中ニ於キマシテ、日「ソ」ノ關係ニ言及セラレテ、何等カノ打開策ヲ發見シテ、兩國ノ關係ヲ良好ニ致サナケレバナラナイト言ッテ居ラレルノデアリマスガ、併シ外務大臣ハ其説明ノ大部分ヲ「コミンテルン」ノ問題ニ集中致サレタノデ、漫然トシテ之ヲ聽ケバ「コミンテルン」ノ存在スル限り、兩國關係ノ明朗化ハ困難デアアルカノ如キ印象ヲ與ヘラレタノデアリマスガ、恐ラクハ外務大臣ノ眞意ハ其處ニハナカッタと思フノデアリマスガ、尙ホ此機會ニ於テ御尋ヲ致シテ置クノデアリマス、私ハ日「ソ」ノ關係ノ重點ハ、日本ト「ソ」聯邦トガ國境ヲ接シテ居ルト云フ點ニアルト思フノデアリマス、吾々ハ三千年來海ニ圍マレテ居リマシタ爲ニ、國境ヲ隔テ異民族ト對峙スル經驗ヲ持タナカッタカラ、國境ニ對スル觀念ガ歐洲各國ノ民ノ如ク熾烈デナイノデアリマスガ、此接壤國ヲ新ニ滿洲國ヲ通シテ吾々ガ持ッタト云フコトハ、帝國ノ將來ニ對シテ深刻ナ影響ヲ持ツト思ヒマス、故ニ私ハ此國境問題ノ解決ニ當ッテ、現内閣ガ如何ナル御用意ヲ持タレルカラ伺ッテ置キタイノデアリマス、東洋ニ於テハ、從來國境ヲ隔テ、一觸即發ト云フヤウナ危險ナル状態ヲ吾々ハ持ッテ居ナカッタノデアッテ、斯ノ如キ國境觀念ハ、東洋的ノ觀念デハナカッタノデアリマス故ニ、吾々ハ此國境ノ觀念ノ明朗化ト云フモノガ、將來ノ日本ノ爲ニ洵ニ必要デアルト考ヘテ居ルノデアリマスガ、此點ニ付テ私ハ外務大臣ガ如何ナル對策ヲ御考ニナッテ居ルカラ伺ッテ置キタイノデアリマス、第四ニ私ハ日英關係ニ付テ御伺致シタイノデアリマス、此點ニ關シテハ既ニ林前外相ノ聲明モアリ、佐藤新外務大臣ノ御説明モアッタノデアリマスガ、外務大臣ノ御説明ハ、要スルニ英國トハ出來ルダケ協調ヲ保ッテ行キタイト云フ御考デアリマス、ソレハ抽象論トシテハ其通りデアルト思フノデアリマス、併ナガラ具體的問題トシテ、英國ト日本ノ關係ヲ眺メマスルト云フト、明白ニ吾々ノ利害ハ世界ノ

到ル處ニ於テ衝突ヲ致シテ居ルノデアリマス、今日日本ノ移民ハ英國ノ領土内到處ニ於テ排斥ヲ致サレテ居リ、日本ノ商品ハ英國ノ領内ハ申スニ及バズ、英國ノ勢力ノアル國々ニ於テ、亦排斥ヲ受ケテ居ルノデアリマス、即チ日英親善ト云フ希望ト、利害ノ衝突ト云フ現實トヲ、外務大臣ハ如何様ニ御調和ニナルカラ伺ヒタイノデアリマス、例ヘバ通商ノ關係ニ於キマシテ、昭和七年以來日本ノ貿易が目覺シキ勢ヲ以テ世界ニ擴ガツテ居ルニ拘ラズ、最近ニ至リマシテハ到ル處ニ於テ重大ナル障礙ニ面接ヲ致シテ、今ヤ停頓セントスル危險ヲ見テ居ルノデアリマス、殊ニ英國ノ王領植民地「セーロン」ノ如キハ、割當制實施以來四分ノ一ニ減退シ、英國ノ勢力下ニアル埃及ノ如キモ、二分ノ一ニ減退ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、加奈陀、濠洲、印度等ニ於テ協定ハ成立致シマシタケレドモ、吾々ノ希望ヲ未ダ十分ニ認メテ居ルト看做スコトハ出來ナイノデアリマス、而モ驚クベキコトハ、英國ハ單ニ英國領土内ニ於ケル日本商品ノ輸入ヲ防遏セント致スノミナラズ、英國以外ノ第三國ニ於テモ、日本商品ノ輸出ヲ防遏セント致シテ居ルコトヲ、私ハ昨年倫敦ニ於テ英國人ヨリ聽キマシテ一驚ヲ喫シタノデアリマスガ、此英國ノ海外貿易ニ對スル態度ガ繼續致シマスル限り、日本ノ生命線ノ一ツデアアル海外輸出貿易ノ前途ハ、洵ニ寒心スベキモノガアリマスル故ニ、私ハ日英親善工作ヲ致サレルト云フ御趣旨ニハ、滿幅ノ賛成ヲ致シマスルケレドモ、一方ニ於テ斯ノ如キ事實ヲ如何様ニ解決セラレルノデアアルカラ御致シテ置キタイノデアリマス、次ニ私ハ日米關係ニ付テ御尋ヲ致シタイノデアリマス、日米ノ間ニ只今存在スル問題ハ、或ハ移民法ノ改正、或ハ通商問題モアリマスルケレドモ、ソレハ私ハ今日之ヲ論ジナイノデアリマス、今日米ノ間ニアル現實ノ問題ハ、海軍軍縮ノ問題デアリマスルガ、併ナガラ何故ニ海軍ノ問題ガ、日米ノ間ニ於テ斯ノ如ク重大トナツテ來タカト云フコトヲ考ヘテ見マスルト、ソレハ要スルニ支那ニ對スル發言權ノ問題デアルト私ハ眺メルノデアリマス、故ニ日本ト亞米利加トノ間ニアリマスル最重要ナル問題ハ、對支政策ニ付テ日本ノ態度ト亞米利加ノ政策トガ相容レザルモノデアアルカ、或ハ協調可能ナルモノデアアルカト云フ點ニ窮極ヲ致スト思フノデアリマス、然ルニ亞米利加ノ對支政策ハ「ジョン・ヘイ」ノ

門戶開放政策ハ純粹ナル經濟政策デアリマシタ所、大正十一年華盛頓ニ於テ締結セラレタル所ノ九國條約ガ、領土保全ト稱スル政治的内容ヲ盛リマシタ爲ニ、遂ニ對支政策ノ内容ガ變化ヲ致シテ參リマシタケレドモ、米國ノ對支政策ノ内容ガ果シテ經濟的ナモノデアアルカ、或ハ政治的ナモノデアアルカト云フコトハ、吾々ガ更ニ檢討ヲ致サナケレバナラヌト思フノデアリマス、即チ滿洲事件當時ニ於テ不承認ノ原則ト云フモノガ唱道セラレマシタガ、ソレハ米國ノ對支政策ノ中心ヲ政治的ノモノト考ヘタル結果起ツタモノデアッタガ、吾々ノ眺メタ所デハ此米國ニ於ケル所ノ對支政策ノ眼目ハ次第二今變更ヲシテ本來ノ經濟政策ニ引返サント致シテ居ルト思フノデアリマス、若シ然ラバ日本ノ支那ニ於ケル所ノ眞意ガ眞實ニ米國ニ諒解サレマシラバ、私ハ日本ト亞米利加トノ間ニ於ケル最重要ナル對支政策ニ付テハ、意見ノ衝突ハ無イモノト思フノデアリマスガ、此點ニ付テ外務大臣ハ日本ノ對支政策ノ眞實ノ姿ヲ、米國民ニ對シテ説明セラレ、其徹底ヲ圖ラレルノニ如何ナル御精神ヲ有セラレルカラ、私ハ承知シテ置キタイノデアリマス、最後ニ私ハ日支關係ニ付テ御尋ヲ致シタイノデアリマス、總理大臣ハ外務大臣ヲ兼任セラレテ居リマシタ當時、櫻井兵五郎君ノ質問ニ答ヘテ、是カラ後ハ經濟的ノ握手、文化的ノ協力ヲシテ行クノデアルト申サレタノデアリマス、佐藤新外務大臣ハ從來ノ行懸リヲ水ニ流シテ、平等ノ立場ニ立ツテ出直シテ見タイト申サレタノデアリマス、其根本ノ趣旨ニ於テ吾々ガ何等ノ異存ナキコトハ洵ニ當然デアリマスルケレドモ、ソレハ極ク抽象的ナル議論デアリマスルガ、吾々ノ知ラント欲スルノハ、然ラバ斯ノ如キ抽象論ヲ如何ニシテ具體的ニ國策ノ上ニ實現セラレルカト云フコトデアリマス、私ハ西安事件以後ニ於ケル支那ノ形勢ハ、非常ニ變化ヲ致シテ居ルト云フコトヲ考ヘルノデアリマス、ソレハ一ニハ支那自身ノ變化デモアリマスルガ、今一ツハ第三國即チ英國ノ態度デアリマス、英國ガ最近ニ至ツテ支那ニ對シテ本腰ニナツテ、援助ノ態度ヲ執ツテ參ルヤウニナリマシタ爲ニ、支那ノ形勢ガ變ツテ居ルト思フノデアリマスガ、然ラバ私ガ茲ニ外務大臣ニ御致シタイコトハ滿洲ノ問題或ハ北支ノ問題ニ付テハ、日本一國ノ力ヲ以テ之ヲ解決致スコトモ出來ルデアリマセウガ、中支南支ノ問題ニ付

テ政府ハ長ク支那ニ於テ關係ヲ有シ、利權ヲ有スル是等ノ國々ト協力スルコトナクシテ、目的ヲ達成シ得ルト御考ニナルカドウカト云フコトデアリマス、ソレハ第一ニ日本ガ全世界ニ於テ貿易ノ進出ヲシテ參ツタ一ツノ原因ハ、吾々ガ對支貿易ガ激減致シマシタ爲ニ、之ヲ補フ爲ニ進出致シテ、英國ト全面的ニ衝突ヲ致シテ居ルノデアルカラ、若シ英國ト日本トノ具體的ナル協調ガ可能デアルト致スナラバ、ソレハ支那ノ問題デアルト私ハ眺メルノデアリマス、其ハ甚ダ高率デアアル、其爲ニ、日本ノ對支貿易ガ甚ダ阻碍セラレテ居ルノデアアル、而モ關稅自主權ノ回復ノ爲ニ率先シテ之ヲ援助致シタノハ、日本デアッタコトヲ考ヘテ見マスト、今日ノ支那ガ日本ノ致シタ良キ事ハ之ヲ忘レテ、單ニ日本ノ致シタ事デ彼等ノ不平トスル所ノミヲ強調致シテ居ルノハ正當デハナイ、此高率ナル關稅ノ存在致ス限リ、日支間ノ經濟提携ハ洵ニ困難デアアル實情ニ鑑ミマシテ、私ハ現外務大臣ガ此關稅改訂ノ問題ニ如何ニシテ指ヲ染メラレルカニ付テ、具體的ニ御伺ヲ致シテ置キタイト思フノデアリマス、今一ツハ私ハ日本國民ハ支那ノ復興ニ對シテ深甚ナル同情ヲ有シマスルガ故ニ、支那ノ經濟復興ニ對シテ吾々ハ積極的ノ援助ヲ致シタイト云フ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、其具體的ナ問題トシテハ、私ハ現前日本ノ前ニアリマスル所ノ問題ハ、對支投資ノ問題デアルト思フノデアリマス、然ルニ英國ハ既ニ西安事件以後ニ於テ、人ヲ派シテ支那ニ於テ投資ヲ實行セント致シテ居リマス、現狀デアリマスルガ故ニ、若シ日本ガ今日意ヲ決シテ此問題ノ解決ニ當ラザル限リハ立遅レトナツテ、將來日支提携ニ阻碍ヲ及ボスノデハナイカト考ヘルノデアリマス、此點ニ關シマシテ私ハ外務大臣ハ日本ノ對支投資ニ關シテハ、他ノ國々ト協力ヲ致シテ之ヲ爲ス御考ガアルカドウカヲ、伺ツテ置キタイノデアリマス、私ハ先日ノ外務大臣ノ貴族院ニ於ケル御演說ヲ承知致シマシテ、外務大臣ガ支那ト平等ノ立場ニ於テ新シク出直スノデアルト云フ御說明ニ力ヲ用ヒラレマシタル結果、却テ日本ノ眞意ニ付テ反對ノ誤解ヲ相手方ニ生ゼシメタ、心配ハナカッタカト、杞憂ヲ致スノデアリマス、故ニ私ハ日支關係ノ根本ニ付テ最後ニ御伺ヲ致シテ置キタ

イノデアリマス、即チ日本ノ支那ニ對スル態度ニ於キマシテハ、日本外交ノ根本策デアアル滿洲國ノ完成ト云フコトハ、如何ナル内閣ガ出來マシテモ、如何ナル外務大臣ガ現レテモ、日本ノ一貫不動ノ方針デアアルガ故ニ、之ニ變リハナイト云フコトヲ明瞭ニ致シテ置カナケレバナラナイ、隨テ滿洲國ト接壤地方ノ治安維持ニ付キマシテモ、亦帝國政府ハ重大ナル關心ヲ有ツテ居ルト云フコトヲ明瞭ニ致シテ置カナケレバナリマセヌ、又北支ノ經濟開發ニ付テモ、帝國ハ特殊ナル利害關係ヲ有ツテ居ルト云フコトヲ明瞭ニ致シテ置カナケレバナリマセヌ、併ナガラ支那ガ統一セラレテ繁榮ナル社會ヲ造ルト云フコトハ、日本全國民ノ衷心ノ希望デアッテ、日本ハ復興支那ニ對シテ援助ヲ惜ムモノデナイト云フコトヲ、明瞭ニ致シテ置キタイノデアリマス、從來吾々兩國間ニ於キマシテハ種々ナル事件ガ發生ヲ致シテ、此日本民族ノ支那ニ對スル衷心ノ同情ガ、歪曲セラレテ支那ニ映ジタルコトハナカッタカ、若シ左様ナコトガアッタナラバ吾々ハ之ヲ深ク遺憾トスルノデアリマス、吾々ハ支那ニ對シテ反省ヲ求メルト共ニ、吾々自ラモ反省ヲスルコトニ吝デナイト云フコトヲ、明瞭ニ致シテ置キタイノデアリマス、故ニ私ハ此機會ニ於テ佐藤新外務大臣ガ、日本ノ支那ニ對スル政策ノ限度ヲ明瞭ニセラレンコトヲ希望致スノデアリマス、若シ然ラザル場合ニ於キマシテハ好意ニ出發ヲシテ、却テ失望ト反感ヲ買フノ虞ガアルコトヲ杞憂致スカラデアリマス、此點ニ關シマシテ私ハ此際外務大臣ヨリ、明瞭ナル御返答ヲ伺ヒタイノデアリマス

芦田君ノ質問

私ハ林總理大臣並ニ佐藤外務大臣ニ對シテ、帝國外交ノ方針ニ關シ二三ノ質疑ヲ致シタイト思ヒマス、佐藤外務大臣ガ三月八日ノ貴族院ニ於テ述ベラレマシタル外交ニ關スル抱負ハ、國ノ内外ニ於テ相當良好ナ影響ヲ與ヘタヤウニ見受ケマス、新外務大臣ハ率直ニ、大膽ニ其信念ヲ吐露セラレタノデアリマシテ、大體ノ趣意ニ於キマシテハ何人モ異存ノナイコトデアラト信ジマス、併ナガラ外務大臣ガ長時間ニ互ツテ述ベラレタコトハ、多クハ外交理念ヲ陳述セラレタノデアリマシテ、具體的ノ事實ニ對シテハ殆ド觸レテ居ラレマセヌ、其聲明ニ依レバ、

日「ソ」關係ニ於テハ何等カノ方法デ親善ヲ加ヘタイ、英國ト提携シテ行キタイノハ全日本ノ希望デアアル、又日支交渉ノ行詰リニ付テハ何等カノ妥協點ニ進ム必要ガアルカラ、今後ハ日支平等ノ立場デ、更メテ出直ス意嚮デアルト述ベラレテ居リマス、之ヲ一言ニシテ申セバ、八方圓滿ニ國交ヲ調整シヨウト云フ樂シイ夢ヲ語ラレタノデアリマス、但シ如何ニシテ斯ノ如キ理想境ニ到達スベキヤト云フ具體的政策ニ付テハ、不幸ニシテ説明ヲ伺フコトガ出來ナカッタノデアリマス、私ハ直截ニ外務大臣ニ申シタイ、吾々共ニ毎年議會ノ劈頭ニ於テ、外務大臣ノ口カラ略、同工異曲ノ樂シイ物語ヲ聽カサレタノデアリマス、併シ應テ冷タイ現實ノ暴露ニ、苦シイ盃ヲ嘗メサセラレタ經驗ヲ忘レルコトガ出來マセヌ、現在我ガ國民ノ不安ハ、何時デモ樂觀的ナ政府ノ聲明ト、吾々ガ眼前ニ見ル國際情勢トノ間ニ、餘リニモ距離ガアリ、矛盾ガアルト云フ點デアリマス、現ニ林總理大臣ハ、過日來豫算總會ニ於テ、屢々一觸即發ト云フ言葉ヲ繰返サレテ居リマス、更ニ現内閣ノ豫算ハ、一層有力ニ其心境ヲ裏書シテ居ルモノデアルト思ヒマス、結城財政ハ二十八億圓ノ歳出ノ半分、十四億圓餘リヲ國防費ニ充當致シテ居リマス、馬場財政ノ修正デアルト觸出シナガラ、國防費ニ於テハ、憲法違反ノ浮名ヲ立テラレツ、四千万六百萬圓ノ金額ヲ切捨テルト見セテ、實ハ勝手口カラ逃ガシテ居ルデアリマセヌカ、斯ク申シタ所デ、私ハ決シテ國防充實ノ急務ヲ認メナイト云フノデアリマセヌ、國防ニ不安ヲ感ズルガ故ニ、一層強ク外交國策ヲ樹立スルノ必要アリト申スノデアリマス、私ガ第一ニ林總理大臣ニ御尋致シタイト思フコトハ、軍備ト外交トノ調和ヲドウスルカト云フ點デアリマス、言葉ヲ換ヘテ申セバ、内閣ニハ國防ト財政ト外交トノ綜合サレタル國策ノ御持合ガアルベキ筈デア、今更申ス迄モナク日本ハ孤立デアリマス、孤立シタ國ハ自分ノ力ニ依ッテ國ヲ護ル外ニ途ハアリマセヌ、ソコデ我國ハ、陸ニ於テハ「ソビエト」聯邦ト、支那ノ陸軍ヲ假想敵トシテ、陸軍ヲ充實シナケレバナラス、海ニ於テハ英米ヲ目標トシテ海軍ヲ建設シナケレバナラス、ケレドモ國防ニ於テ斯様ナ重イ責任ヲ負フ國ガ、世界ノ何處ニアリマスカ、此重イ責任ヲ單ニ軍備ノ力ニ依ッテノミ完クシヨウトスルノハ、假令不可能デナイ迄モ、斷ジテ賢明ノ政策デハナイ

ト信ジマス、我國ノ周圍ニ今迫ッテ來テ居ル日本包圍ノ鎖ヲ、單ニ軍備ニ依ッテノミ斷チ切ラウトスルナラバ、十四億圓ノ國防費ノ如キハ、之ヲ二倍ニ増加シテモ尙ホ足りナイデアリマセウ、然ルニ豫算總會ニ於テ陸海軍ノ當局ハ、現在ノ國防豫算ヲ以テスレバ、今後數年間ハ増加ノ必要ハナイト申サレテ居リマス、吾々ハ此點ニ於テ密ニ國際情勢ノ認識ニ於テ見解ヲ異ニスルコトヲ痛感致シタノデアリマス、現在ノ狀況ヲ進シテ行ケバ、コ、二三年ノ中ニ、帝國議會ハ更ニ新シイ國防費ノ増額ヲ、審議スル運命ニ迫ラレテ居ルコトハ明白デアリマス、ソレニモ拘ラズ國內ノ各方面ニ於テハ、國防費增加ノ傾向ヲ憂慮スル論議モアリ、又増税ノ與ヘルデアラウ所ノ惡イ影響ニ付テモ、不安ノ念ヲ表示スル者ガ相當ノ數ニ上ッテ居リマス、ケレドモ今日ノ事態ニ於テ増税案ヲ切ツテ、軍事費ヲ僅カバカリ削減シテ見タ所デ、ソレハ問題ノ解決ニハナリマセヌ、國防費ノ膨脹ハ國防費ノ爲メデアル、國防費ノ増大ハ孤立無援ノ環境カラ來テ居ルノデアリマス、故ニ總テノ國策ハ現在ノ此國際情勢ヲ如何ニ我國ニ有利ニ轉換スベキカト云フコトカラ、出發シナケレバナラナイト思フノデアリマス、此國際環境ヲ此儘ニ捨テテ置イテ増税ノ可否ヲ論ジ、豫算ノ大小ヲ論議スルノハ、謂ハゞ枝葉末節ノ論議デアアル、隨テ此國防不安ノ境涯ヲ外交ニ依ッテ如何ニ轉換スベキカト云フコトガ、差當リ國防ト財政問題ノ根本デナケレバナラヌト信ジマス、ソレガ出來ナイ限り日本ハ幾人大藏大臣ヲ取換ヘテ見タ所デ、將來財政ノ見透シハ付キ兼ネルト言ハレルニ決ッテ居ル、斯様ナ情勢ノ中ニアッテ、我ガ國民ニ國防安全感ヲ與ヘルノハ外交ノ外ニハアリマセヌ、外交ガ國防ノ第一線ニ立ツベキ筈デアリマス、然ルニ從來外交ハ廣義國防ノ圈外ニ立ッタバカリデナク、兎角戰略上ノ考ニ引摺ラレ勝チデアリマシタ、殊ニ現内閣ニ至ッテハ八宗兼學ノ總理大臣ヲ迎ヘテ、御蔭デ外交ハ開店休業ノ看板ヲ出シテ居リマス、林内閣ハ此誤ッタ方針ヲ是正シテ、我國ノ財政ト國防ト實情ニ即シタル外交政策ヲ御持チニナラナケレバナラヌ筈デアアルガ、政府ノ所信ヲ率直ニ御説明願ヒタイト思ヒマス、次ニ私ハ林内閣ノ對「ソ」政策ニ付テ御伺致シマス、日「ソ」關係ハ大陸ニ於ケル我國ノ運命ヲ決スル問題デアリマス、然ルニ現在ノ日「ソ」關係ハ戰爭デモナケレバ平和デモナイト云フ、極メテ

陰鬱ノ状態ニアルコトハ國民ノ最モ關心ヲ持ツ點デアリマス、佐藤外務大臣ハ八年ノ長イ間露西亞ニ在勤セラレテ、我國露西亞通ノ隨一ト言ハレテ居リマス、此人ヲ外務大臣トシテ迎ヘタト云フコトハ、日ソ問題ノ解決ニ一道ノ曙光ヲ與ヘルモノデアツテ、國民ハ其實行力ニ多大ノ期待ヲ繫イデ居リマス、今日マデ歴代ノ内閣ハ或ハ極東ニ集中シテ居ル「ソビエト」ノ兵力ヲ、撤退セシメル方法ヲ考慮スルトカ、或ハ「モスコ」政府ノ反省ヲ求メルトカ、何レモ其場限りノオチヤラカシラ立ベテ來テ居リマス、其結果ハ「ソビエト」聯邦ガ度々ニ極東兵力ヲ充實シテ、現在既ニ三十万ノ兵力ト千二百ノ飛行機ヲ備ヘルニ至ッテ居ル、來年度ノ「ソビエト」ノ軍事費ハ二百億留ヲ突破スルトモ傳ヘラレテ居リマス、殊ニ日獨協定ノ調印以來、露西亞ハ益々此方面ノ防備充實ニ熱ヲ出シテ來マシタ、隨テ滿洲國境ヲ狹ンデ本格的ノ軍備競争ガ展開サレテ居ル、新外務大臣ハ此情勢ヲ此儘ニ成行ニ任セヨト云フ御考デアアルカ、或ハ又之ヲ轉換スル何等カノ具體的政策ヲ持ッテオキデニナルノカ、若シ此形勢ヲ此儘ニ見送ルト云フコトデアアルナラバ、兩國關係ノ窮極スル所ハ、想像スルニ決シテ難クハアリマセヌ、外務大臣ハ貴族院ニ於ケル質問ニ答ヘテ「ソビエト」聯邦ガ國際共產黨ノ存在ヲ許サズ、或ハ國外ニ放逐スルコトニナレバ、國際關係ハ明朗ニナルト言ハレテ居リマス、成程ソレモ國交改善ノ一ツノ條件ニハ相違アリマセヌガ、併ナガラ日ソ關係ノ重點ヲ共產主義ノ宣傳ニ置クト云フコトデハ、當分兩國ノ關係ハ改善ノ見込ガナイト吾々ハ考ヘル、見込ガナイノミナラズ、此方策ヲ極端ニ押進メテ行クナラバ、我國モ遂ニ「イデオロギー」ニ依ル國際的對立ノ渦中ニ、捲込マレル危険ガアルト思ヒマス、共產主義ヲ排撃スルコトニ於テ、吾々決シテ人後ニ落テ居リマス、ソレハ世界大戰ノ五箇年ノ經驗ニ見テ明カデアアルガ如ク、獨裁政治ヲ排撃シテ最後ノ勝利ヲ占メタ國ハ、悉ク立憲國家デアツタカラデアリマス、私共ノ信念ニ依レバ我國ノ基礎ハ、共產主義ノ宣傳ニ依ッテ危クサレル程ノ脆弱ナモノトハ考ヘマセヌ、又日ソ兩國ノ關係ハ共產主義ノ問題ニ依ッテノミ左右サレル如キ、單純ナモノトモ思ハレマセヌ、共產主

義以前ノ露西亞ト我國トノ間ニモ、日露戰爭ハ起ツタノデス、之ヲ思ヘバ日ソ兩國ノ關係ハ、モット實際的ノ見地カラ打開ノ途ヲ講ゼナケレバナライモノデアアルト信ジマス、現ニ漁業問題、北樺太ノ油田問題、何レモ國民生活ニ極メテ密接ナ關係ヲ持ツ問題ガ、吾々ノ前ニ山積シテ居ル今日、我が國民ハ冷靜ニ大局ノ上カラ兩國ノ關係ヲ整調スルコトヲ、希望シテ居ルト固ク信ジテ居ルノデアリマス、第三ニ對支政策ニ關シテ御尋ヲ致シマス、日支關係ハ言フマデモナク我國死活ノ問題デ、サウシテ地理的條件ノ變化ガナイ限り、日本ニ取ッテハ永遠ノ問題デアリマス、曩ニ廣田内閣ハ昨年九月ヨリ三箇月ノ日子ヲ費シテ、日支交渉ヲ行ヒマシタケレドモ、何ノ得ル所ナク終ツタ、詰リ日支交渉ノ失敗ハ廣田内閣倒壞ノ一大原因ヲ爲シタノデアリマス、林内閣ハ其後ヲ承ケテ政局ニ立タレタノデアアル、隨テ何ヨリモ先ヅ日支交渉決裂ノ善後處分ヲ爲スベキ、當然ノ責任ヲ負ハレテ居ルト思ヒマス、ソコデ佐藤外務大臣ハ此日支關係ヲ何處ニ導カウト云フ御考デアアルノカ、特ニ此際政府ノ注意ヲ喚起シテ置キタイ點ガアリマス、杉山陸軍大臣ハ二月二十七日ノ本議場ニ於テ、今尙ホ前内閣ノ對支三原則ヲ維持スルト明白ニ答辯シテ居ラレマス、又林總理大臣モ略之ニ類スル答辯ヲ與ヘラレテ居ルノデアリマス、然ルニ此度佐藤外務大臣ハ、日支共ニ平等ノ立場ニ於テ、新シイ出發點カラ見直スト聲明シテ居ラレル、是デハ林内閣ニ未ダ確固タル對支政策ガナイトノ結論ニ到達スルコトハ、已ムヲ得ナイノデアリマス、新シク出直スト外務大臣ガ言ハレタノハ、單ナル觀念論ニ過ギナイ、我が對支政策ノ全貌ヲ表現スル言葉トシテハ、甚ダ物足りナイ感ジラ懷カザルヲ得ナイノデアリマス、隨テ國民ハ改メテモット具體的ナ政府ノ對支方針ヲ、表明シテ戴クコトヲ期待シテ居リマス、吾々ガ過去數年間主張シテ來タコトハ、世界ニ對シテ我が大陸政策ノ限界ヲ示セト云フコトデアリマス、日本ハ何處マデ行クノカト云フコトガ、支那ノ大衆ノ懷イテ居ル不安デアリマス、日本ハ何處マデ行クノカト云フコトガ、我が外交國策樹立ノ出發點ナリト考ヘルモノデアリマス、最近政府ハ日支ノ經濟的協力ヲ力説シテ居ラレマスコトハ、吾々國民トシテハ洵ニ喜ンデ居ル所デアリ

マスガ、此經濟提携ヲ行フニハ、何ヨリモ先ニ日支兩國ノ間ニ蟠ル不安ノ空氣ヲ一掃シナケレバナラヌト思フ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ日支ノ政治的折衝ヲ有利ニ行フノデナケレバ、本當ノ經濟提携ハ行ハレ得ナイモノデアルト考ヘルノデアリマス、又經濟提携ノ實行ニ際シテハ、從來ノ如ク政府ノ息ノ掛ッタ仕事バカリデナク、廣ク民間實業家ノ創意ヲ以テ、日支經濟界ノ本當ノ提携ヲ圖ルベキモノデアルト吾々ハ考ヘル、政府ハ此ノ點ニ付テ如何ナル見解ヲ持ッテ居ラレカ、伺ヒタイノデアリマス、元來今日マデ日支兩國ノ協力ガ豫想ノ如クニ進捗シナカッタト云フ原因ハ、一方ニハ平和的ノ努力ヲシナガラ、他方ニハ之ヲ破壞スルガ如キ行動ガ、白晝公然ト行ハレテ居ッタ爲メデアル、國民ガ外交一元化ノ必要ヲ痛感シタト云フコトハ、固ヨリ當然デアルト思ヒマス、私ハ茲ニ一ツノ例ヲ申上ゲル、日支交渉ガ南京ニ行ハレツ、アッタ其眞最中ニ、緩遠事件ガ白熱點ニ達シタ、日支交渉ハ之ヲ契機トシテ立往生シタコトハ御承知ノ通りデアリマス、其當時ノ支那ノ新聞ヲ被イテ見レバ、此事件ガ如何ニ支那民衆ノ結束ヲ鞏固ニシタカハ一見シテ明白デアリマス、廣東ノ刑務所ニ於テハ、獄ニ繋ガレタル多クノ囚徒ガ、食ヲ物ヲ食ハナイデ、之ヲ緩遠軍ニ獻金シテ居ルノデアリマス、斯様ニ日支關係ニ重大ナ波紋ヲ與ヘタ事件ガ、我國ニ於テハ、我國ニ於テノミ其真相ガ掩ハレテ、國民ハ五里霧中ニ彷徨シテ居ッタ、ケレドモ事件ノ真相ハ知ル人ゾ知ル、私ハ遡ッテ過去ノ事實ヲ答メヨウト云フノデアリマセヌ、ケレドモ將來、少クトモ將來斯ノ如キ過チヲ再ビ繰返スコトノナイヤウニ、嚴重ニ警メナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、佐藤外務大臣ハ日支兩國ハ平等ノ立場ニ立ッテ申サレタ、言換ヘレバ與ヘテ取ルト云フコトデアリマス、日支關係ノ整調ニハ大局ノ上カヲ見テ、共存共榮ノ具體的政策ヲ用意シナケレバナラヌノデアリマスガ、從來ト雖モ我國ニ若シ明敏ナル政治家ガアッタナラバ、支那ヲ援助スル機會ハ屢捉ヘルコトガ出來タ筈デス、一昨年ノ幣制改革ニ於テモ、昨年ノ西安事件ニ於テモ、絶好ノ機會ヲ眼前ニ見ナガラ、之ヲ逸シ去ッテ、徒ニ支那ヲ歐洲諸國ノ懷ロノ中ニ飛込マシテシマッタ、林内閣ハ果シテドノ程度マデ支那ト協力スル具體的ノ案ヲ持ッテ居ルノデアルカ、又我が大陸政策ノ眼界ヲ明白ニ表明スルダケノ決

心ヲ持ッテ居ラル、カドウカ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、最後ニ私ハ外交國策ノ根本ニ付テ、私ノ卑見ヲ申述ベテ政府ノ所信ヲ伺ヒタイト存ジマス、近頃我國ノ外交ガ八方行詰リノ状態ニアルコトハ、吾々國民ノ齊シク憂トスル所デアリマス、何ヲ以テ我國ノ外交ガ行詰ッタと言フノカ、今日ノ外交ハ不幸ニシテマルデ機動ノ自由ヲ失ッテ居ル、支那ニ對シテモ、「ソビエト」ニ對シテモ、或ハ又英米ニ對シテモ相手ノ思フ儘ニ引摺ラレテ、此方ハ手ヲ拱イテ呆然トシテ居ル形デアリマス、今日迄歴代ノ政府ハ外交ノ自主積極ノ看板ヲ掲ゲテ居ッタケレドモ、積極政策ノ如キハ實ハ藥ニシタクモ見當ラナカッタ、其間ニ周圍ノ情勢ハ益々惡化シテ、何時ノ程ニカ日本包圍ノ網ハ限ナク張廻サレテシマッタ、此孤立ノ形勢ニ焦慮シタ廣田内閣ハ、僅ニ獨逸トノ協定ニ依ッテ世間體ヲ糊塗シヨウト努メタノデアリマス、斯様ニ歴代政府ノ其日暮シノ政策ニ依ッテ或國ハ洵ニ全面的ノ行詰リニ當面シテ居ル、行先ハ戰爭カ平和カト云フ岐路ニ立ッテ、國民ハ等シク不安ノ中ニ迷ッテ居ルノデアリマス、林内閣ハ此難局ヲ切抜ケルニ付テ、一層其責任ノ重大ナルコトヲ痛感セラレナケレバナラヌ、端的ニ申セバ今日我國ノ禍ハ、國民ガ進ムベキ明白ナル目標ガ示サレナイト云フコトデアリマス、迷ッテ居ル民衆ヲ指導スベキ強イ力ガ無イト云フコトデアリマス、國內ノ政治ニ強力ナル中心ガナイガ如ク、外交國策ニ於テモ指導精神ヲ失ッテ居ルト思ヒマス、時ハ非常時デアルト言ヒ、國防ノ充實ハ一日モ忽セニスベカラズト言ヒツ、モ、其目標ハ何處ダト問ヘバ、或ル者ハ黑龍江ノ風雲急ナリト答ヘ、或ル者ハ太平洋ノ波高シト答ヘル、斯様ニ國論ガ區々ニ岐レテ、國民ハ四方八方ニ精力ヲ分散シテ居ル、國民ノ多數ハ其嚮フベキ所ニ迷ッテ居ル、而モ外部ノ情勢ハ目ニ見エナイ力ヲ以テ、日一日ト我國ニ迫ッテ來テ居ル、是レガ現狀デアリマス、固ヨリ吾々ハ我が民族ノ將來ニ十分ノ確信ヲ持ッテ居ル、ソレ故ニコソ吾々ハモット落著イテ確乎タル國策ヲ定メテ、此國策ニ向ッテ精力ヲ集中シナケレバナラナイト主張スルノデアリマス、例ヘバ日本ガ全精力ヲ傾注スベキ滿洲國ニ付テモ、今日ノ状態デ果シテ安心ガ出來ルノカ、多クノ點ニ付テ出直サナケレバナラナイ問題ヲ控ヘテ居ルノデハナイカ、滿洲國ノ發達、強化ノ爲ニ政府ハ全日本ノ智能ト財力トヲ

動員スベキデハナイカ、是等ノ問題ハ國民ノ等シク聽カント欲スル點デアリマス、併ナガラ滿洲國ノ指導ニ精力ヲ集中スル爲ニハ、國力ヲ八方ニ分散スルコトハ嚴ニ戒メナケレバナラヌ、殊ニ領土の野心ヲ以テ長城ノ外ニ武力ヲ行使スルガ如キハ、斷ジテ戒メナケレバナラヌと思ヒマス、勿論平和的發展ノ爲ニハ五大洲到ル處ニ、堂々トシテ進出スル政策ヲ立ツベキデアアル、吾々ノ前ニハ日本ノ輸出貿易ヲ阻害スル爲ニ、幾多ノ障礙ガ加ヘラレテ居リマス、ソレニモ拘ラズ過去數年ニ互ツテ、我國ノ對外貿易ハ躍進ニ躍進ヲ重ネテ來タ、故ニ政府ハ此際宜シク通商自由ノ大旗ヲ掲ゲテ邁進スベキデアアル、正義ト公平ノ精神ノ下ニ、世界資源ノ公開ヲ主張シテ、一段ト積極的ナ努力ヲ爲スベキデアアルト考ヘマス、是ダケノ氣魄サヘモ持合セノナイ爲ニ、北支ノ密輸入ニ片棒ヲ擔グガ如キ疑ヲ受ケテ、八方陳辯ニ是レ努メタノハ、國民ノ今尙ホ深く遺憾トスル所デアリマス、林内閣ハ國體明徴ヲ其政策ノ劈頭ニ掲ゲテ居ラレル、其精神ハ恐ラク正義ノ國家ヲ打倒セルト云フ御趣意デアリマセウ、日本ハ未ダ曾テ武力ヲ以テ世界ヲ征服シヨウナドト考ヘタコトハアリマセヌ、日本精神ハ正義ヲ以テ世界ニ臨ムコトヲ本質トスルノデアアル、若シ林總理大臣ノ言ハレル祭政一致ト云フ言葉ガ、此正義國家ノ建設ヲ意味スルノデアアルナラバ、吾々モ亦之ヲ支持スルニ決シテ吝デナイト云フ意ヲ表明シテ私ノ質問ヲ終リマス

佐藤外務大臣ノ答辯

諸君、本日ハ鶴見君並ニ菅田君ヨリ熱誠ヲ籠メテ、此重要ナル時期ニ際シマシテ、日本ノ外交ノ根本ハ何處ニアルカト云フコトニ付テ、該博ナル御議論ヲ拜聽シタノデゴザリマス、之ニ對シマシテ御答ヲスルト云フコトハ、短イ時間デ果シテ出來ルカ、可ナリ困難ナ程重要ナ問題デゴザリマス、併ナガラ此議場ニ是ダケノ議員諸君ガオ居デナリマシテ、而シテ是等ノ重要ナル諸問題ニ關シテ、政府ノ意向ヲ御聽質シニナリタイト云フ其御考ハ洵ニ御尤ナコトデゴザリマス、私自身自分ノ出來ルダケノ力ヲ以テマシテ御説明ヲ申上ゲタイト思フデアリマス、先ヅ事ノ順序ト致シマシテ、私ハ

兩君ノ質問ノ諸點ヲ舉ゲマシテ、而シテソレニ付キ一々御答辯申上ゲタイト思ヒマス、併シテ問題ガ問題デゴザリマシテ、又兩君ノ御話モ可ナリ似寄ッタ所ガゴザリマスカラ、或ハ一括御返事ヲ申上ゲルト云フコトガアルカモ知レマセヌ、先ヅ鶴見君ノ第一問デアアル歐洲ノ政情ニ關シテノ御見解デアリマスルガ、歐洲ニハ果シテ戰爭ガ勃發スルヤウナ危機ガ、其處ニ存在シテ居ルノカドウカト云フコトニ付キマシテハ、私ハ或ハ樂觀論者デアアルカモ知レマセヌケレドモ、成程國際間ノ關係ハ頗ル逼迫シテハ居リマス、ケレドモ其ノ逼迫其モノガ果シテ戰爭ヲ誘致スル性質ノモノデアアルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、私ハ多大ノ疑問ヲ持ッテ居リマス、成程戰爭ノ危険ハアルカモ知レナイ、各國ガ軍備ヲ是程蓄ヘテ、國境相接シテ居ル今日ニ於キマシテ、戰爭ノ危険ガ絕對ニタイトハ誰モ言ヘマス、併ナガラ戰爭ト云フモノハ、果シテソレ程簡單ニ勃發スルモノデゴザイマセウカ、私ハサウデナイト云フ大キナ信念ヲ持ッテ居リマス、何トナラバ戰爭ノ勃發ヲ防止スル力ガ、又ソコニ反對ニ湧イテ來ツ、アルカラデアリマス、是ハ國際間ノ輿論デゴザイマス、輿論ノ力、ソレハ平和ヲ欲シテ居リマス、此輿論ノ力ヲ認メタイト云フコトハ、私ハ間違ッテ居ルト思ヒマス、日本モ併ナガラ戰爭ノ勃發スル危険ノ有ル無シニシロ、現在ノ問題トシテ、經濟上デハ各國ノ關係ハ是程逼迫シテ居ルデヤナイカ、各國皆國家經濟主義ヲ採ッテ、自國ノ安立ヲノミ是レ事トシテ居ル、斯ウ云フ状態ニ於テハ、國際間ノ關係ガ惡化スル一方デアアル、成程其通デアリマス、故ニ進ンデ日本モ自存ノ爲ニ必要デアアルナラバ、滿洲其他ノ經濟上ノ所謂「ブロック」ヲ拵ヘテ、ソシテ此大勢ニ當ルベキデアルト云フ御説ヲ、鶴見君カラ承ッタと思フデアリマスルガ、洵ニ御尤ナコトト思ヒマス、但シ果シテ現在ノ状態ハ其處マデ行ッテ居ルカドウカ、私ハサウハ思ヒマセヌ、サウ云フ經濟上ノ「ブロック」ヲ拵ヘルト云フコトハ、是ハ切羽詰ッタ時ノ話デアッテ、現在ニ於テハ、少クトモ日本其モノノ生存ヲ開拓スベク、吾々ハマダ「突進シ、且ツ努力ヲシナケレバ」ナラヌ方面ガ澤山アルト思フデアリマシテ、ソレ等ガ總テ不成功ニ終ッタ時ニ、初メテサウ云フコトモ研究サルベキデアルト思ヒマス、ソレカラ進ンデ秘密外交ニ付テノ御考ガアリマシタ、成程外交其モ

ノハ國家ノ外交デアリマシテ、國民ガ其内容、外交ノ趨向ヲ知リタイト云フ希望ニ充テ滿チテ居ルノハ、是ハ極メテ諒解シ易イ所デアリマシテ、又今日ノ外交ニ於キマシテハ、國民ノ背景ナシニ、輿論ノ支持ナシニ外交ト云フモノハ行ハレルモノデナイ、ソレハ何人モ異存ノナイ所デアリ、又サウナクテハナラヌ所デアリマシテ、併ナガラ國民ガ知ラント欲スル所ト、國家ノ利益ヲ如何ニ調和スルカト云フコトガ、私ハ最モ困難ナル問題ト思ッテ居リマス、成程國民ハ一日モ早ク知リタカラウ、併シ之ヲ知ランガ爲ニ、外交ノ内容ヲ發表スルト云フコトガ、若シ其時ノ情勢ニ於テ、國家ノ利益デナカッタシタナラバ如何デゴザイマスカ、私ハ已ムヲ得ズ國家ノ利益ヲ先ニシテ、而シテ或ル解決ニ到著シタ場合ニ、初メテ國民ヲシテ知ラシメルト云フ外ハナイダラウト思ヒマス、而シテ外交ト云フモノニハ、ソレデハ秘密ハ絶對ニ必要ハナイノカト申シマス、是ハサウデハナイノデアリマシテ、例ヘバ個人々々ノ談判ニ於キマシテモ、亦ハ商談ニ於キマシテモ、秘密ハ常ニ伴ッテ居リマス、前以テ自分カラ先ニ斯ウ云フ手デオ前ト談判スルノダ、斯ウ云フ内容デ以テオ前ト話スルノダ、商談ヲ進メルノダトハ、誰モ申シマスマイ、私ハ國家ノ利益ヲ最モ多ク代表スル所ノ此外交ニ於キマシテ、前以テ自分ノ手ヲ公開スルト云フコトハ有リ得ナイト思フノデアリマス、總テ私ハサウ云フ場合ニ國家本位デ考ヘタイノデアリマシテ、果シテ國民ニ或ル時期ニ之ヲ發表スルカドウカト云フコトハ、總テ其時ノ情勢ニ依ッテ考フベキモノダト云フコトヲ附言シテ置キマス、進ンデ日獨協定ノ問題ニ付テ御質問ガゴザイマシタ、本協定ハ御承知ノ如ク世界革命ヲ目的トシテ居ル「コミンテルン」ト云フモノノ破壊工作ニ對シテ、共同防衛ヲ爲スヲ本旨トスルト云フコトハ、既ニ明白デアリマス、締約國ノ國家ノ體裁若クハ國政ノ運用トハ、何等ノ關係ノナイ問題デアリマシテ、申ス迄モナク帝國ハ萬邦無比ノ獨特ナル國體ヲ有スルモノデアリマスカラ、帝國ガ所謂「ファシズム」ノ「ブロック」ニ參加シテ、共和國、民主國ニ對抗スルト云フガ如キコトハ、ソレ自體全ク意味ヲ成サナイ所デアリマス、本協定ハ「ファシズム」國タルト、民主國タルト問ハズ「コミンテルン」ノ脅威ヲ感ズル一切ノ國ノ參加ヲ認メテ居ルノデアリマス、又特定國ニ對抗セントスルモノデ

ハアリマセヌ、デアルカラ之ニ依ッテ他國トノ友交關係ガ害セラレルベキ筋ノモノデハナイト心得マスル、尤モ此點ニ付キマシテハ、可ナリノ誤解ガ伴ッタノデアリマスルガ、今日ニ於テハ大分左様ナ誤解モ解ケタト見受ラレマスルシ、隨テ本協定ニ依ッテ我國ガ古イ友邦ヲ失ッタトハ考ヘテ居リマセヌ、尙ホ今後モ一層此問題ニ付キマシテ、對外啓發ニ意ヲ用ヒルト共ニ、各方面ニ於ケル帝國ノ現實ノ行動ニ依リマシテ、右誤解ノ一掃ヲ期スルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、此協定ノ目的ガ只今申上ゲタヤウナ次第デゴザリマスルカラシテ、本協定ノ爲ニ我國ガ直接歐洲ノ政局ニ捲込マレルト云フ虞ハ、私共ハ一ツモ持ッテ居ナイノデアリマス、更ニ進ミマシテ日支間ノ問題ニ付テ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、是ハ鶴見君ノ御質問ニ答ヘルノデアリマシテ、更ニ後段デハ若田君ノ御質問ニモ亦御答スルコトニナルト思ヒマス、滿洲問題ニ對シテ、果シテ政府ハ之ヲ日支間ノ交渉ニ於テ、又再ビ問題トスルヤウナコトガアリハスマイカ、若クハ接壤國トノ治安ニ關シテ、日本ハ可ナリ大キナ利害關係ヲ持ッテ居ルガ、ソレハドウスル積リデアルカ、更ニ進ンデハ支那ノ再建ト云フコトニ付テ、日本ハ積極的ニ援助スル考ハナイカト云フヤウナ、重要ナ點ニ付テ御質問ガアッタノデアリマス、固ヨリ滿洲國ノ儼トシテ存在シテ居ル今日ニ當リマシテ、而シテ又其滿洲國ニ關シテハ、歴史の緊密ナル關係ヲ持ッテ日本トシマシテ、日支間ニ再ビ交渉ガ始マッタトシマシテモ、私共ハ此滿洲國ノ問題ニ關シマシテ、之ヲ再ビ兩國ノ問題トシテ取扱フ意思ハ一ツモ持合セハゴザイマセヌ、接壤國ノ地方ニ關スル權益、之ヲ如何ニシテ擁護スベキヤ、是亦私共ノ緊密ニ考ヘテ居ル所デゴザイマシテ、而シテ是モ亦如何ニ支那トノ間ニ協定スベキヤト云フコトニ付テモ、勿論慎重ナル考ヲ以テ攻究シテ居ルノデアリマス、支那ノ再生ニ關スル積極的ノ援助、是亦政府ト致シマシテ、何等問題トスル必要ナシト考ヘテ居ルノデアリマシテ、ソレハ即チ積極的ニ支那ガ統一ヲシ、且ツ再生セントスル其運動ニ對シマシテハ、吾々ハ勿論滿腔ノ同情ヲ持ッテ之ヲ見、且ツ出來ルダケノ援助ヲシタイ、又シナケレバナラヌト云フ風ニ考ヘテ居リマス、最後ニ鶴見氏ノ御話ハ、亞米利加トノ關係デアッタト思フノデアリマス、種々有益ナル御意見ノ御陳述ガアリマシテ、私共モ傾聴シタノ

デアリマス、帝國トシマシテハ、中支及ビ南支ニ對シテ門戶開放主義ヲ、依然トシテ持スルコトハ當然ナコトデアリマス、又我國トシテハ支那全土ニ互ツテ、其主義ヲ尊重シテ行カウト云フ決心デアリマス、亞米利加トノ關係ハ、窮極ノ所對支政策ニ關スル問題デアルト云フ御意見モ、全然御同感デゴザイマス、若シ日本ノ對支政策ナルモノガ、極メテ公明正大ナル基礎ニ築カレテ、米國ノミナラズ、各國ニ對シテ之ヲ公開シテ何等恥ヅル所モナク、又何等遲疑スル所モナイ、サウ云フ政策デアリマシタナラバ、私ハ亞米利加ガ特ニ日支間ノ關係ニ關心ヲ持ツ必要ハナクナル筈デアリマシテ、斯クシテ初メテ日米間ノ關係ガ全然常道ニ上ツテ、何等ノソコニ蟠リガナク、極メテ明朗ナル國際關係ニ入ルコトガ出來ルト云フ風ニ考ヘテ居ルデアリマス、私ガ過日貴族院デ述ベマシタ平等論ニ關シテハ、鶴見君ハ、是ハ抽象的ノ議論デアアル、是デハ單ニ如何ナル態度ヲ以テ臨ムカト云フコトガ言ヒ現サレタダケデアツテ、實際上ノ問題ニ關シテハ何等觸レテ居ラナイ、其通りデアリマス、併ナガラ私ノ欲シマシタ所ハ、日支關係ガ可ナリ此數年來停頓シテ居リマシテ、其間ニ打開ノ緒ヲ見出スコトガ不幸ニシテ今日マデ出來ナカッタ現狀ニ於キマシテハ、何等カ交渉再開ノ爲ニ土臺ヲ拵ヘル、若クハ雰圍氣ヲ拵ヘルト云フコトガ必要デアルト云フ風ニ考ヘタノデアリマシテ、而シテ其爲ニハ私ノ申述ベタ此極メテ平凡ナル考ガ、其土臺ノ根本デナクテハナラヌト云フ風ニ私ハ信ジテ居ルデアリマス、而シテ此極メテ陳腐ナル考サヘモ、亦茲ニ改メテ申述ベナケレバナラナイト云フ程、日支關係ガ停頓シテ居ッタト云フコトハ、洵ニ悲シムベキコトダト思フデアリマス、私ハ此土臺ニ立チマシテ、而シテ虛心坦懷支那ノ責任者ト話スコトガ出來タナラバ、或ハ互ニ緒ヲ見付ケ、徐々ニ進ム外ナイト信ジテ居ルデアリマス、更ニ平等論ヲ唱ヘテ、而シテ其裏面ニ非常ニ大キナ心配ハナカラウカ、今迄サウ云フ關係デハナカッタノニ、一朝平等ノ立場ニ立ツトスレバ、其結果ハドウデアラウカト云フコトニ付テノ御心配ガアリマシタ、私ハ其懸念ハ絕對ニナイトハ申シマセヌケレドモ、若シ吾々ノ方策トシテ支那ニ臨ム、其方策ガ極メテ公正ナモノデアツテ、又吾

吾ノ有スル權益ヲ擁護スベキ最小限ノ註文デアッタナラバ、私ハ之ヲ天下ニ示シテ、支那ト交渉スルニ當リマシテ何等遲疑スル必要ハナシ、又其最小限ノ註文ヲ吾々ガ死守スルト云フコトデアリマス、斯クシテ初メテ吾々ノ態度ハ鮮明ニナリ、支那ニ乘ゼラレル虞モナクナルト思フノデアリマシテ、若シ其交渉サヘモ不調ニ終ルナラバ、吾々ハ已ムヲ得ズ其相手國ノ態度ガ變ルマデ忍耐ヲ以テ、此儘維持スル外ハナイト思フデアリマス、次昔田君ノ質問ニ移リマス、國防ト財政ト外交ト調和ノ必要ガアルト思フガ、ドウデアアルカト云フ御質問デアリマス、國防ハ之ニ關スル財政及ビ外交トガ、渾然一體ヲ成シテ、國策ノ遂行ニ當ラナケレバナラヌト云フコトハ、當然ノ御説ト思ヒマス、申スマデモナク政府ハ國際關係ヲ改善シテ、一層之ヲ明朗ナラシメル爲ニ、外交上最善ノ努力ヲ爲スデアリマス、次ニ日「ソ」關係ニ付テ種々ノ御質問ガゴザイマシタ、私ハ之ニ關シテ一括御答シタイト思フデアリマス、去ル八日私ガ貴族院デ御話シマシタ、其中ニ「ソビエト」聯邦ノ中ニ、所謂「コミンテルン」ナル特殊ノ團體ガ存シテ居ラナカッタナラバ、日「ソ」間ハ固ヨリ、「ソビエト」ト諸外國トノ關係ハ、餘程明朗ニナルダラウト申シマシタ、之ニ對シテ「ソ」聯邦——是ハ無意味ナコトヲ言ッタモノデアアル、「コミンテルン」ガ「ソビエト」聯邦内カラ去ツテシマフ如キハ、到底行ハレザル問題デハナイカ、隨テ其解消若クハ退去ヲ待ツテ居ルヤウデハ、「ソビエト」トノ國交改善、若クハ各般ノ問題解決ノ如キハ、百年河清ヲ俟ツガ如シト言フ人モアリマス、或ハ又日「ソ」間ノ諸問題ハ、右ノヤウナ強力ナ特殊團體ガ存在スルト否トニ拘ラズ、兩國間ノ問題トシテ殘存スルモノデアツテ、日本ハ其圓滿ナル解決ヲ欲求シテ居ルモノデアアル、其解決ガ日本ニ取ツテハ必要ナノデアルト云フヤウナ批判ガ唱ヘラレマシタ、私モ此批評ハ確ニ當ツテ居ルト思ツテ居リマス、併シ私ノ所論ハ是等ノ觀念ヲ全然排除シテ申述ベタノデハナイノデアリマス、此「コミンテルン」ナル特殊ナル團體ガ存在スルガ爲ニ、「ソビエト」ノ隣國モ之ニ對シテ特殊ナル考慮ヲ拂ハザルヲ得ナイノデアリマス、此「コミンテルン」ナル團體ガ世界的運動ヲ目途トシテ居リマスル以上、之ニ依ツテ危險ヲ

感ズル諸國ハ、勢ヒ國際的手段ヲ以テ防護方法ヲ講ゼザルヲ得ナイト云フコトモ、當然ナコトト思ヒマス、而シテ是等ノ國際的防衛ヲ講ズルニ於キマシテ、其處ニ種々ノ猜疑、危懼ガ生ズルト云フコトモ、現時ノ國際關係ニ於キマシテハ、已ムヲ得ナイ所デゴザイマス、日獨協定ノ如キハ、正ニ以上ノ道程ヲ辿ッテ出來タモノデアリマス、又其結果トシテ只今申述ベマシタヤウナ猜疑心、若クハ危懼ノ念ヲ齎ラシタノデゴザイマス、斯ク論ジテ參リマスレバ、「コミンテルン」ナルモノノ存在ガナカッタナラバ、防共協定ナドト云フヤウナモノヲ考ヘル必要モナカッタモノデアリマシテ、隨テ同協定ノ結果、日「ソ」ノ間ニ起キタル誤解ナドモ避ケ得タ筈デアリマス、即チ日「ソ」ノ間ノ關係ハ、モット能ク明朗デアリ得タノデアリマセウ、併シ防共協定其モノハ、洵ニ日「ソ」ノ間ノ國交ノミカラ見マスレバ、不幸ナ出來事デアッタニ相違アリマセヌ、ガスウ云フ團體ノ存在シテ居ル以上、洵ニ已ムヲ得ナカッタ所ト申ス外、ハナイノデアリマセ、儲テ日「ソ」ノ間ニハ現ニ懸案トシテ存在スル諸種ノ問題ガアリマス、サウ云フ懸案ノ解決、又ハ國交ノ調整改善ノ必要ニ至リマシテハ、我が帝國トシマシテモ全力ヲ盡サナケレバナラナイコトハ、日「ソ」兩國ガ境ヲ接シテ存在シテ居ル以上、私カラ申セバ當然過ギル程當然ノコトデアリマシテ、是ハ「コミンテルン」ナルモノノ存在ト否トニ拘リマセズ、政府トシテ當然試ミルベキ要ナル問題デアリマシテ、此點ハ儘カ菅田君モ左様ニ仰セラレタト思ヒマス、全然御同感デゴザイマス、又私モ其決心ヲ以テ是カラ事ニ當リタイト考ヘテ居リマス、而シテ之ヲ過去ノ事實ニ徴シテ見マスレバ、昭和元年北京デ締結セラレマシタ芳澤「カラハン」協定ト云フモノガゴザイマスルガ、其結果「シベリヤ」出兵「ニコライエフスク」等ノ悲惨ナル事件ガアッタ後ヲ承ケテ、尙且ツ「ソビエト」日本トノ國交ハ完全ニ恢復シマシタ、數年ニ亙ッテ敦厚ナル交際ヲ續ケルコトガ出來タノデアリマス、私ハ「ソビエト」國人ト、日本人トノ間ニハ感情上一脈ノ相通ズルモノガアルト云フ風ニ考ヘテ居リマス、今後モ兩國ノ當局者ニ於テ虛心坦懷ニ平和ヲ欲シ、誠意ヲ以テ事ニ當リマシタナラバ、十二年前ノ先例ヲ繰返スト云フコトハ決シテ不可能ノコトデハナイト云フ風ニ存ジテ居リマス、對支政策ニ關シマシテ、菅田

君ハ、何カ林總理、杉山陸相ト私トノ間ニ、其言フ所ハ必シモ一致シテ居ナカッタ、隨テ林閣ニハ確固タル對支政策ヲ認メ得ナイ虞ガアルト云フ御質問デアリマス、先日私ガ貴族院デ對支政策ヲ新ナル立場カラ見直シタイト云フコトヲ申述ベマシタ、其問題ニ付キマシテ、右ハ總理及ビ陸相ノ答辯ト一致シテナイヤウニ見受ケルト云フ御議論デゴザイマス、私ハ帝國ノ對支根本方針ニ付テ別段變更ノ要ヲ認メテ居ル者デアリマセヌ、唯從來ノヤリ口ニ付テ再檢討ヲ行ヒタイト思ッテ居ルノデアリマス、私ノ所ナト總理並ニ陸相ノ所ナトノ間ニハ、其結果トシマシテ何等不一致ノ點ガアルトハ存ジテ居リマセヌ、私ノ考デハ、前内閣ノ主義若クハ原則ト云フモノハ吾々ノ到達スベキ目的ヲ示シタモノデアツテ、其目的地ニ達スル迄ノ行キ方ハ色々アルト思ヒマス、私ハ其點ニ重キヲ置キマシテ、平等互惠ノ立場ニ立ッテ、支那ノ心配スル所モ聽キ、又吾々ノ緊密トスル權益ニ關スル主張モ十分ニ聽イテ貫ッテ、最小限ノ要求ニ對シマシテハ、吾々ハソレヨリ一步モ退クコトガ出來ナイト云フ立場ヲ執ッテ進ミタイト云フ風ニ思フノデアリマス、最後ニ外交ノ國策ノ根本方針ニ付テ政府ノ所見ヲ御質問ニナリマシタ、成程我國ハ現時ノ狀態ニ於テハ或ハ八方塞リノヤウニ見エルカモ知レマセヌ、又菅田君ノ言ハレル所デハ、現時ニ於テハ平和カ戰爭カト云フ岐路ニ立ッテ居ッテ、國民ハ迷ッテ居ルト云フ御説デゴザイマシタ、日本内地デ當時能ク唱ヘラレタ言葉デアリマス、三十五年ノ危機ト云フコトガ常ニ人ノ口ニ上ッタノデアリマス、三十五年ヲ經テ、而シテ現今カラ之ヲ顧ミテ見マスルト、果シテドウデアッタカ、危機ト云フ言葉ハ何ヲ言現ハスカ、若シ其危機ナル言葉ガ戰爭ヲ意味シテ居ッタト云フコトデアレバ、私ハ當時、三十五年ニ至ッテモ戰爭ハナイ、隨テ其意味ノ危機ナラバ有リ得ナイト云フ風ニ考ヘ、又當時日本ヘ歸ッテ居リマシテ、各方面デ其御話ヲ致シマシタ、若シ又其危機ナル言葉ガ國際關係ノ逼迫デアルト云フ意味ニ解スベキモノナラバ、ソレハ三十五年ヲ待タズ、滿洲事件以來常ニ日本ハ危機ニ瀕シテ居ルノデアアル、併シソレハ日本バカシノ特殊ノ問題デハナイ、歐羅巴ニ於テハ毎日危機デアリマス、國ト國トノ境ヲ接シ、飛行機ノ如キハ一二時間ヲ爭フト云フ、サウ云フ地理的状況ニ於テ、國際間ノ關係ニ

融和ヲ缺キ、互ニ軍備ヲ整ヘテ居ルト云フ今日ニ於テハ、其危機ハ毎日毎時刻ニ存在シテ居ルノデアリマシテ、何モ日本ニ限ラズソレヲ氣ニ病ンデ、焦躁ナ氣分ニナルト云フ必要ハ一ツモナイト云フコトヲ私ハ申上ゲマシタ、其後三十五年ヲ經テ、今現在三十七年ニナツテ之ヲ考ヘテ見マスルノニ、私ハ國際間ノ危機ト云フモノヲサウ云フ意味ニ解スルナラバ、而シテ又戰爭ト云フモノガ眼ノ前ニブラ下ツテ居ルト云フヤウナ意味ニ解スルナラバ、私ノ申シマシタコトガ理窟ガアツタト云フ風ニ感ズルノデアリマス、私ハ日本國ノヤウナ國柄ハ、出來ルダケ國民ヲ落著ケテ、此焦躁氣分ヲナクスト云フコトガ最モ必要ナコトト思ヒマス、勿論其爲ニハ國策ト云フモノヲ立テマシテ、之ヲ明ニシ、國民ノ歸趨ヲ示ス、國民ノ赴ク所ヲ示スト云フコトガ必要デアリノモ全ク御名論ダト思ヒマス、私ハ國民ニ斯ウ云フコトヲ諒解シテ貫ヒタイト思フノデアリマス、本當ノ意味ノ危機、詰リ戰爭ノ勃發ト云フ意味ノ危機、日本ガ之ニ直面スルノモ、シナイノモ、私ハ日本自體ノ考ヘ如何ニ依ツテ決ルノデアルト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、若シ自分ガ其意味ノ危機ヲ欲スルナラバ、危機ハ何時デモ參リマス、之ニ反シテ、日本ハ危機ヲ欲シナイ、サウ云フ危機ハ全然避ケテ行キタイト云フ氣持デアルナラバ、私ハ日本ノ考ヘ一ツデ其危機ハ何時デモ避ケ得ルト確信致シマス、諸君、私ハ辯舌ニ甚ダ拙デゴザイマシテ、明ニ自分ノ意向ヲ表明スルコトガ出來ヌカモ知レマセヌケレドモ、私ハ今日ノ日本、ソレハ七十年ノ歴史、努力ヲ以テ、此處マデ築上ゲタ此日本ヲ何ノ必要ガアツテ、堂々タル態度ヲ執ツテ、堂々タル道ヲ歩キ得ナイノカ、ソレヲ私ハ不審ニ感ズルノデアリマス、今日マデ進ミマシタ日本ハ、私ノ考デハ極メテ公明ナル方策ヲ立テマシテ、坦々タル道ヲ大手ヲ振ツテ歩ケバ、頭ノ中カラ全ク去ツテシマツテ、而シテ國際間ニ處シマシテ、坦々タル道ヲ大手ヲ振ツテ歩ケバ、私ハ宜イト思フノデアリマス、斯クスレバ國民モ其外交政策ナルモノニ對シテ、十分ナル了解ヲ持チ得マセウシ、又國際間ニ處シマシテモ、誰シモ吾々ノ國策、外交政策ト云フモノニ對シ、危懼ノ念ヲ懷クベキ筈ハナイノデアリマシテ、此大キナル國策ヲ背ニ脊負ヒマシテ、輿論ノ力ヲ以テ、而シテ自分達ノ前ニ開拓シマシタル明カナル大道ヲ、自分達ノ目的ニ向ツテ濶歩シテ行キ

タイト思フノデアリマス、是ハ極メテ陳腐ナコトヲ申上ゲマスノデ、何モ新奇ヲ街タ譯デモ何デモナイノデアリマス、私ハ外交ナルモノニ新奇ヲ街フコトハ、大キナ間違ダト思ヒマス、極メテ普通ノ考カラ、極メテ單純ナル道ヲ、自分ノ持ツテ居ル常識ニ依ツテ判斷シテ、其道ヲ唯進ンデ行ケバ宜イト云フヤウニ考ヘルノデアリマシテ、斯クシテコソ初メテ國民モ一緒ニナルコトガ出來マセウシ、所謂吾々ノ欲スル舉國一致ノ外交政策ト云フモノガ、立チ得ルノデアルト思ヒマス、私ハ議會ハ勿論ノコト、政府、軍部、實業方面、新聞、其他皆此極メテ了解シ易イ國策ニ向ツテ、一致ノ態度ヲ執ツテ、而シテ此纏ツタ力ニ依ツテ、纏ツタ國論ニ導カレテ、而シテ吾々ニ與ヘラレタル此眞直グナ道ヲ、進ンデ行キタイノデアリマス、是ガ私ノ執ラントスル方策デゴザイマス

鶴見君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今ノ外務大臣ノ最後ノ部分ニ關シマシテハ、吾々ハ十分ノ満足ノ意ヲ表シマス、唯一點私ノ質問致シマシタル點ニ付テ、全然反對ノ御了解ヲ得タヤウデアリマスカラ、之ヲ申上ゲテ置キマス、即チ私ハ歐羅巴ニ斯ノ如キ戰雲ガ籠イテ居ルノハ、極端ナル鎖國的ナル國民的經濟政策ヲ執ツタ結果デアツテ、ソレヲ是正スル方面ニ日本ハ行カナケレバナラナイ、經濟的「ブロック」ノヤウナ考デハイケナイト申シタノデアリマス

第四章 全院委員長、常任委員及特別委員ノ選舉

昭和十一年十二月二十七日全院委員長ノ選舉ヲ行ヒ熊谷直太君ハ三百四十六票ノ得點(投票總數)

第四章 全院委員長、常任委員及特別委員ノ選舉

九此過半ヲ以テ當選セリ
數百九十

常任委員(豫算、決算、請願、懲罰及建議ノ(第二章第四節第七項參看)ノ選舉ハ全院委員長選舉ノ後
本會議休憩中各部ニ於テ之ヲ行ヒ再開後其ノ結果ヲ報告シ散會後各委員長及理事ノ互選ヲ行ヘリ
而シテ豫算委員會ハ昭和十二年二月二十四日六分科ヲ決算委員會ハ三月六日四分科ヲ請願委員會
ハ二月十八日四分科ヲ建議委員會ハ二月二十日二分科ヲ設定シテ各委員ノ所屬ヲ定メタリ其ノ員
數左ノ如シ但シ委員長ハ分科ニ屬セス

豫算委員

- 第一分科 (外務省、司法省及拓務省所管) (所屬員 十八名)
- 第二分科 (內務省及文部省所管) (所屬員 二十四名)
- 第三分科 (大藏省所管) (所屬員 二十二名)
- 第四分科 (陸軍省及海軍省所管) (所屬員 二十九名)
- 第五分科 (農林省及商工省所管) (所屬員 三十四名)
- 第六分科 (遞信省及鐵道省所管) (所屬員 十九名)
- 決算委員 (所屬員 六十一名)
- 第一分科 (大藏省所管) (所屬員 六十一名)

- 第二分科 (外務省、內務省、司法省及文部省所管) (所屬員 五十一名)
- 第三分科 (陸軍省、海軍省、農林省及商工省所管) (所屬員 九十一名)
- 第四分科 (遞信省、鐵道省及拓務省所管) (所屬員 八十一名)
- 請願委員

- 第一分科 (內閣、大藏省所管及他ノ分科ニ屬セサル事項) (所屬員 三十五名)
- 第二分科 (外務省、內務省、農林省及商工省所管) (所屬員 三十六名)
- 第三分科 (陸軍省、海軍省、遞信省及拓務省所管) (所屬員 三十四名)
- 第四分科 (司法省、文部省及鐵道省所管) (所屬員 三十六名)
- 建議委員

- 第一分科 (內閣、陸軍省、海軍省、司法省、遞信省、鐵道省及拓務省所管) (所屬員 二十二名)
- 第二分科 (內務省、外務省、大藏省、農林省、商工省及文部省所管) (所屬員 二十四名)
- 特別委員ノ設定三十一ニシテ執レモ院議ニ依リ議長指名ヲ以テ之ヲ選定セリ而シテ其ノ員數三十六名ノモノニ、二十七名ノモノ六、十八名ノモノ十七、九名ノモノ六トス
- 委員中辭任シタルモノ常任委員ニ在リテハ六十九名、特別委員ニ在リテハ百九十二名ニシテ其ノ

第四章 全院委員長、常任委員及特別委員ノ選舉

補闕ハ常任委員ニ於テハ其ノ選出部ニ於テ之ヲ選舉シ特別委員ニ於テハ議長指名ニ依リ之ヲ選定セリ全院委員會ハ之ヲ開キタルコトナク常任委員ノ開會數ハ豫算委員會四十四回、決算委員會二十四回、請願委員會十五回、懲罰委員會三回、建議委員會十二回(孰レモ分科會ヲ含ム)ニシテ特別委員會ノ開會數二百三十六回、此ノ外部會ヲ開キタルコト七十七回ニ及ヘリ

附

錄

衆議院議事摘要 附錄

第一議員

本期議會ニ於ケル議員ノ氏名、議席、部屬、選舉區及所屬黨派ヲ表記スレハ左ノ如シ

議員氏名 (いろは順)

[解散當日現在(關員二名)]

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二二三	六	京都	二民	池本甚四郎君	六六	一千葉	三政	岩瀬	亮君
一六	一	大阪	第三池崎	池崎忠孝君	二七四	八千葉	三民	池田清	秋君
一七二	七	大阪	五政	岩崎幸治郎君	四六六	三茨城	三昭	石井三郎君	
四四八	三	大阪	六昭	井阪豐光君	四四九	六茨城	三昭	飯村五郎君	
二〇五	四	神奈川	一民	飯田助夫君	二〇	六山梨	第二今井	今井新造君	
六二	四	埼玉	二政	石坂養平君	二〇四	三岐阜	二民	伊藤東一郎君	
一一〇	二	埼玉	三政	出井兵吉君	一一八	三秋田	一政	石川定辰君	
四〇九	二	群馬	一民	飯塚春太郎君	九〇	八福井	政	猪野毛利榮君	
一五八	七	千葉	二政	今井健彦君	一〇二	八富山	一政	石坂豐一君	
					二四〇	七岡山	二政	犬養健君	

附錄 第一議員

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二四八	七	德島一	政	生田和平君
一四九	二	福岡二	政	石井德久次君
三二六	五	大分一	民	一宮房治郎君
三五二	一	佐賀一	民	池田秀雄君
三三三	二	熊本一	國	石坂繁君
四二二	三	熊本二	國	伊豆富人君
一四二	二	宮崎	政	伊東岩男君
八六	三	鹿兒島一	政	井上知治君
四二六	七	鹿兒島一	昭	今給黎誠吾君
一二九	七	鹿兒島二	政	岩元榮次郎君
四一	九	沖繩	國	伊禮肇君
三四六	九	北海道一	民	一柳仲次郎君
六五	九	北海道四	政	板谷順助君
二九五	八	東京一	民	原玉重君
三五七	四	東京一	民	橋本祐幸君
一六〇	四	東京二	政	鳩山一郎君
三一七	二	兵庫一	民	濱野徹太郎君
二三四	四	兵庫二	民	原淳一郎君
一	一	長崎一	東	馬場元治君
二八三	三	奈良	民	服部教一君
五一	九	三重一	政	服部米次郎君
一六八	九	三重二	政	濱田國松君
三〇三	九	愛知一	民	服部崎市君
二二二	一	愛知二	民	服部英明君
四四三	一	靜岡二	昭	春名成章君
一四八	六	滋賀	政	服部岩吉君
一九〇	九	福島二	政	八田宗吉君
三九〇	一	福島二	民	林平馬君
一一二	五	石川一	政	箸本太吉君
四〇四	九	島根一	民	原夫次郎君
八二	二	高知二	政	林讓治君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二二五	四	福岡一	政	原口初太郎君
一八八	二	沖繩	政	花城永渡君
四五八	四	北海道二	昭	林路一君
二六〇	一	北海道二	民	坂東幸太郎君
二二七	四	京都一	民	西村金三郎君
一六四	四	長崎一	政	西岡竹次郎君
一五七	九	山形一	政	西方利馬君
三三三	八	岡山二	民	西村丹治郎君
一一一	九	山口一	政	西川貞一君
一八七	六	山口二	政	西村茂生君
二五八	三	和歌山一	民	西田郁平君
二七九	八	長崎一	民	本田英作君
三九七	四	山梨	民	堀内良平君
九六	六	福島一	政	堀切善兵衛君
九八	七	岡山二	政	星島二郎君
三七六	二	愛媛三	民	本多眞喜雄君
二五五	九	神奈川一	民	戸井嘉作君
三六五	六	長崎二	民	富田等平君
三八〇	八	茨城一	民	豐田豐吉君
四三六	四	鳥取	昭	豐田收君
四一一	二	香川一	民	戸澤民十郎君
三七	議長	高知一	無	富田幸次郎君
一七四	四	鹿兒島二	政	東郷實君
一四三	五	北海道三	政	登坂良作君
一四六	九	北海道五	政	東條貞君
四二五	六	宮崎	昭	陣軍吉君
三八八	三	東京四	民	太田信治郎君
四二九	四	神奈川一	社大	岡崎憲君
四一五	六	神奈川三	民	岡崎久次郎君

二八	一九五	二八一	二二六	二二四	四四〇	一〇〇	四五九	二六九	四二八	三八七	二三八	二八〇	一〇	三七二
二	七	三	六	一	三	四	八	六	九	二	二	一	一	一
茨城	千葉	新潟	兵庫	兵庫	兵庫	神奈川	神奈川	大阪	大阪	京都	京都	東京	東京	愛知
三	一	四	三	二	一	二	二	五	四	二	一	五	五	三
無	川島	川合	柏木	藤山	河上	川口	片山	勝田	川村	川崎	川橋	鍋木	加藤	渡邊
風見	正次郎	直次君	清治君	貞吉君	丈太郎君	義久君	山哲君	永吉君	保太郎君	末五郎君	豐治郎君	忠正君	勘十君	玉三郎君
章君	次郎君	次君	治君	吉君	郎君	久君	哲君	吉君	郎君	郎君	郎君	正君	十君	郎君
一五三	五四	二六五	四五四	一六二	二九一	四三三	四二七	二四一	五三	二六	一三四	三三九	一八六	一七三
三	七	四	四	三	七	四	五	一	七	四	三	一	九	五
大分	福岡	福岡	福岡	愛媛	岡山	秋田	青森	福島	岐阜	山梨	静岡	愛知	愛知	三重
一	四	五	二	二	一	二	二	一	二	二	二	三	一	一
政	政	民	社大	政	民	社大	昭	政	政	第二	政	民	政	政
金	片山	勝	龜井	河上	片山	川	兼田	菅野	加藤	笠井	勝又	加藤	加藤	加藤
光	山秀	正	井貫	上哲	山一	侯清	田秀	善右衛門	藤賢	井重	又春	藤鋼	藤五郎	久米四郎
庸	太郎	憲	一	哲	一	清	秀	右衛門	賢	重	春	鋼	五郎	米四郎
夫	郎	君	郎	太	男	君	君	門	司	治	一	一	郎	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

三八	七〇	三八六	二〇三	一四七	二九七	七六	九二	二四三	一〇五	四〇七	二二	二七六	七七	四三
副議長	三	五	四	一	三	六	五	六	一	三	五	二	九	九
岡山	秋田	山形	青森	宮城	宮城	岐阜	静岡	静岡	愛知	愛知	三重	栃木	千葉	新潟
一	二	二	一	二	二	一	三	一	五	四	二	一	三	三
無	小島	奥山	小笠原	大石	小山	大野	太田	小久江	大口	岡本	尾崎	大門	小高	大竹
岡田	田義	山龜	原八十	石倫	山倉	野伴	田正	江美代	口喜	本實	崎行	門恒	長三	竹貫
彦君	孝君	藏君	美君	治君	之助君	陸君	孝君	吉君	六君	太郎君	雄君	作君	三郎君	貫一君
一〇六	二五四	二二八	二八五	二三五	一八四	三三四	一二六	一二三	一五	三七四	六	二六一	二一九	三三八
五	三	五	三	一	九	七	一	六	六	八	四	三	九	八
兵庫	東京	北海道	北海道	北海道	北海道	熊本	大分	福岡	福岡	高知	高知	愛媛	愛媛	岡山
五	一	五	四	三	一	一	一	三	三	二	一	二	一	二
政	民	政	民	民	政	民	政	政	第二	民	東方	民	政	民
若	渡邊	尾崎	岡田	大島	岡田	大野	小野	沖	岡	尾崎	大石	小野	大本	小川
宮	邊	崎	田	島	田	野	野	沖	幸三	崎	石	野	本	川
貞	鏡	天	春	寅	伊太	唯	康	藏	三郎	重	大	寅	貞	郷
夫	藏	風	夫	吉	郎	男	君	君	郎	美	君	吉	太	太
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	郎	郎

一一〇	一七	八九	一九二	三三五	三五四	一四〇	二四	二九二	二五九	三三二	三四七	三七九	七五	二二〇	六三
一	七	三	六	五	五	九	五	七	二	四	二	三	六	八	四
長野	長野	岩手	山形	島根	廣島	和歌山	和歌山	德島	德島	愛媛	福岡	福岡	福岡	佐賀	宮崎
一政	四第二	一政	一政	二民	二民	一政	二第二	一民	二民	一民	二民	二民	二政	一政	政
田中彌助	田中耕	田子一	高橋熊次	俵孫一	田中貢	玉置吉之丞	田淵豐吉	田村秀吉	高島兵吉	武知勇記	田島勝太郎	高野喜六	田尻生五	田中亮一	田尻藤四郎
三三〇	一五一	三九六	四四五	三三三	六七	四〇八	三一九	二〇九	一四四	三六六	一九八	三五〇	二〇六	二八七	
七	七	六	三	五	八	一	四	九	二	一	五	六	五	一	
福井	東京	京都	大阪	千葉	栃木	滋賀	岩手	秋田	富山	廣島	福岡	東京	東京	東京	
民	七政	三民	三社大	三民	一政	民	二民	二民	二政	三民	三政	二民	二民	六民	
添田敬一	津雲國利	津原武君	塚本重藏	土屋清三郎	坪山德彌	堤康次郎	鶴見祐輔	土田莊助	土倉宗明	土屋寛君	鶴惣市	中島彌團次	長野高一	中村梅吉	

一六五	四二二	四五二	五八	四七	二二	四七一	一〇八	三三七	二二	二五七	二三一	七四	一三〇	三一二	四三七	議席
五	五	二	七	七	二	七	二	一	七	八	六	三	三	七	六	部屬
神奈川	大阪	大阪	京都	東京	東京	東京	東京	東京	東京	廣島	大阪	埼玉	千葉	沖繩	鹿兒島	選舉區
三政	五民	一社大	二政	六政	三第二	三民	一政	三民	三第二	三民	四民	二政	二政	民	昭	黨派
胎中楠右衛門	田中萬逸	田中清臣	田中好君	田中源君	田川大吉	頼母木桂吉	立川太郎	横山金太郎	吉植庄亮	横川重次	吉川吉郎	横川重次	横山金太郎	漢那憲和	金井正夫	氏名
三六〇	八	一九一	二二一	三六	九九	四〇六	三三〇	二〇〇	三九九	五七	一〇一	三四	一六六	二六三	一三七	議席
八	五	一	四	二	三	五	四	七	七	四	二	八	三	七	七	部屬
長野	滋賀	山梨	静岡	愛知	愛知	栃木	栃木	埼玉	埼玉	新潟	新潟	新潟	兵庫	兵庫	兵庫	選舉區
一民	東方	政	二民	三無	二政	二民	一民	二民	二政	四政	二國	一政	四民	二政	二政	黨派
田中邦治	田中養達	田邊七六	高木桑太郎	高木桑太郎	丹下茂十郎	高松長三	高田平	高橋守平	高橋泰雄	武田德三郎	高岡大輔	田邊熊一	田中武雄	立川平	川平	氏名

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二一七	九	京都一	民	中村三之丞君
三七八	二	大阪三	民	內藤正剛君
三〇〇	四	大阪四	民	中山福藏君
二一八	二	兵庫一	政	中井一夫君
二三五	五	兵庫一	民	中 亥歲男君
二二二	一	長崎一	民	中村不二男君
三〇二	八	新潟三	民	內藤久一郎君
八八	四	群馬一	政	中島知久平君
三七七	六	茨城一	民	中崎俊秀君
三〇四	二	茨城二	民	中井川浩君
二七八	三	三重二	民	長井源君
二七一	九	靜岡三	民	永田善三郎君
一八	九	長野三	民	中原謹司君
二九〇	八	福島二	民	仲西三良君
一一〇	一	秋田一	民	中川重春君
三三六	一	石川一	民	永井柳太郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一七六	一	廣島一	政	名川侃市君
四三五	六	廣島三	昭	永山忠則君
七一	九	山口二	政	中野治介君
三五三	九	香川二	民	長尾秀太郎君
二一五	六	高知一	民	長野長廣君
九	六	福岡一	東方	中野正剛君
二五〇	三	佐賀一	民	中野邦一君
二九八	三	佐賀二	民	中村又一君
一九四	九	熊本二	政	中野猛雄君
一〇七	一	鹿兒島一	政	中村嘉壽君
一一七	五	鹿兒島三	政	永田良吉君
三五八	二	沖繩	民	仲井間宗一君
一三一	二	北海道四	政	南條徳男君
三〇一	九	北海道五	民	南雲正朔君
三九五	九	京都三	民	村上國吉君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四〇一	六	大阪二	民	紫安新九郎君
二二六	八	宮城二	民	村松久義君
三六七	七	山口一	民	村岡吾一君
四一六	三	愛媛二	民	村上紋四郎君
一五五	六	大阪三	政	上田孝吉君
三七三	六	兵庫五	民	植村嘉三郎君
三六四	五	群馬一	民	生方大吉君
三四一	七	千葉二	民	鶴澤宇八君
四五六	二	茨城一	昭	內田信也君
九五	五	長野四	政	植原悦二郎君
三一六	三	宮城一	民	内ヶ崎作三郎君
四一七	六	福島三	民	内ヶ崎清君
五〇	六	熊本二	政	上塚司君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二〇二	九	長崎一	政	倉成庄八郎君
一〇九	六	靜岡三	政	倉元要一君
三〇七	四	青森一	民	工藤鐵男君
八七	五	青森二	政	工藤十三雄君
一七八	七	山形二	政	熊谷直太君
四六四	八	福井	昭	熊谷五右衛門君
一四五	九	岡山一	政	熊谷山知之君
四二三	二	岡山一	社大	黒田壽男君
一八〇	五	山口一	政	久原房之助君
四四一	六	山口二	昭	窪井義道君
一一二	一	山口二	政	國光五郎君
四五	七	熊本二	國	藤原敏捷君
四六三	一	鹿兒島一	昭	藤園三四郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏	名
三二一	七	東京	七	民	八並武治君
四三一	七	東京	七	昭	山口久吉君
一五〇	二	大阪	二	政	山本芳治君
一九三	五	新潟	三	政	山田又司君
九一	七	茨城	二	政	山崎猛君
二九四	八	茨城	三	民	山本桑吉君
三三九	一	奈良	民	八	木逸郎君
一三六	六	愛知	二	政	山田佐一君
二二三	九	靜岡	一	政	山口忠五郎君
四三八	九	靜岡	二	社大	山崎鋼二君
三六九	六	長野	二	民	山邊常重君
八一	四	岩手	一	政	八角三郎君
二五六	八	鳥取	民	山	橋儀重君
二六四	九	廣島	二	民	山道襄一君
二四四	七	香川	二	民	矢野庄太郎君
一〇三	九	栃木	二	政	松村光三君
二九九	四	埼玉	一	民	松永東君
三四八	八	新潟	四	民	増田義一君
二二二	三	新潟	二	政	松本弘君
四二〇	二	新潟	一	民	松井郡治君
二四七	五	長崎	二	民	牧山耕藏君
二七三	二	兵庫	二	民	前田房之助君
三九四	六	大阪	六	民	松田竹千代君
三四二	六	大阪	一	民	枅谷寅吉君
一七九	一	東京	六	政	前田米藏君
一六九	七	東京	五	政	牧野臧男君
三〇五	一	東京	四	民	眞鍋儀十君
二七二	六	北海道	一	民	山本厚三君
二七	七	福岡	三	無	山崎達之輔君
一一五	八	愛媛	三	政	山村豐次郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏	名
二五二	五	奈良	民	松	尾四郎君
三一八	八	三重	一	民	松田正一君
一七七	九	岐阜	三	政	牧野良三君
二六七	八	長野	一	民	松本忠雄君
四九	八	岩手	二	政	松川昌藏君
一九六	三	山形	二	政	松岡俊三君
三三四	五	秋田	一	民	町田忠治君
一五四	三	石川	二	政	益谷秀次君
三三二	七	富山	二	民	松村謙三君
二八八	八	島根	二	民	升田憲元君
四六	二	和歌山	一	政	松山常次郎君
二四六	九	徳島	二	民	眞鍋勝君
三八一	四	愛媛	一	民	松田喜三郎君
四二四	五	福岡	一	社大	松本治一郎君
三〇	三	福岡	一	社大	前田幸作君
一六一	八	熊本	一	政	松野鶴平君
二九	三	鹿児島	一	第二	松方幸次郎君
三九三	四	京都	一	民	福田關次郎君
一二四	六	兵庫	四	政	古河和一郎君
一七五	六	栃木	一	政	船田中君
八三	二	奈良	政	福井甚三君	
三四四	五	靜岡	一	政	深澤豐太郎君
三五四	七	青森	一	政	藤井達二君
二一	二	福井	第二	福	田耕君
三五六	六	廣島	一	民	古田喜三太君
六九	八	佐賀	二	政	藤生安太郎君
四四六	五	東京	一	社大	河野密君
三六八	一	東京	二	民	駒井重次君
三六二	七	東京	三	民	小坂梅吉君
二四二	四	大阪	六	民	古藤増治郎君
三一五	一	神奈川	二	民	小泉又次郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
七八	四	神奈川三	政	河野一郎君
二一四	九	兵庫三	政	小林絹治君
二九三	六	兵庫四	民	小畑虎之助君
三六三	二	新潟二	民	小柳牧衛君
三二八	七	群馬二	民	木村三郎君
二二三	五	群馬二	政	木暮武太夫君
四〇〇	一	愛知一	民	小山松壽君
一六七	六	愛知四	政	小林錦君
三八五	八	長野二	民	小山邦太郎君
一九	六	長野二	第二	小山亮君
六一	一	岡山二	政	小谷節夫君
一一九	七	山口一	政	高良宗七君
四五七	九	山口二	昭	兒玉右二君
三〇八	一	和歌山二	民	小山谷藏君
一四一	二	德島一	政	紅露昭君
四〇二	四	香川一	民	小西和君
三九	五	靜岡三	民	坂下仙一郎君
三四〇	五	廣島一	民	荒川五郎君
三五	九	德島二	無	秋田清君
三五五	八	大分一	民	朝倉每人君
七二	五	大分二	政	綾部健太郎君
二八四	八	佐賀二	民	愛野時一郎君
四〇	七	熊本一	國	安達謙藏君
一九九	六	鹿児島二	政	天辰正守君
一七一	三	北海道二	政	東武君
三八九	二	北海道二	民	淺川浩君
四一〇	八	滋賀	民	青木亮貫君
三四〇	五	廣島一	民	荒川五郎君
三五	九	德島二	無	秋田清君
三五五	八	大分一	民	朝倉每人君
七二	五	大分二	政	綾部健太郎君
二八四	八	佐賀二	民	愛野時一郎君
四〇	七	熊本一	國	安達謙藏君
一九九	六	鹿児島二	政	天辰正守君
一七一	三	北海道二	政	東武君
三八九	二	北海道二	民	淺川浩君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三三〇	一	鹿兒島三	民	小林三郎君
一三	六	奈良	第二	江藤源九郎君
二七〇	一	富山一	民	寺島權藏君
一一一	一	鹿兒島二	政	寺田正君
四〇三	七	北海道四	民	手代木隆吉君
四六一	七	東京二	社大	安部磯雄君
一五二	八	東京三	政	安藤正純君
四四四	三	東京四	社大	淺沼稻次郎君
四五三	二	東京五	社大	麻生久君
一二七	四	京都三	政	芦田均君
九三	二	兵庫三	政	青木雷三郎君
四三〇	五	埼玉二	昭	綾川武治君
四四七	八	群馬一	昭	青木精一君
三五九	五	靜岡三	民	坂下仙一郎君
六八	七	宮城一	政	佐々木家壽治君
四四	三	山形一	國	佐藤啓君
二一〇	八	福井	民	齋藤直橋君
二六六	三	石川二	民	櫻井兵五郎君
三三五	四	島根一	民	櫻内幸雄君
三四三	二	廣島三	民	作田高太郎君
四三九	九	高知二	社大	佐竹晴記君
三八三	三	宮崎	民	佐澤定二君
三〇九	五	北海道一	民	澤田利吉君
四二一	八	大阪二	民	木村吉太郎君
三九	一	兵庫四	國	清瀬一郎君
一四	八	新潟一	第二	北吟吉君
二七七	八	栃木二	民	木村淺七君
三七五	一	岐阜一	民	清寛君
五九	四	岐阜二	政	木村作次郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二五一	七	長野	三民	木下 信君
三九八	四	長野	三民	北原阿智之助君
四八	八	岩手	一政	菊池長右衛門君
二六二	四	青森	二民	菊池良一君
三	四	山形	一東方	木村武雄君
三七二	九	石川	二民	喜多壯一郎君
四一四	七	島根	一民	木村小左衛門君
四五〇	四	廣島	一昭	岸田正記君
一五六	三	大分	二政	清瀬規矩雄君
七三	六	熊本	一政	木村正義君
一一	九	北海道	四第二	北勝太郎君
一六	五	北海道	五政	木下成太郎君
七	九	鳥取	東方	由谷義治君
一三九	一	岡山	一政	行吉角治君
二五	八	宮崎	東方	三浦虎雄君
六〇	四	熊本	二政	三善信房君
一八二	六	香川	二政	三土忠造君
一七〇	二	香川	一政	宮脇長吉君
二四九	二	和歌山	二政	三尾邦三君
八四	九	廣島	三政	宮澤裕君
三一四	五	鳥取	民	三好榮次郎君
四三二	三	岩手	二昭	三鬼鑑太郎君
三六一	三	福島	二民	湊季松君
二二二	三	宮城	一政	宮澤清作君
二五三	三	長野	三民	宮澤胤勇君
一三三	一	静岡	一政	宮本雄一郎君
一八五	九	茨城	一政	宮古啓三郎君
一三八	四	埼玉	一政	宮崎一君
四三四	一	新潟	三社大	三宅正一君
四五二	四	京都	一社大	水谷長三郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三九二	四	東京	五民	斯波貞吉君
三〇六	八	群馬	一民	清水留三郎君
一一三	二	群馬	二政	篠原義政君
二二六	二	千葉	一民	篠原陸朗君
一一	六	愛知	一第二	椎尾辨匡君
一一三	八	岩手	二政	志賀和多利君
二九六	四	山形	二民	清水徳太郎君
三八四	八	秋田	一民	信太儀右衛門君
二〇八	一	石川	一政	神保重吉君
六四	二	富山	二政	島田七郎右衛門君
一八三	九	島根	二政	島田俊雄君
四一八	五	大分	二民	重松重治君
三三七	二	大阪	一民	一松定吉君
二六八	二	神奈川	三民	平川松太郎君
四一三	九	静岡	一民	平野光雄君
二五	五	山梨	第二	平野力三君
一五九	八	岐阜	一政	四田銳吉君
二八二	五	岐阜	三民	日比野民平君
二二八	五	福島	三民	比佐昌平君
一一三	四	廣島	二政	肥田琢司君
二八六	二	東京	四民	森兼道君
一六三	五	大阪	四政	森田政義君
四四二	四	長崎	二昭	森上政三君
三七〇	二	群馬	二民	最上政三君
一一四	七	埼玉	三政	門田新松君
三一	四	栃木	二民	森下國雄君
五二	二	滋賀	政	森幸太郎君
二四五	九	長野	四民	百瀬渡君
四六五	八	宮城	一昭	守屋榮夫君
四一九	五	福島	一民	栗山博君
四五五	六	廣島	二昭	望月圭介君

議席部屬	選舉區	黨派	氏名	議席部屬	選舉區	黨派	氏名
二〇七	四沖繩	政盛	島明長君	三三	七愛知	五國	鈴木正吾君
八五	一愛知	一政	瀨川嘉助君	四	八愛知	五東方	杉浦武雄君
(す)				一八一	七宮城	一政	菅原傳君
四六〇	五東京	五社大	鈴木文治君	九四	八福島	二政	助川啓四郎君
四六二	六大阪	五社大	杉山元治郎君	五五	七福島	三政	鈴木辰三郎君
二七五	一埼玉	一民	鈴木康太郎君	一〇四	八愛媛	三政	砂田重政君
三九一	三三重	二民	角源泉君	三四五	三福岡	四民	末松借一郎君
				一二五	八福岡	四政	末次虎太郎君

(備考) 黨派欄中民ハ立憲民政黨、政ハ立憲政友會、昭ハ昭和會、社大ハ社會大衆黨、第二ハ第二控室、國ハ國民同盟、東方ハ東方會、無ハ無所屬ノ略ナリ議員異動表亦同シ

前期議會會期終了ノ翌日ヨリ本期議會解散當日ニ至ル間ニ於ケル議員ノ異動十七名アリ其ノ氏名異動事由ヲ示セハ左表ノ如シ

議員異動表 (自第六十九回議會會期終了翌日 至第七十回議會解散當日)

選舉區	前議員	黨派	異動事由	當選者	黨派	當選年月日
香川縣	山下谷次君	政	昭和一年六月五日逝去	長尾秀太郎君	民	昭和一年六月六日
福岡縣	藤勝榮君	政	逝去	原口初太郎君	政	一一、八、三

第一區	山田道兄君	民	逝去	一、七、二七	匹田銳吉君	政	一一、九、一一
奈良縣	岩本武助君	政	逝去	一、九、六	福井甚三君	政	一一、九、二五
長野縣	春日俊文君	政	選法第六條ノ六六	一、九、一九	山邊常重君	民	一一、一〇、二二
新潟縣	山本第二郎君	政	辭職	一、一〇、一四	田邊熊一君	政	一一、一〇、二二
東京府	伊藤武七郎君	民	逝去	一一、一〇、二六	鍋木忠正君	民	一一、一一、一四
第五區	中田儀直君	政	當選	一一、一一、五	石川定辰君	政	一一、一一、二二
第一區	山森利一君	民	當選	一一、一一、一〇	門田新松君	政	一一、一一、一五
鹿兒島縣	富吉榮二君	第一	選法違反	一一、一一、二二	天辰正守君	政	一一、一一、一九
長野縣	畔田明君	第二	逝去	一一、一一、一九	田中耕君	第二	一一、一一、二六
群馬縣	畑桃作君	政	當選	一一、一一、二八	木暮武太夫君	政	一一、一一、二九
北海縣	三井德寶君	政	辭職	一一、一一、二六	木下成太郎君	政	一一、一一、二四
高知縣	田村實君	政	當選	一一、一一、二六	長野長廣君	民	一一、一一、二二
北海縣	深澤吉平君	民	當選	一一、一一、一八	板谷順助君	政	一一、一一、二七
千葉縣	本多貞次郎君	政	逝去	一一、一一、二六			
愛知縣	武富濟君	民	逝去	一一、一一、二二			

附錄 第一 議員

(備考) 從來參考ノ爲總選舉後ヨリ前期議會會期終了日迄ニ於ケル議員ノ異動ヲ表示シタルモ第十九回(臨時)總選舉後第六十九回議會會期終了當日迄ニ議員ノ異動ナシ

本期議會召集當日召集ニ應シタル者四百二十一名(内十名ハ繰上)ニシテ其ノ後召集ニ應シタル者四十八名(内五名ハ繰上)、召集ニ應セザリシ者一名トス
 召集ニ應シタル年月日及人員ヲ表示スレハ左ノ如シ

議員應召表

應召年月日	人	員	應召年月日	人	員
昭和十一年十二月二十四日 (召集當日)		△四〇一	昭和十二年一月三十日		一
同年同月二十六日		△二二	同年二月九日		一
同年同月二十七日		二	同年同月十五日		一
昭和十二年一月四日		一	同年同月二十三日		△一
同年同月十九日		△	同年三月二日		△一
同年同月二十日		二	同年同月十二日		△一
同年同月二十一日		八	同年同月二十二日		二
同年同月二十五日		一	計		△四五四 一五五
同年同月二十九日		一			

(備考)

- 一、召集當日職員一名ナリ
- 一、△印ヲ附シタルハ繰上補充當選議員ノ應召ヲ示ス
- 一、召集ニ應セザリシ者ハ久原房之助君ナリ

本期議會ニ於テ請暇ヲ爲シタル者八十一名アリ
 請暇日數ニ依リ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

請暇日數表

日	數	人	員	日	數	人	員
一日	間		二二	五日	間		九
二日	間		二二	六日	間		一七
三日	間		二六	七日	間		七
四日	間		一三				
延人員							
延日數							
一人平均							
							五日弱
							三八九
							一一四

(備考) 本表外忌引七日間ノ者一名アリ

附錄 第一 議員

本期議會ニ於ケル議員ノ控室左ノ如シ

第一乃至第六及第十九控室	立憲民政黨
第七乃至第十一、第十七及第十八控室	立憲政友會
第十二控室	昭和會
第十三控室	第二控室
第十四控室	社會大衆黨
第十五控室	東方會
第十六控室	國民同盟及無所屬

第二 國務大臣及政府委員

本期議會ニ於ケル國務大臣及政府委員ノ氏名左ノ如シ
國務大臣(昭和十二年二月二日辭職)

內閣總理大臣	廣田弘毅君
海軍大臣	永野修身君
陸軍大臣	寺內壽一君
司法大臣	林 賴三郎君
大藏大臣	馬場 鑌一君
鐵道大臣	前田米藏君
內務大臣	潮 惠之輔君
農林大臣	島田 俊雄君
逓信大臣	賴母木桂吉君
拓務大臣	永田秀次郎君
文部大臣	平生 鈺三郎君

國務大臣(昭和十二年二月二日任命)

商工大臣	小川郷太郎君	
外務大臣	有田八郎君	
內閣總理大臣	林銑十郎君	
兼外務大臣	兼文部大臣	山崎達之輔君
農林大臣	兼遞信大臣	伯爵 兒玉秀雄君
遞信大臣	海軍大臣	米内光政君
海軍大臣	陸軍大臣	中村孝太郎君
陸軍大臣	司法大臣	鹽野季彦君
司法大臣	兼商工大臣	伍堂卓雄君
兼鐵道大臣	兼藏務大臣	河原田稼吉君
兼拓務大臣	陸軍大臣	結城豊太郎君
陸軍大臣	外務大臣	杉山元君
外務大臣		佐藤尙武君

政府委員

政府委員

內閣書記官長	藤沼庄平君
內閣書記官	大橋八郎君
兼內閣調查局長	飯沼一省君
內閣紀元二千六百年祝典事務局局長	桑原幹根君
內閣東北局長	次田大三郎君
法制局長	川越丈雄君
法制局長	樋貝詮三君
兼內閣恩給局長	森山銳一君
法制局參事官	石渡莊太郎君
內閣調查局調查官	松井春生君
資源局長	青木一男君
對滿事務局次長	橫溝光暉君
情報委員會事務官	高瀬武寧君
關東局事務官	

(昭和十二年二月四日任) 大藏省主稅局長

(昭和十二年二月十三日被仰付)

(昭和十二年二月二日依願免本官)

(昭和十二年一月十八日被仰付)

(昭和十二年二月十三日被仰付)

(昭和十二年二月二日依願免本官)

(昭和十二年二月四日依願免本官) 外務政務次官 猪野毛利榮君
 (昭和十二年二月十三日被仰付) 外務次官 堀内謙介君
 (昭和十二年二月四日依願免本官) 外務參與官 松山常次郎君
 (昭和十二年一月二十七日任特命全權公使) 外務省東亞局長 桑島主計君
 外務省歐亞局長 東郷茂德君
 外務省亞米利加局長 岡本季正君
 外務省通商局長 松嶋鹿夫君
 外務省條約局長 栗山茂君
 外務省情報部長 天羽英二君
 外務省文化事業部長 岡田兼一君
 外務書記官 森島守人君
 外務書記官 土田豐君

內務省所管事務政府委員
 (昭和十二年二月四日依願免本官) 內務政務次官子爵鍋島直繩君
 (昭和十二年二月十三日被仰付) 內務次官 篠原英太郎君

附錄 第二 國務大臣及政府委員

(昭和十二年二月四日依願免本官) 內務參與官男爵肝付兼英君
 (昭和十二年二月十日任東京府知事) 內務省神社局長 館哲二君
 (昭和十二年二月十三日被仰付) 內務省神社局長 兒玉九一君
 (昭和十二年二月十日任內務省警保局長) 內務省地方局長 大村清一君
 (昭和十二年二月十三日被仰付) 內務省地方局長 坂千秋君
 (昭和十二年二月十日依願免本官) 內務省警保局長 萱場軍藏君
 (昭和十二年二月十三日被仰付) 內務省警保局長 大村清一君
 (昭和十二年二月十日任長崎縣知事) 內務省土木局長 岡田文秀君
 (昭和十二年二月十三日被仰付) 內務省土木局長 赤松小寅君
 內務省衛生局長 挾間茂君
 內務書記官 藤原孝夫君
 內務書記官 加藤於菟丸君
 社會局長官 廣瀬久忠君
 社會局長 山崎巖君
 社會局部長 清水玄君
 (昭和十二年三月一日被仰付)

(同)

社會局 部長

成田一郎君

北海道廳 長官

池田清君

大藏省所管事務政府委員

(昭和十二年二月四日依願免本官)

大藏政務次官

中島彌團次君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

大藏次官

賀屋興宣君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

大藏參與官

丹下茂十郎君

(昭和十二年二月四日任造幣局長)

大藏省主計局長

廣瀬豐作君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

大藏省主稅局長

山田龍雄君

(昭和十二年二月二日任大藏次官)

大藏省理財局長

石渡莊太郎君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

大藏省理財局長

賀屋興宣君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

大藏省銀行局長

關原忠三君

大藏省外國為替管理部長

和田正彥君

大藏書記官

上山英三君

大藏書記官

深田養一君

大藏書記官

菅村道太郎君

(昭和十二年一月十八日被仰付)

大藏書記官

入江昂君

(同)

大藏書記官

谷口恒二君

(同)

大藏書記官

尾關將玄君

(昭和十二年二月二十三日被仰付)

大藏書記官

木內四郎君

(昭和十二年一月十八日被仰付)

大藏書記官

安藤明道君

(昭和十二年二月四日任大藏省理財局長)

預金部長

松隈秀雄君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

預金部長

關原忠三君

營繕管財局理事

入間野武雄君

(昭和十二年三月二日被仰付)

專賣局長

江口順一君

陸軍省所管事務政府委員

專賣局長

荒井誠一郎君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

陸軍政務次官

花田政春君

陸軍次官

立見豐丸君

陸軍中將

梅津美治郎君

磯谷廉介君

昭和十二年勅令第十二號ニ依リ
同年二月十五日官名陸軍主計中
將ト變更

九三二

陸軍主計總監 平手勘次郎君

陸軍省法務局長 大山文雄君

(昭和十二年一月十八日被仰付)

陸軍少將 山脇正隆君

(同)

陸軍少將 阿南惟幾君

(昭和十二年三月一日被仰付)

陸軍少將 後宮淳君

昭和十二年勅令第十二號ニ依リ
同年二月十五日官名陸軍主計大
佐ト變更

陸軍一等主計正 栗橋保正君

(昭和十二年一月十八日被仰付)

陸軍騎兵大佐 石本寅三君

(昭和十二年三月一日被仰付)

陸軍輜重兵大佐 柴山兼四郎君

海軍省所管事務政府委員

海軍次官 山本五十六君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

海軍參與官 永田善三郎君

海軍主計中將 村上春一君

海軍中將 豐田副武君

海軍主計大佐 山本丑之助君

司法省所管事務政府委員

(昭和十二年二月四日依願免本官)

司法政務次官 野田俊作君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

司法次官 長島毅君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

司法參與官子爵秋月種英君

(昭和十二年二月八日任檢事)

司法省民事局長 大森洪太君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

司法省刑事局長 岩村通世君

(昭和十二年二月二十六日被仰付)

司法省行刑局長 松阪廣政君

司法書記官 瀧川秀雄君

司法書記官 齋藤直一君

文部省所管事務政府委員

(昭和十二年二月四日依願免本官)

文部政務次官 山本厚三君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

文部次官 河原春作君

(昭和十一年十二月二十八日
依願免本官)

文部參與官 作田高太郎君

(昭和十二年一月十八日被仰付昭
和十二年二月四日依願免本官)

文部參與官 武知勇記君

文部省專門學務局長 伊東延吉君

兼文部省思想局長

文部省普通學務局長 菊池豐三郎君

農林省所管事務政府委員

農林政務次官 山崎 猛君

農林參事官 長瀬 貞一君

農林省農務局長 戶田 保忠君

農林省山林局長 村上 龍太郎君

農林省水產局長 原 辰二君

農林省畜產局長 細川 利壽君

農林省蠶絲局長 井野 碩哉君

農林省米穀局長 荷見 安君

文部省實業學務局長 藤野 三惠君

文部省社會教育局長 男爵 山川 建君

文部省圖書局長 石井 忠純君

文部省宗教局長 高田 休廣君

文部省書記官 服部 纘君

農林省經濟更生部長 小平 權一君

農林書記官 周 東英雄君

農林書記官 湯河 元威君

馬政局次長 田淵 敬治君

農林省所管事務政府委員

商工政務次官 池田 秀雄君

商工次官 村瀬 直養君

商工參事官 寺島 權藏君

商工省商務局長 東 榮二君

商工省工務局長 小島 新一君

商工省鑛山局長 大貝 晴彦君

商工省貿易局長 新倉 利廣君

商工省保險局長 後藤 保清君

商工書記官 大島 永明君

商工書記官 牧 檜雄君

(昭和十二年三月二十二日被仰付)

商工書記官

酒井喜四君

(昭和十二年三月六日被仰付)

特許局長官

石井銀彌君

臨時產業合理局事務官

辻 謹吾君

逓信省所管事務政府委員

(昭和十二年二月四日依願免本官)

逓信政務次官

前田房之助君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

逓信工次官

富安謙次君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

逓信參與官

多田滿長君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

逓信省郵務局長

伊勢谷次郎君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

逓信省電務局長

平澤 要君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

逓信省工務局長

梶井 剛君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

逓信省電氣局長

大和田悌二君

(昭和十二年三月一日被仰付)

逓信省管船局長

小野 猛君

(昭和十二年三月一日被仰付)

逓信省航空局長

片岡直道君

(昭和十二年一月十八日被仰付)

逓信省經理局長

進藤誠一君

(昭和十二年一月十八日被仰付)

逓信書記官

有田喜一君

貯金局長

武田泰郎君

簡易保險局長

小松 茂君

鐵道省所管事務政府委員

(昭和十二年二月四日依願免本官)

鐵道政務次官

田子一民君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

鐵道次官

喜安健次郎君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

鐵道參與官

星島二郎君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

鐵道省監督局長

前田二穂君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

鐵道省運輸局長

新井堯爾君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

鐵道省建設局長

河原直文君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

鐵道省工務局長

山田隆二君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

鐵道省經理局長

工藤義男君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

拓務省所管事務政府委員

(昭和十二年二月四日依願免本官)

拓務政務次官

男爵 稻田昌植君

(昭和十二年二月十三日被仰付)

拓務次官

入江海平君

(昭和十二年二月四日依願免本官)

拓務參與官

林 路一君

豊田 收君

岸田正記君補
永山忠則君補
窪井義道君補

池崎忠孝君補
江藤源九郎君補
今井新造君補

第二部

平川松太郎君補
宮澤胤勇君補
平川松太郎君補
牧山耕藏君補

田島勝太郎君補
龜井實一郎君補
淺沼稻次郎君補

篠原陸朗君補
風見宣君補
伊豆富人君補

篠原義政君補

第三部

末松借一郎君補
岡本實太郎君補

齋藤隆夫君補
荒川五郎君補

宮澤胤勇君補
櫻井兵五郎君補
東武君補

渡邊鏡藏君補
勝田永吉君補

第四部

工藤鐵男君補
芦田均君補
中村嘉壽君補
芦田均君補
木本貞太郎君補

東郷實君補
西岡竹次郎君補
中村嘉壽君補

川口義久君補

武田徳三郎君補

第五部

勝正憲君補
太田正孝君補

比佐昌平君補
若宮貞夫君補
八角三郎君補

高田松平君補
村上國吉君補
高田松平君補
平野力三君補

一宮房治郎君補

第六部

松田竹千代君補
西村茂生君補

津原武君補
高橋熊次郎君補

木村正義君補
野中徹也君補

船田中君補

第七部

矢野庄太郎君補
立川平君補

小坂梅吉君補
今井健彦君補
河野一郎君補

川崎克君補
角源泉君補
川崎源泉君補
生田和平君補

岡崎久次郎君補
岡崎久次郎君補

第八部

山枅儀重君補
金井正夫君補

豊田豊吉君補
杉山元治郎君補
川俣清音君補

佐藤正君補
北勝太郎君補
池崎忠孝君補

志賀和多利君補

第九部

附録 第三委員

中村三之丞君 山道襄一君補闕 尾崎重美君 古屋慶隆君 牧野良三君
加藤録五郎君 八田宗吉君 由谷義治君

決算委員

委員長 胎中 楠右衛門君

理事 福田關次郎君 理事 林平馬君 理事 西田郁平君

理事 菅野善右衛門君 理事 佐保畢雄君

第一部

片岡恒一君 小谷節夫君 岩瀬亮君 小野廉君

宮本雄一郎君

第二部

中村梅吉君 島田七郎右衛門君 林讓治君 佐保畢雄君

菅野善右衛門君

第三部

中野邦一君補闕 太田信治郎君 西田郁平君 服部教一君 岡田春夫君

横川重次君補闕 沖藏君

第四部

福田關次郎君 北原阿智之助君 土屋寛君 駒井重次君

笠井重治君補闕 前田幸作君

第五部

渡邊玉三郎君 野田武夫君 胎中楠右衛門君 尾崎天風君

山田又司君

第六部

清寛君 林平馬君 古河和一郎君 陣軍吉君

塚本重藏君

第七部

尾崎重美君 田中好君 川島正次郎君 山口久吉君

藤原敏雄君補闕 鈴木正吾君

第八部

升田憲元君 愛野時一郎君 木村淺七君 末次虎太郎君

附錄 第三委員

三浦虎雄君

第九部

喜多壯一郎君

佐藤與一君

西方利馬君補闕
西川貞一君

西川貞一君補闕
中原誠司君其ノ補闕
江藤源九郎君

山崎銀二君

請願委員

委員長

中亥歲男君

理事

高野喜六君補闕
大島寅吉君

理事

本多眞喜雄君

理事

長野高一君

理事

坪山德彌君

理事

永田良吉君

第一部

中川重春君

田中彌助君

藤山貞吉君補闕
福井甚三君

國光五郎君

三宅正一君

第二部

高島兵吉君補闕
小林三郎君其ノ補闕

鍋木忠正君

大門恒作君

本多眞喜雄君

湊季松君補闕
中野邦一君

森幸太郎君

第三部

伊藤東一郎君

長井源君

勝又春一君

前田幸作君補闕
笠井重治君

伊豆富人君補闕
佐藤啓君

第四部

古藤増治郎君

橋本祐幸君

堀内良平君

田尻藤四郎君

小笠原八十美君

第五部

中亥歲男君

長野高一君

高野喜六君補闕
仲井問宗一君

永田良吉君

渡邊泰邦君

第六部

植村嘉三郎君

古田喜三太君

中村不二男君

三鬼鑑太郎君

小山亮君

第七部

高橋守平君

田中源君

加藤賢司君

佐々木家壽治君

熊谷五右衛門君

附錄 第三 委員

第八部

村松久義君 木村吉太郎君 坪山德彌君 山村豐次郎君

第九部

深澤吉平君補闕 岡田伊太郎君 倉成庄八郎君 山口忠五郎君
大島寅吉君 佐竹晴記君

懲罰委員

委員長 戶澤民十郎君

理事 服部英明君 理事 本田英作君 理事 小林 錡君

第一部

服部英明君 中井一夫君

馬場元治君補闕
大石大君其補闕 杉浦武雄君

第二部

立川太郎君補闕 篠原義政君 花城永渡君 南條德男君

第三部

內藤正剛君 松木弘君 宮澤清作君

第四部

戶澤民十郎君 松井郡治君補闕 中山福藏君 黒田壽男君

第五部

小久江美代吉君 八並武治君 永山忠則君補闕 井阪豊光君

第六部

沖藤君補闕 藤生安太郎君 小林 錡君 椎尾辨匡君補闕 小山 亮君

第七部

木下 信君 手代木隆吉君 高橋泰雄君

第八部

本田英作君 池田清秋君 野田文一郎君補闕 原 淳一郎君

第九部

原夫太郎君補闕 中村梅吉君 宮澤裕君補闕 中野治介君 伊禮 肇君

建議委員

委員長 飯村五郎君

理事 青木亮實君補闕 植村嘉三郎君 理事 岡田喜久治君 理事 中村又一君

理事 鈴木辰三郎君 理事 木村作次郎君

第一部

鈴木康太郎君 松田喜三郎君 菊池良一君

栗山博君補闕
仲西三良君其補闕
氏家清君

第二部

岡田喜久治君 淺川浩君 森兼道君

川崎末五郎君

第三部

中村又一君 佐澤定二君 角源泉君補闕
吉植庄亮君 長野長廣君 石川定辰君

第四部

木村作次郎君 石坂養平君 肥田琢司君 盛島明長君

第五部

日比野民平君 坂下仙一郎君 生方大吉君 田中万逸君補闕
大島寅吉君

鶴 惣市君

第六部

田村實君補闕
天辰正 守君 山田佐一君 飯村五郎君 松本治一郎君
今井新造君補闕
椎尾辨匡君

第七部

藤井達二君 鈴木辰三郎君 岩元榮次郎君 片山秀太郎君
鈴木正吾君補闕
藤原敏捷君

第八部

山本象吉君 青木亮實君補闕 植村嘉三郎君 齋藤直橘君 木村小左衛門君
菊池長右衛門君

第九部

長尾秀太郎君 服部米次郎君 今給黎誠吾君 川村保太郎君
北勝太郎君補闕
田中耕君

石坂 豊一君 岸田 正記君
河上丈太郎君補闕 塚本重藏君其ノ補闕
河野 密君 加藤 勘十君

森 肇君 水谷長三郎君
伊禮 肇君 渡邊 泰邦君

關稅定率法中改正法律案(政府提出)外四件委員

昭和七年法律第四號中改正法律案(輸入税ノ從量税率ニ關スル件)(政府提出)
大正十四年法律第五十一號中改正法律案(關東州ノ生産

ニ係ル物品ノ輸入税免除等ニ關スル件)(政府提出)
鐵ノ輸入税免除ニ關スル法律案(政府提出)
輸出統制稅法案(政府提出)

委員長 倉元 要一君

理事 眞鍋勝君補闕 中山福藏君其ノ補闕 西村金三郎君其ノ補闕
理事 中 亥歲男君 理事 原 淳一郎君 理事 上田 孝吉君
理事 田尻 生五君

眞鍋勝君補闕 川橋豐治君其ノ補闕 松田竹千代君其ノ補闕 川橋豐治君其ノ補闕 森下 國雄君
飯塚 春太郎君 渡邊玉三郎君補闕 中 亥歲男君
片山 一男君 朝倉 每人君
岩 瀨 大亮君 門田 新松君 倉元 要一君

西村金三郎君補闕 小山倉之助君 松本忠雄君補闕 岡崎久次郎君其ノ補闕 內藤 久一郎君
柴安新九郎君補闕 中山福藏君其ノ補闕 高木 象太郎君
一柳 仲次郎君 柏木清治君補闕 坂下 仙一郎君 松岡俊三君其ノ補闕 松山 常次郎君

藤山貞吉君補闕

大石 倫 治君

末次 虎太郎君

田尻 生五君

寺田市正君補闕

玉置 吉之丞君

上田 孝吉君

窪井 義道君

中井 一夫君

岡 幸三郎君

高岡大輔君補闕 伊豆富人君其ノ補闕 高岡 大輔君

田中養達君補闕 馬場元治君其ノ補闕 渡邊泰邦君其ノ補闕 大石大君其ノ補闕 渡邊 泰邦君

塚本 重藏君

軍事救護法中改正法律案(政府提出)外三件委員

北海道舊土人保護法中改正法律案(政府提出)
救護法中改正法律案(政府提出)

母子保護法案(政府提出)

委員長 川島 正次郎君

理事 手代木隆吉君補闕 岡 田 春 夫君 理事 八角 三郎君

添田 敬一郎君補闕

手代木隆吉君補闕

岡田喜久治君補闕

青木亮實君補闕

堀内 良平君

岡田 春 夫君

吉田 喜三 太君

高木 象太郎君

武知勇記君補闕

寺島權藏君補闕

古藤 增治郎君

中崎俊秀君補闕 齋 藤 直 橘君

川島 正次郎君

坪山德彌君補闕

中村 又一君

服部 米次郎君

犬 養 健君

石坂 豐一君

八角 三郎君

林 路 一君

松本 治一郎君

南條德男君補闕 片山 秀太郎君

伊東 岩男君

北勝太郎君補闕 前田幸作君其ノ補闕 椎 尾 辨 匡君

郵便法中改正法律案(政府提出)委員

- 委員長 永田 良 吉君
 理事 清寛君補闕 眞鍋 儀十君 理事 紅 露 昭君
 大島 寅 吉君 多田 滿 長君
 角 源 泉君 永田 良 吉君
 宮澤清作君補闕
 志賀 和多利君
 清寛君補闕 昭君
 牧山 耕 藏君
 綾部健太郎君補闕
 西方 利 馬君
 吉田喜三太君補闕
 眞鍋 儀十君
 紅 露 昭君

絲價安定施設法案(政府提出)外五件委員

絲價安定施設特別會計法案(政府提出)
 漁船保險法案(政府提出)
 漁船再保險特別會計法案(政府提出)

森林火災國營保險法案(政府提出)
 森林火災保險特別會計法案(政府提出)

- 委員長 紫安 新九郎君
 理事 小山 邦太郎君 理事 飯田 助 夫君 理事 橫川 重 次君
 紫安 新九郎君 小山 邦太郎君 飯田 助 夫君
 小山倉之助君補闕 百瀬渡君補闕 最上政三君補闕 野田 文一 郎君
 日比野 民平君 多田 滿 長君 高木 象 太郎君 栗山博君補闕 松 尾 四 郎君
 篠原義政君補闕 小高長三郎君其ノ補闕 篠原義政君其ノ補闕 助川啓四郎君補闕 森 幸太郎君
 橫川 重 次君 登坂 良 作君 小 林 錡君

瀧川嘉助君補闕

生田和平君補闕

- 東 條 貞君 益 谷 秀 次君 田 中 彌 助君
 山 崎 釵 二君 平 野 力 三君

青木精一君補闕
今給黎誠吾君

アルコール專賣法案(政府提出)外一件委員

揮發油及アルコール混用法案(政府提出)

- 委員長 平川 松太郎君
 理事 野田 武 夫君 理事 信太儀右衛門君 理事 岩 瀬 亮君
 松本 忠 雄君 野田 武 夫君 信太儀右衛門君 中島 彌 團 次君
 平川 松太郎君 篠原 陸 朗君 菊池 良 一君 山本 厚 三君
 岩 瀬 亮君 大石 倫 治君 東 條 貞君 大本 貞 太郎君
 三善 信 房君 倉成 庄 八郎君 寺田 市 正君 今給黎誠吾君
 佐竹 晴 記君 福 田 耕 君

一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ヨリ爲ス繰入金ニ關スル法律案(政府提出)外十六件委員

對支文化事業特別會計法中改正法律案(政府提出)
 一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲大藏省預金部特別會計ヨ
 リ爲ス繰入金ニ關スル法律案(政府提出)
 恩給法中改正法律案(政府提出)

恩給金庫法案(政府提出)
 會計検査院法中改正法律案(政府提出)
 昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ
 關スル法律案(政府提出)